

しんにほんごの きそ

新日语基础教程

教师用书



財団法人海外技術者研修協会 编著



36
031-2

外语教学与研究出版社

418020

しんにほんごのきそ2
新日语基础教程2

教师用书

财団法人 海外技术者研修协会 编著



00418020



外语教学与研究出版社

(京)新登字 155 号

京权图字 01-98-1642

图书在版编目(CIP)数据

新日语基础教程(2)教师用书/(日)财团法人海外技术者研修协会编著. -北京:外语教学与研究出版社, 1998.8

ISBN 7-5600-1487-9

I. 新… II. 财… III. 日语-教学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(98)第 20988 号

新日本語の基礎 2 (教師用指導書)

3A Corporation

Shoei Bldg., 6-3, Sarugaku-cho 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101, Japan

© 1994 by the Association for Overseas Technical Scholarship (AOTS)

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior permission of the copyright owner.

First published in Japan by 3A Corporation 1994

只限在中华人民共和国境内销售 不供出口

本书封面贴有 AOTS 的防伪标签,无标签者为盗版,不得销售

新日语基础教程 2

教师用书

财团法人 海外技术者研修协会 编著

* * *

外语教学与研究出版社出版发行

(北京西三环北路 19 号)

北京外国语大学印刷厂印刷

新华书店总店北京发行所经销

开本 787×1092 1/16 12.5 印张

1998 年 9 月第 1 版 1999 年 1 月第 2 次印刷

印数: 5001—15000 册

* * *

ISBN 7-5600-1487-9

G·630

定价: 13.90 元

はじめに

この本は「新日本語の基礎Ⅱ」の教師用指導書です。財団法人海外技術者研修協会
で日本語教育に携わる者の利用に供すると共に、「新日本語の基礎Ⅱ」を使って日本語
を教えられている方々の指導の参考にしていただくために作成しました。

「新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ」は技術習得を目的に来日した研修生のために、当協会が
作成した初級日本語教科書です。Ⅰは初級前半、Ⅱは初級後半レベルで学習時間は共
に約100時間となっています。母語の異なる学習者を対象とするため、授業では教師
はできるだけ媒介語を使わずに、日本語を話す・聞く能力を高めることを中心に指導
しています。指導にあたっては、各種の視聴覚教材や教育機器を活用し、また、学習
者のためには各国語訳、文法解説書を用意し、効率よく学習成果をあげる工夫をして
います。この教師用指導書はこのような事情を背景としてまとめたものです。

「新日本語の基礎Ⅰ」では助詞や疑問詞の用法、動詞・形容詞の活用など基礎的文
法知識を学ばせ、初歩的な日常会話ができることを目標としていますが、「新日本語
の基礎Ⅱ」では文法学習を更に拡充し、場面や状況、人間関係を考慮しながら適切な
日本語を用いて日常会話ができることを目標としています。従って語彙の面でも具体
的な生活語彙だけでなく、抽象的な語彙の学習段階へと広がりを見せています。

このため「新日本語の基礎Ⅱ」を教える段階では、何を、どこまで、どのように教
えたらよいか、経験のある教師でも迷うところです。一方この段階での学習は、中級
レベルの学習に円滑につなげる上で重要な役割を担っています。

そこでこの本では、その課の学習項目の意味・用法の範囲と文法的な解説をすると
共に、具体的な導入例を挙げました。更に指導にあたっての留意点などをまとめまし
た。この他、クラスレベルに応じて学習内容を発展させるための参考例も挙げました。

この本が「新日本語の基礎Ⅱ」をもとに授業内容、方法を工夫、研究されている方々
の一助になれば幸いです。

最後に、今後とも関係者のご助言、ご指導をいただきながら、よりよい授業を行う
ための努力を続けていきたいと思っております。

1994年6月

財団法人 海外技術者研修協会

目 次

	ページ		ページ
はじめに		第32課	53
本書の利用の手引き	1	～た／ないほうがいいです	
第26課	5	～でしょう	
～んです		～かもしれません	
～んですが、		第33課	60
～てくださいませんか		命令形	
～たらいいですか		禁止形	
第27課	13	～てくれ	
～が可能動詞		～と言っていました	
まだ～ません		第34課	70
～しか～ません		～とおりに	
～は～、～は～		～あとで	
見えます、聞こえます		～て／ないで	
できます		～ないで	
第28課	22	第35課	77
～ながら		～ば	
～ています (習慣的動作)		～ければ	
～し		～なら	
第29課	30	第36課	84
～が～ています (結果の状態)		～ように	
～は～ています		～ようになりました	
～てしまいました		～ようにしてください	
第30課	36	第37課	92
～が～てあります		～は～に～ (ら) れます	
～は～に～てあります		～は～に～を～ (ら) れます	
～ておきます		非情の受身	
第31課	44	第38課	98
～ (よ) う		～のは～です	
～ (よ) うと思っています		～のが～です	
まだ～ていません		～のを忘れました／知っています	
～つもりです			
～予定です			

第39課..... 105

～て
～くて
～で
～ので

第40課..... 112

疑問詞～か、～
～かどうか、～
～てみます

第41課..... 119

～を { いただきます
 くださいます
 やります
～て { いただきます
 くださいます
 やります
～ていただけませんか

第42課..... 127

～ために (目的)
～ (の) に

第43課..... 133

～そうです (様態)
～て来ます

第44課..... 139

～すぎます
～やすい／にくいです
～く／にします

第45課..... 146

～場合は
～のに (逆説)

第46課..... 152

～ところです
～ばかりです

第47課..... 158

～そうです (伝聞)
～ようです

第48課..... 164

～は～を～ (さ) せます
～は～に～を～ (さ) せます
～ (さ) せていただけませんか

第49課..... 172

尊敬語
～ (ら) れます
お～になります
特別な尊敬動詞

第50課..... 180

謙讓語
お／ご～します
特別な謙讓動詞

学習者にとって

まぎらわしい表現・文型..... 188

索引..... 189

本書の利用の手引き

この本の各課は「指導項目」「指導項目解説」「会話」の三つに大きく分かります。各々の項目の構成と内容は以下の通りです。

I 指導項目

その課で指導すべき主な学習項目を教科書の提出順に並べ、それらが教科書のどこで扱われているかを表にまとめたものです。表中、文は文型、例は例文、A、B、Cはそれぞれ練習A、練習B、練習Cを示し、横に辿れば学習項目の練習の流れがつかめるようになっています。

II 指導項目解説

課の構成が一つの大きな文法項目でまとまっている場合（第26課「～んです」、第27課「可能表現」、第37課「受身」、第41課「授受」、第49課「尊敬」、第50課「謙譲」など）は、はじめにその課の内容を総括的に解説しました。

[指導内容]

指導項目に挙げた文型の中には複数の意味、用法を持つものがあります。その中から初級のこの段階で取り上げる範囲を設定しました。従ってここでは指導項目の文型が持つ意味を網羅的に解説することは避け、その課で指導すべき意味・用法の範囲とそれに対する文法的な解説をするにとどめました。

[導入例]

学習者がそれまでに身につけた日本語能力、文法的知識を土台に、この課の学習内容を理解させるための導入例を具体的に紹介しました。その際、その表現が使われる場面や状況、人間関係などの理解に役立つ絵を多く掲載しました。

また、工夫が必要な板書に限って、その例を示したほか、文型の定着のための基礎的な練習方法や順序についても例示しました。

導入の方法は一定のものでなく、学習者のさまざまな背景や関心、その時々トピックなどを考慮する必要があります。これらの導入例を参考に各自創意工夫されることを望みます。

[指導留意点]

教育現場での経験を基に、よりよい授業の進め方、学習者の陥りやすい誤り、学習者から質問の出やすい点など、教える際に留意すべき点を挙げました。また、類似表現との違いやその課で扱わない意味・用法についての補足をしました。

★発展指導

指導項目に挙げた日本語の表現意図が理解でき、かつ練習A・B・Cのような文の形の定着を重視した練習がきちんとできるようになったら、それまでに身につけた日本語力を使い、より発展した練習をさせることが望めます。ここではそのヒントを紹介し、発展学習を工夫する際の参考としました。これらの中には授業内で短時間でできるものもあれば、宿題に課したり、復習時間に充てたほうがよいものもあります。また、教室内だけでなく、教室外の活動をさせるものなどもあります。何を、いつ、どのように授業に取り入れて行うかは、クラスの授業進度、学習者の能力に照らして、教師が判断する必要があります。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

その会話を学習したら、何ができるようになるか、その会話学習で目指す到達目標を示しました。

[場 面]

その会話の場面、状況などを簡潔に要約しました。

[指導項目]

その会話の中で教えるべき学習項目の解説と留意点を簡単にまとめました。

★発展指導

教科書の会話の内容がよく理解でき、きちんと発話できるようになったら、それを発展させる練習をすることが望めます。

会話で学習した談話の流れを応用し、類似した場面、状況での発話練習をしたり、関連する話題についての言語活動をさせたりする例を参考として挙げました。

どのような方法で会話の内容を発展させて指導するかは、クラスのレベル、個々

の学習者の能力を考慮して、教師が判断する必要があります。

なお、『新日本語の基礎Ⅱ』を用いて日本語を指導するにあたっては、教科書の内容に準拠したカセットテープ、会話ビデオ、絵教材などが用意されています。

この本では〔会話〕の導入の仕方については触れませんでした。当協会では会話ビデオを導入に利用して、その課の終わりに会話を学習させることにしています。

最後に、『新日本語の基礎Ⅱ』（全25課）の構成、内容（文型、例文、会話、練習、問題、復習、まとめ）及びその使い方については、教科書の凡例を参照していただきたいと思います。

第 26 課

I 指導項目

1. ～んです	文1	例1・2・3	A 1・2・3・4	B 1・2・3	C 1・2
2. ～んですが、 ～てくさいませんか	文2	例4	A 5	B 4	C 3
3. ～たらいいですか		例5	A 6	B 5	C 4

II 指導項目解説

【新日本語の基礎 I】（以下『新基礎 I』とする）では「デパートへ行きます」「頭が痛いです」のように客観的な事実を述べる言い方を中心に学習した。この課では話し言葉でよく用いられる「～んです」の意味と用法を教える。「どこへ行くんですか」「頭が痛いんです」のように「～んです」を用いると、相手に説明を要求したり、事情や理由を説明したりするニュアンスが付加されることを理解させる。

また「～んですが」の状況説明を前置きに用いた丁寧な依頼の表現「～てくださいませんか」と、助言や指示を求める表現「～たらいいですか」を関連的に教える。

1. かぜをひいたんです

[指導内容]

「～んです」の用法にはいろいろあるが、この課では以下の用法を中心に教える。

- ① 話し手が相手の何かに注目して興味や関心を向けた場合や、驚き、不審などの感情を抱いたときに用いられる。（例文1）
- ② 目前の事実として表れている事柄の背後にある原因、理由やそうなるに至った事情などを問うのに用いられる。この場合、多くは理由を尋ねる疑問詞「どうして」や事態の説明を求める「どうした」などとともによく用いられる。
またこのような質問に対し、理由を説明するのに用いられる。（例文2）
- ③ 話し手が今述べたことに対して、そのような発言をした理由、説明を補足するのに用いられる。（例文3）

[導入例]

①の導入

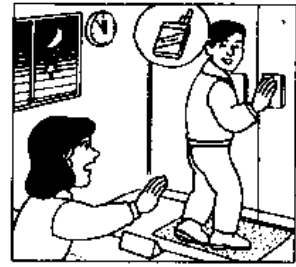
T 「リーさんは夜遅く出かけます。

受付の人はこれを見て、こう聞きます。

『どこへ行くんですか。』 (不審そうな表情と声で)

T (リーさんの役になって、何でもないと顔で)

「ちょっとたばこを買いに行きます。」



リーさんのいつもとは違った行動を不審に思っ、て、「～んです」を用いて、その訳を求めようとしたことを説明する。

学習者の持ち物に関心を示して質問する。

T 「いい時計ですね。どこで買ったんですか。」

S 「新宿で買いました。」

T 「そうですか。わたしもこんな時計が欲しいです。」

そんないい時計をどこで買ったのか聞きたくて、質問に「～んです」を用いたことを理解させる。



T 「日本語が上手ですね。どのくらい勉強したんですか。」

S 「3か月勉強しました。」

T 「そうですか。日本へ何の勉強に来たんですか。」

S 「電気の勉強に来ました。」

このように「～んです」は相手に説明を聞きたいときによく使われることを説明する。

「～んです」は「普通形」に「んです」を付けて作ること、形は普通形を用いるが、「～んです」と「です」で終わることからわかるように、丁寧な話し言葉であることを理解させる。

[板書]

どこへ 行く んですか。
どのくらい 勉強した
[普通形] + んです

このあと、実際にその形が言えるように動詞の語彙単位の変換練習をする。形がスムーズに言えるようになったら、「いつ日本へ来ましたか→いつ日本へ来たんですか。」のように疑問詞を用いた疑問文を「～んです」体に変換する練習を行う。そのあと「いい時計ですね。どこで買いましたか→いい時計ですね。どこで買ったんですか。」のような文の変換を行う。

このあとQAの練習をするが、その際、単に事実を答える場合は「～んです」を用いて答えないように指導する。

②の導入

T「リーさんはいつもたくさんごはんを食べます。

でもきょうはあまり食べません。おかしいです。リーさんに何と聞きますか。」から

S「どうしてごはんを食べないんですか。」

T「リーさんは何と言いますか。」

S「おなかが痛いです。」は×。



この場合は食べない理由を説明するために「～んです」を用いることを説明する。

S「おなかが痛いんです。」が出ればよい。

また次に魚を食べない人に

T「どうして魚を食べないんですか。」

S「嫌いです。」は×。

「嫌いなんです。」を導く。



い形容詞・な形容詞・名詞も「普通形」に「～んです」を付ければよいが、な形容詞と名詞の現在形だけは例外で「～なんです」になることによく注意させる。

練習は始めにい形容詞・な形容詞・名詞の語彙単位の変換練習を行う。次に「ど

うして」を用いて理由を尋ねる質問文を作る練習をする。そのあと答え方の練習をする。このとき病気表現を多く使うと理解させやすい。それから「～んです」を用いたQA練習を行う。

③の導入

日常生活の行動を聞いて、その行動をとらない理由の説明を補足させて導入する。

T 「きのうの晩テレビを見ましたか。」

S 「いいえ、見ませんでした。」

T 「どうして見なかったんですか。」

S 「時間がなかったんです。」

Sの答え二つを結合して

「~~いいえ、見ませんでした。~~時間がなかったんです。」を導く。

確認のため、他の質問をして次のように答えられれば、練習に移る。

T 「今晚どこか行きますか。」

S 「~~いいえ、行きません。~~宿題がたくさんあるんです。」

2. 道がわからないんですが、教えてくださいませんか

[指導内容]

ほかの人に何かを依頼するとき、依頼する経緯、状況を説明するために、前置きとして用いられる「～んですが」の用法を教える。後件には依頼のほか、勧誘、許可などの表現もよく用いられるが、ここでは相手の意向を伺う形をとったより丁寧な依頼表現の「～てくださいませんか」を中心に教える。

[導入例]

知らない人や目上の人などに何かを依頼する場面を設定する。

T 「ワープロの使い方がわかりません。

会社の人に何と言って教えてもらいますか。」

S 「ワープロの使い方を教えてください。」から

T 「~~ワープロの使い方がわからないんですが、~~
~~教えてくださいませんか。~~」を導く。



T 「一人で東京へ行きました。センターへ帰りたいですが、駅へ行く道がわかりません。日本人に何と聞きますか。」



S 「駅へ行く道がわからないんですが、教えてくださいませんか。」または

「駅へ行きたいんですが、道を教えてくださいませんか。」

このように言えればよい。

「～んですが」の役割、「が」は文をつなぐだけであること、「～てくださいませんか」は「～てください」より丁寧な依頼の表現であることを説明したあと、練習に移る。

最初に「道を教えてください→道を教えてくださいませんか。」のように依頼文だけの作り方を練習、そのあと2文を「～んですが、～てくださいませんか」の形に結合させる練習を行う。

3. 東京タワーへ行きたいんですが、どうやって行ったらいいですか

[指導内容]

「～たらいいですか」は話し手がなすべきこと、したほうがいいことについて、聞き手に助言や指示を求める表現である。「疑問詞～たらいいですか」の質問の形を中心に教える。

[導入例]

学習者に行きたい場所を尋ねる。

T 「暇だったら、どこへ行きたいですか。」

S 「東京タワーへ行きたいです。」

T 「東京タワーまでどうやって行きますか。」

S 「よくわかりません。」

T 「わたしはよく知っていますから、聞いてください。」

S 「東京タワーへ行きたいんですが、どうやって行きますか。」から、

「東京タワーへ行きたいんですが、どうやって行ったらいいですか。」を導く。

ほかの人にアドバイスを求めるときは、「行きます」を「行ったら」にして「い

いですか」を付けることを説明する。

T「東京タワーへ行くとき、何で行きますか。」

S「わかりません。何で行ったらいいですか。」

T「地下鉄で行きます。どこの駅で降りますか。」

S「わかりません。どこで降りたらいいですが。」



このように言えたら、練習に移る。練習はまず

「どうやって行きますか→どうやって行ったらいいですか。」

のように「疑問詞～たらいいですか」の変換練習を行う。

そのあと、「東京タワーへ行きたいです、どうやって行きますか」を「～んですが、～たらいいですか」の文に直す練習をする。答えは必ずしも「～たらいいです」を用いる必要はないので、適切な答えが出るように指導する。

[指導留意点]

- (1) 「～んです」の意味は学習者の母語に直接表れないこともあり、理解が難しい。この課ではまず基本的な意味・用法を理解させることを目標とする。「～んです」は非常によく使われるので、この課以降、必要に応じて積極的に使って慣れさせる。
- (2) 「～んです」の作り方は第20課の普通形がよくできていればあまり難しくない。な形容詞・名詞の現在形が「～なんです」になるところを「な」を落とす間違いが多いので注意する。
- (3) 「どうして食べないんですか。」に対して「おなかが痛いんですから。」のようにする間違いが多いので注意する。
- (4) 「～んです」を習うと、事実を述べることにも「～んです」を用いておかしな文を作ってしまう。問題7（本冊p.11）のように「～んです」を用いるものと用いないものを選択させる練習をするとよい。
- (5) 話し言葉での用法を教えるため、書き言葉に多い「～のです」の言い方は扱わない。
- (6) 依頼の前置きの「～んですが」の「が」は「でも」「けれども」の意味ではなく、文を軽くつなぐために使われており、ためらいや遠慮を示すことを理解させる。

状況が聞き手にとって明らかな場合は「～んですが」の後件が省略され、言いさした形になる。この形はこの課の会話に提出されているが、会話に入るまでは省略しない形を中心に練習を行う。

★発展指導

- (1) 下のような絵を見せて、「～んですか」を用いて、相手との話のきっかけを作り、自分と相手との共通話題に入っていく会話の練習をさせる。

例：

- A: 何を聞いているんですか。
B: マドンナの歌です。
A: ほくもマドンナが好き
 なんですよ。
 それ、聞いたら、ほく
 にも貸してください。
B: ええ、いいですよ。



- (2) 自分の行きたい所までどうやって行くか、所要時間などを実際に日本人に質問させる。そのときの会話を再現したものを書かせる。

III 会 話

[指導目標]

初対面のときの自己紹介を始め、ほかの人の紹介ができる。また、ほかの人に指示を求めたり、不明な点を聞き出すことができる。

[場 面]

センターでの一般研修が終わってナロンは実習先の名古屋に赴く。寮の管理人渡辺との対面のあと、渡辺に寮の中を案内してもらう。

[指導項目]

- (1) 「こちらは【管理人さん】です」…ほかの人を紹介するときの表現。「こちら」は人を指す丁寧な言葉。「わたしは～です」「こちらは～さんです」と紹介をさせて理解させる。
- (2) 「お世話になります」…これから世話になる相手に対して付き合いが始まるときに使う挨拶。センターを出るときの「いろいろお世話になりました」(第

25課) と対照させて理解させる。

- (3) 「こちらこそ」…ここでは「どうぞよろしく」に対する返礼。あとに「どうぞよろしく申し上げます」の言葉を続けてもよい。
- (4) 「夕食」…「朝食」「昼食」と一緒に教えてもよい。動詞は「夕食を食べる」にならないように注意する。
- (5) 「おふろの使い方がよくわからないんですが…」…後件の「教えてくださいませんか」を省略することによって、遠慮がちにこちらの意図を察してもらう言い方ができることを理解させる。他の例を出して簡単に練習する。
- (6) 「先に」…「先に」と「あとで」をペアにして意味を理解させる。「うちへ帰ります。先にお風呂に入ります。あとで晩ごはんを食べます。」などで意味をわからせる。

★発展指導

寮に入ってからの上生活上のトラブルを想定し、管理人に申し出る言い方とその対処を話し合う練習をさせる。

例：

電話のかけ方が
わからない



部屋の蛍光灯が
1本つかない



お風呂のお湯が
出ない



トイレの水が流
れない



寒いので、毛布が
もう1枚欲しい



第 27 課

I 指導項目

1. ～が可能動詞	文1		A 1・2	B 1・4	C 1
1) まだ～ません		例1	A 3	B 2・4	C 1
2) ～しか～ません		例2		B 3・4	
3) ～は～、～は～	文2	例3	A 4	B 5	C 2
2. 見えます、聞こえます		例4・5	A 5	B 6	C 3
3. できます		例6	A 6	B 7	C 4

II 指導項目解説

この課では可能動詞の表現を学ばせることを主眼に、未完了を表す副詞「まだ」、限定を表す助詞「しか」、対比を表す助詞「は」などを可能動詞と関連させながら教えていく。

また、「見えます」「聞こえます」「できます」の用法を教える。

1. わたしは日本語が話せます

[指導内容]

第18課では「辞書形+ことができます」の形で①主体の能力、技能、②ある状況下における行為の可能性を表すことを教えた。

①「わたしは日本語を話すことができます」

②「銀行でお金を換えることができます」

この課では同じ内容が「わたしは日本語が話せます」「銀行でお金が換えられます」のように可能動詞を使って表現できることを教える。

可能動詞とは本来Ⅰグループの動詞から派生するものを指すが、ここではⅡグループの「～られます」、Ⅲグループの「～できます」「～られます」の形も含めて、可能動詞として提出する。

可能動詞は状態を表す動詞となり、元の他動詞のときに「を」で示された対象は「が」で示され、「Nが可能動詞」の構文となる。「を」以外の「へ」「に」「で」などの助詞はそのままの形で用いられる。

[導入例]

第18課で学習した内容を復習しながら、可能動詞の言い方を導入する。

黒板に次のような絵を並べて、「できます」を書き足す。



+できます

T (①を指して) 「日本語を話すことができます。」

T (②を指して) 「ピアノを…」

S 「ピアノを弾くことができます。」

S (③を指して) 「刺身を食べることができます。」

S (④を指して) 「車を運転することができます。」

(もう一度①の絵を指して説明する)

T 「『日本語を話すことができます』少し長いですね。もっと短い言い方は『日本語が話せます』。

『話すことができます』と『話せます』は意味は同じです。

『日本語を話すことができます』は『日本語が話せます』になります。」

T 「『ピアノを弾くことができます』は？」

S 「ピアノが弾けます。」 (助けながらこの形を出させる)

T 「『漢字を書きます』は？」

S 「漢字が書けます。」 (このようにIグループの他の動詞の可能形を類推させて、理解度をチェックしながら進める)

T 「『刺身を食べることができます』は？」

S 「刺身が食べ…」

T 「刺身が食べられます。」

T 「『電話をかけます』は？」

S 「電話がかけられます。」このように類推できればよい。

T 「『車を運転することができます』は？」

S 「車が運転…」

T 「車が運転できます。」

T 「『車を修理します』は？」

S 「車が修理できます。」（同様に他のⅢグループの動詞の可能形を言わせて理解の確認をする）

[板書]

日本語を	話すことができます。
↓	∥
日本語が	話せます。

「話せます」「食べられます」等が可能動詞と呼ばれ、日常会話ではよく使われること、助詞が「が」に変わる場合と、変わらない場合などをよく説明する。

そのあと可能動詞の作り方をOHPシートで提示し、それをプリントにしたものを渡したあと、絵やフラッシュカードを使ってⅠ、Ⅱ、Ⅲグループ毎に動詞のみの変換練習、「を」から「が」に変わる文単位の変換練習、それができたら、助詞が変わらない言い方を混ぜて練習を深めていく。

1) わたしはまだ漢字が書けません

[指導内容]

「まだ」は「もう昼ごはんを食べましたか。」「いいえ、まだです。」（第7課）の形しか提出していない。「まだ食べていません。」（未完了）の形は第31課で教えるので、ここでは「まだ+可能動詞否定形」の形に絞って、「これから実現させる希望を持っているが、いまのところまだできない」（不可能）の意味を中心に教える。

[導入例]

文字ができるかどうかの話題から導入する。

T 「ひらがなやかたかなが書けますか。」

S 「はい、書けます。」

T 「漢字も書けますか。」

S 「いいえ、書けません。」

T 「これから漢字を勉強したいですか。」

S 「はい。」

T 「これから漢字を勉強したいですが、今はまだ書けません。」

続けて、「まだ…ません」で答えが出てくるような質問をして、理解できたかどうか確認する。

T 「日本の歌が歌えますか。」

S 「いいえ、まだ歌えません。」このように言えればよい。

「まだ」と「上手に」を組み合わせた言い方もここで教える。日本語で流暢に話す様子を見せて

T 「日本語が上手に話せますか。」

S 「いいえ、まだ上手に話せません。」



2) わたしはローマ字しか書けません

[指導内容]

「(名詞/数詞/副詞)しか+可能動詞否定形」の形を中心に、「それ以外はない」という限定の意味を表す「しか」の用法を教える。

「だけ」(第11課)と類似した言い方であるが、「しか」は否定形と呼応すること、言外に「それしか(でき)ないから、不十分だ」という否定的なニュアンスを含んでいる点が異なることを理解させる。

[導入例]

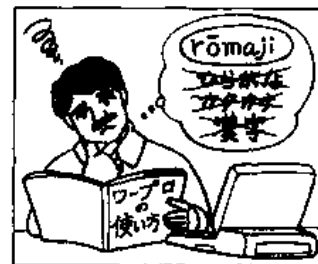
文字の話題の続きから導入する。

同じ内容をローマ字、ひらがな、かたかな、漢字で書いて全部わかるか聞いていく。

ローマ字だけわかる場合、何と言うか答えさせる。

S 「ローマ字だけわかります。」

T 「今日本にいます。ローマ字だけで大丈夫ですか。」



S「だめです。」

T「ひらがなや漢字がわからないと、困りますね。」

このときは、「ローマ字だけわかります。」（大声で威張って言う）の言い方より「ローマ字しかわかりません。」（小声で残念そうに）のほうがいいことを説明する。「しか」と「だけ」の意味・用法の相違点について簡単に説明したあと、下のような絵で「しか」を用いて正しく言えるかどうか確認する。



3) 鳥肉は食べられますが、豚肉は食べられません

[指導内容]

「～が可能動詞」の言い方が定着したところで、対比の意味を表す「は」を教える。ここでは上の例文のように「一方は可能、他方は不可能」と二つの事柄を対比させることで意味・用法の理解を図る。

「を」や「が」の取り立てのみを教える。「へ」「に」「で」などの助詞を取り立てた形、「へは」「には」「では」は第28課で扱う（第28課例文2参照）。

[導入例]

スポーツなどの話題から入る。

T「テニスやスキーができますか。」

S「テニスができます。」

でもスキーができません。」から

T「テニスはできますが、

スキーはできません。」



学習者の状況に合わせ食べ物の嗜好、制限などを聞く。

T「鳥肉や豚肉が食べられますか。」

S「鳥肉は食べられますが、豚肉は食べられません。」

[指導留意点]

- (1) 可能動詞はすべてⅡグループになること、普通形との対応も押さえておく
とよい。

行けます	行けません	行きました	行けませんでした	(polite form)
行ける	行けない	行けた	行けなかった	(plain form)

- (2) 助詞の用法については「を」→「が」の変換が徹底しないことが多いので、
注意する。
- (3) 対比の「は」の練習は一文が長くなるので、絵などを使ってリピートしや
すくする。

★発展指導

日本語力、食事、外出、買い物、付き合いなどの項目についての質問シートを
配り、自分の現状についてチェックさせ、日本での生活に対する適応度を見る。

例：	A. 日本語が上手に話せる	A. 一人でどこでも行ける
	B. やさしい日本語だったら、話せる	B. 近い所は行けるが、遠い所は行けない
	C. 自分の国の言葉しか話せない	C. 一人ではどこへも行けない
	A. 日本料理が何でも食べられる	A. 知らない人とすぐ友達になれる
	B. 日本料理が少ししか食べられない	B. 人に紹介してもらったら、友達になれる
	C. 日本料理が全然食べられない	C. 知らない人となかなか友達になれない

A5点 B3点 C2点 18点以上（日本で楽しい生活ができる）

12点以上（頑張ったら、大丈夫！） 9点以下（頑張らないと、大変！）

2. **あそこに富士山が見えます**
隣からテレビの音が聞こえます

[指導内容]

「見えます」「聞こえます」は人が生まれつき持っている能力の意も表すが、
ここでは「外から自然に見えてくる、聞こえてくる」という意味を教える。

「～が見えます/聞こえます」の形で、見えるもの、聞こえるものは「が」で
示し、見えるものが存在する所を問題にする場合は「～に見えます」、人が立つ
位置を問題にする場合は「～から見えます」、音の発生源を問題にする場合は「～
から聞こえます」となる。

[導入例]

OHPのシートをスクリーンに写して

T「見えますか。」

S「はい、見えます。」

次にOHPの焦点をぼかして見せて、

T「見えますか。」

S「いいえ、見えません。」から「はっきり見えません。」を導く。

次に誰かに教室の窓のところに行かせて、

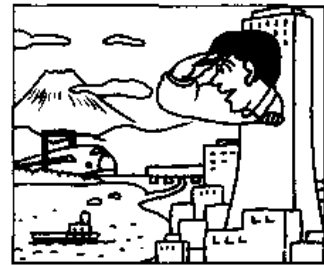
T「そこから何が見えますか。」

S「海が見えます。」

T「どこに見えますか。」

S「あそこに見えます」から

「むこうに海が見えます。」



視界が限られている場合は、山の頂上や高い建物などから人が景色を眺めている絵などで導入する。

「聞こえます」も同様に手で耳を覆わせたり、外させたりして、

T「わたしの声が聞こえますか。」(小さな声や大きな声で)

S「はい、聞こえます。」

「いいえ、聞こえません。」

次にラジオをつけたり、テープを回すなどして、

T「何が聞こえますか。」

S「音楽が聞こえます。」など具体的な内容を言わせる。そのあと右のような絵を見せていろいろ文を作らせる。



[指導留意点]

「見えます」と「見られます」、「聞こえます」と「聞けます」の違いは、この段階では難しいので敢えて教えなくてもよい。しかし質問が出たら次のような例文でどちらを使ったらいいか、考えさせるとよい。

毎日忙しいですから、テレビが（見られません／見えません）。

車の音が（聞こえます／聞けます）から、よく寝られません。

NHKの7時のニュースは英語でも（聞けます／聞こえます）。

3. 駅の近くにデパートができます

[指導内容]

「できます」には可能の意味だけでなく、上の例文のように①「完成する」の意味や、「カメラの修理ができました。」のように②「行為の完了」などを表すことを教える。①の意味の場合、完成した場所は「～に～ができます」の形で表される。

[導入例]

まず絵で「できます」の意味を教える。

T「今うちを作っています。」

「うちができました。」

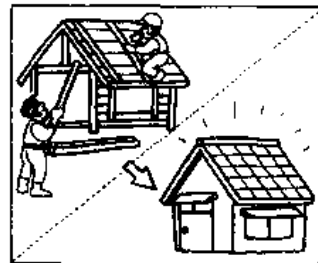
近くに建設中の建物や最近完成した建物があったら、

T「駅の近くに何か作っていますね。」

「あれは何ですか。」

S「わかりません。」

T「デパートです。」から「駅の近くにデパートができます。」

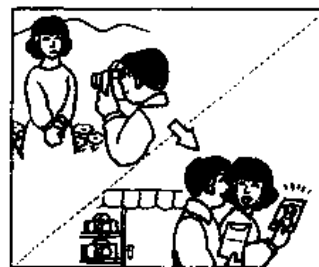


「完了」の意味は写真の現像を例にすると
わかりやすい。

「写真を撮りました。」

「朝カメラ屋へフィルムを持って行きました。」

「夕方写真ができました。」



[指導留意点]

「できます」は易しいので、料理の注文、フィルムの現像、カメラの修理やクリーニングを依頼するときなど、具体的な場面を設定して実際に役に立つ会話練習をさせる。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

電車やバスなどを利用して、目的地へ一人で行ける。道がわからないときは、人に聞いて、その指示がほぼわかる。

[場 面]

寮での生活にも慣れたナロンは休みの日にスポーツセンターへ行く。前半5行はバスのアナウンスが聞き取れなくて不安に感じ、隣の人に助けを求める場面。後半はバスを降りてから方向がわからず、通りがかりの女性にスポーツセンターへの行き方を聞く場面。

[指導項目]

- (1) 道案内の言い方は第23課で学習しているが、内容を膨らませて再度教える。やや長いので前半、後半に分けて練習するとよい。

聞き出し方の「ちょっとすみません。～へ行きたいんですが…」、具体的な場所を表す「むこう」「そば」「角」「～側」「～目」や「見える」などの言い方。
- (2) 「2つ目の角を右ですね。」…相手の発言の重要な点を「ね」を使って確認する言い方。
- (3) 「5,6分で行けます。」…範囲を表す「で」と、5,6分というおおよその時間を示す言い方。
- (4) 「いいえ」…「どうもありがとうございます」の感謝の言葉に対する簡単な返しことば。

★発展指導

学習者のいる環境に合わせて、教師が略図を用意し、交通手段、行き方、所要時間、道の聞き方、教え方などをモデルを示して練習させるとよい。

目標の場所がどこにあるかを聞き取る練習は、自然な日本語にした聞き取りテープを作ってつかませるようにするとよい。

第 28 課

I 指導項目

1. ～ながら	文1	例1・2	A1	B1・2	C1・2
2. ～ています	文2	例3	A2	B3	C3
3. ～し	文3	例4・5	A3・4	B4・5	C3・4

II 指導項目解説

1. テレビを見ながらごはんを食べます

[指導内容]

同一人物が同時に二つの動作を行うことを表すときに、「～ながら」を用いることを教える。一般に、「ながら」で示される内容は副次的な動作を示し、重点が置かれる動作は「ながら」の後ろの動詞で示される。

同時進行動作以外の「働きながら学校へ行く」のようなものはこの課では扱わない。

[導入例]

まず単独の動作を表す絵を見せて動詞を言わせる。

T 「何をしていますか。」 (①の絵で)

S 「ごはんを食べています。」

T 「何をしていますか。」 (②の絵で)

S 「テレビを見ています。」

T 「何をしていますか。」 (③の絵を見せて)

S 「 … 」

T 「**テレビを見ながらごはんを食べています。**」



二つの動作を同時にするときは「～ながら」を使うと説明、他の絵 (④) などを見せて、次のように言えればよい。

S 「**コーヒーを飲みながら新聞を読んでいます。**」

「新聞を読みながら…」の言い方が出たら、どちらが



◎重点的な行為か聞き、○副次的な動作のほうに「～ながら」を用いることを説明する。

[板書]

○テレビを見ます+◎ごはんを食べます

テレビを見ながら	ごはんを食べます。
----------	-----------

ます形+ながら

そのあと具体的な場面の絵で「～ながら」を使った文の言い方の練習に移るが、後件は易しい「します」の形でよい。

単純な「～ながら」の練習が終わったら、あることに専念しないで他のことをする「ながら行為」は感心できないということを表す表現を導入する。また、行為の場所を表す助詞「で」の取り立ての形「では」もここで扱う。

T「ここは工場です。この人は何をしていますか。」

S「歩きながらたばこを吸っています。」

T「歩きながらたばこを吸ってもいいですか。」

S「いいえ、いけません。危ないですから。」

T「この人に何を言いますか。」のやりとりから

「工場の中では歩きながらたばこを吸わないでください。」を導く。



[指導留意点]

「～ながら」の意味、用法ともに理解させやすい。しかし「ながら」の前件と後件を逆にして、不自然な文を作る場合があるので注意する。

例：電話をかけながらたばこを吸います。

2. 暇なとき、いつも音楽を聞いています

[指導内容]

「～ています」は以下の用法を既に教えた。

①「リーさんは今テレビを見ています」(継続中の動作・第14課)

②「鈴木さんはもう結婚しています」(行為の結果の状態・第15課)

③「わたしは銀行で働いています」(長期に亘る反復的行為、職業や身分に関する内容・第15課)

この課で扱う内容は③の意味に近い用法で、「繰り返し行われる習慣的な動作」を述べるときに、「～ています」を用いることを教える。

この「～ています」に用いられる動詞の制約は特になく、他動詞、自動詞ともに用いることができる。

[導入例]

毎晩どんなことをして過ごしているかを話題にして導入する。

T「きのうの晩何をしましたか。」

S「テレビを見て、日本語を勉強して、寝ました。」

T「おととい何をしましたか。」

S「日本語を勉強して、手紙を書いて、寝ました。」

T「今晚何をしますか。」

S「日本語を勉強します。」から

「夜はいつも日本語を勉強しています。」を導く。

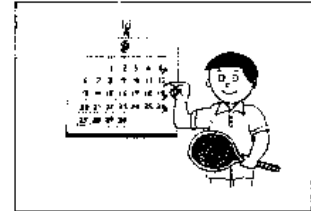
T「暇なとき、いつも何をしていますか。」

S「テレビを見ています。」

「友達と話したり、本を読んだりしています。」

などの答えが出ればよい。

あとは「毎日」「夜はいつも」「休みの日はいつも」などの習慣的な行為を導く副詞と呼応させた形で「～ています」を使った言い方の練習に移る。



休みの日は
いつもテニスをしています。

[指導留意点]

- (1) 「～ています」の意味、形ともに理解は易しい。「暇なとき、何をしていますか。」などのQAの答えとして「～たり、～たりしています」を使った練習は第19課の練習B3のイラストを利用してできる。
- (2) 起きてから、寝るまで毎日繰り返し行われる行動のパターン、週末の過ごし方などの内容を中心に練習ができる。「毎朝6時ごろ起きています。」「毎日会社へ行っています。」などの練習も行う。

★発展指導

いつもどんなテレビ番組を見ているかについて、下のようなシートを使って学習者同上で話させる。漢字圏の学習者には新聞のテレビ欄の見方などを教えてもよい。

いつも見ている A	1. ニュース ()	6. アニメ ()
ときどき見る B	2. 天気予報 ()	7. スポーツ ()
ぜんぜん見ない C	3. 映画 ()	8. 音楽 ()
	4. ドラマ ()	9. バラエティー ()
	5. ドキュメント ()	10. その他 ()

3. 頭も痛いし、熱もあるし、きょうは会社を休みます

[指導内容]

原因・理由を表す表現として「～から」(第9課)を提出したが、その原因・理由が二つ以上ある場合に、「～し」を使って表現することを教える。

原因・理由を列挙し、そこからある結論を導く「～し、～し、…」のパターンで、まず意味の定着を図る。この際「さらに」、「その上」という気持ちを強めるために、上の例文のように助詞「も」を使うことを指導する。

理由を尋ねる「どうして」の質問に対しては、「～し」を用いたいろいろな答え方が可能だが、この課では添加の意味の「それに」を用いて「～し、それに…から。」のパターンで教える。

「～し」の用法には、単なる並列、累加的な意味を表す「あの人は頭もいいし、親切だ。」や「～し」を一回だけ用いて言外に他の理由を暗示する言い方「雨も降っているし、タクシーで帰ります」などがあるが、この課では扱わない。

[導入例]

まず病気表現(第9課)を復習しながら導入する。

(「頭が痛い」の絵を見せて)

T 「どうして会社を休みますか。」

S 「頭が痛いからです。」

T 「頭が痛いですから、会社を休みます。」

(「頭が痛い」と「熱がある」の絵を見せて)

S「値段も安いし、品物も多いし、〇〇スーパーで買い物します。」から

「値段も安いし、それに品物も多いですから。」を導く。

T「どうしてデパートで買わないんですか。」

S「値段も安いし、それに安いんですから。」などが出ればよい。

[板書]

どうして〇〇スーパーで買い物するんですか。

(値段も安いし、品物も多いし、~~〇〇スーパーで買い物します。~~)

→値段も安いし、それに品物も多いですから。

このあと「どうして～んですか」のQ Aで答え方を中心に練習を行う。

[指導留意点]

- (1) 文型を導入するまえに、この課の新出の形容詞や名詞をよく定着させておくこと。「味がいい」「匂いがいい」「色がいい／きれい」「形／デザインがいい」「値段が安い」など「～は～が～」構文の基本的な言い方を押さえておく。
- (2) 「～し」は普通形に接続するが、な形容詞・名詞の現在形は「だ」を落とした「きれいし、～」になりがちなので、導入時によく注意する。
- (3) 「～し」を使った会話練習は練習C4のような「誘い」に対する「断り」の理由を述べる言い方をいろいろ考えさせるとよい。
- (4) 「それで」は「ですから」「だから」のように原因・理由から直接導かれる結果を示すというよりも、前の事柄を認めた上で、そこから意見や判断を展開するときによく用いられる。

A：このレストランはずいぶん込んでいますね。

B：ええ、料理もおいしいし、それに値段も安いですから。

A：それで人が多いんですね。

★発展指導

食べる、見る、歩くガイド

近くの飲食店などのガイドマップを推薦理由をつけて作らせる。

例：レストラン「マリーナ」

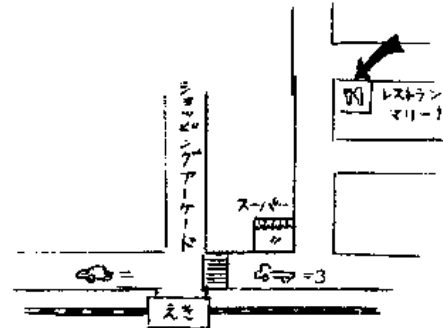
場所：駅の近く、歩いて3分くらい

◎土曜日と日曜日は11時から2時まで

バイキング料理がある。一人 1,000円

安いし、いろいろな料理が食べられる。

それにおいしいですから、ぜひ行ってください。



教師がこのような内容を入れた聞き取り教材を作って、簡単な内容把握問題をやらせてもよい。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

日本には花見の習慣があること、花見でどんなことをするかを理解させる。

日本の四季のうちの春の紹介とする。ちなみに夏は「夏休みの計画」(第31課)、秋は「社員旅行」(第43課)、冬は「お正月」(第48課)を題材に季節にからめて日本事情を紹介する一端とした。

[場 面]

ナロンは、指導員の石川や女子社員の池田に誘われて日曜日の日、桜で有名な近くの公園へ花見に出かける。

[指導項目]

- (1) 「やっと」…「なかなか」(第27課)と関連させて意味を理解させる。「なかなか」は実現困難な状況、「やっと」はそのような状況を克服し、目標に到達した状態を表す。ここでは開花の遅れていた桜がようやく咲いたことを理解させる。
- (2) 「ずいぶん」…「たいへん」「とても」と近い意味だが、予想外の気持ちや驚きを表す。ここでは人出が予想以上に多いことに対するナロンの驚きを表し

ている。

- (3) 「きょうは日曜日だし、天気もいいし…」…理由だけを並べ立てて、結論を省略した言い方をここで初めて扱う。どんな言葉が続くかを学習者に考えさせる。

★発展指導

左下のような花見の名所ガイドをいくつか作り、その情報をもとに友達を花見に誘う会話を右の内容を参考に作らせる。

花見名所案内

☆「上野公園」

広い公園の中には動物園や池がある。

桜見物の人が多くて、にぎやかだ。

駅の近くであって、交通が便利だ。

いつ行きますか。

どこへ行きますか。

どうしてそこを選びましたか。

花見で何をしますか。

第 29 課

I 指導項目

1. 1) ~が~ています	文1	例1	A 1	B 1・2	C 1
2) ~は~ています	文2	例2	A 2	B 3	C 2
2. ~てしまいました	文3	例3・4	A 3	B 4・5	C 3・4

II 指導項目解説

1. 1) 電気がついています

[指導内容]

「問題となる時点より前に、ある動作、作用が行われ、その結果が今も残存している」という意味内容を表す「~ています」を教える。

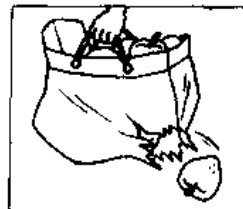
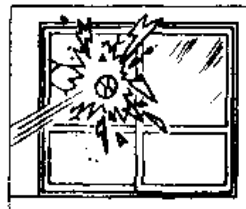
この意味範囲のものとしては既に「結婚しています」「住んでいます」「知っています」「持っています」(第15課)などを教えた。これらの表現は人間を主体にしたものであるが、この課では視覚的にとらえられる物を中心に扱う。

上の例文のように目前の具体的事物が現在どのような状態にあるかを客観的に述べるときに、「~が~ています」の形で表すことを指導する。

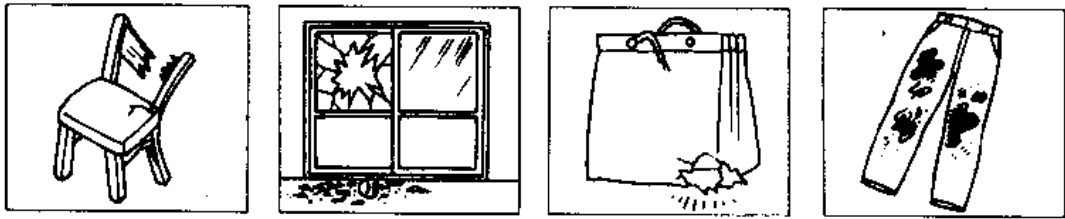
この文型では動作、作用が瞬間的に終結することを表す自動詞を中心に扱う。テキストでは「壊れる」をはじめとする破損に関する言葉を多く提出して、「~ています」の表現の理解・定着を図っている。

[導入例]

「~ています」の形の導入の前に、この課の新出語が「~ます」の形で表す意味をよく理解させておく。瞬間的な事態の発生を表す動詞が多く、その様子を実際に目の前で見せるのは難しいので、絵を利用する。



その後、下のような絵を見せて、



「**いすが壊れています**」を導入する。

このあとで「**ガラスが割れています**」「**袋が破れています**」「**ひもが切れています**」「**ズボンが汚れています**」と続いて出ればよい。あとは絵やOHPシートなどを使って更に「～が～ています」の形の練習をする。

この単文の形がよく理解できたら、「**ガラスが割れていますから、危ないです。**」のようにそのような状態から導かれる結果を考えさせる練習を行い、意味の理解を深める。

[指導留意点]

(1) 「壊れる」「割れる」「切れる」「破れる」は学習者の母語によっては、使い分けをしないことがあるので、物から連想される動詞を次のように言わせる練習を「～ています」に入る前にやっておく。

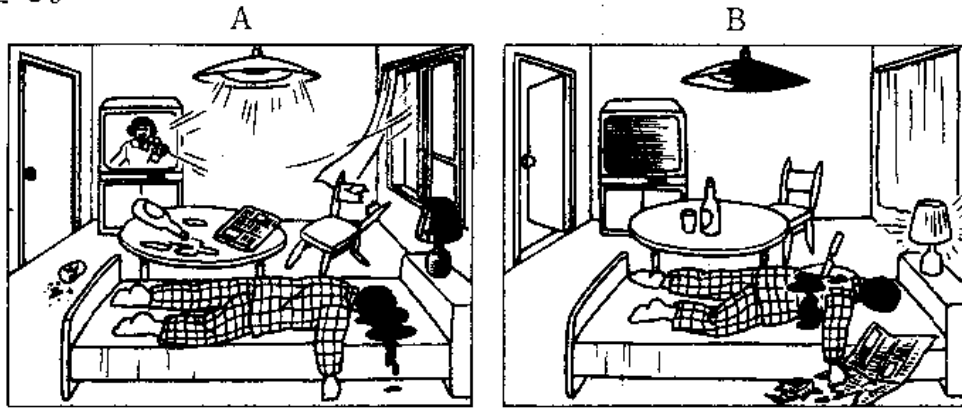
T「コップが…」→S「コップが割れます」

T「袋が…」→S「袋が破れます」

(2) 動詞の「～ます」の形での意味が理解できたら「壊れます→壊れて」「割れます→割れて」のように「て形」を練習しておく、導人がスムーズに行く。

★発展指導

個別の描写が言えるようになったら、下のような部屋の様子を示した絵を見せて、見たままを言わせたり、数秒間見せて絵を隠し、今見た場面を説明させたり、2枚の絵で間違い探しをさせたりすると、単調な練習になりがちな学習が楽しくできる。



2) このいすは壊れています

[指導内容]

第27課で対比の意味を表す「は」を教えたが、ここでは取り立ての「は」を教える。目の前にある情景を描写するとき、事物（主語）を「が」で示すように導入したが、ある物を主題として取り上げ、それについて何かを述べるときは「は」で示すことを教える。「この」「その」「あの」などの指示詞とともに提出することによって、取り立ての用法の理解を助ける。

[導入例]

同じ皿を何枚か用意して、その中に1枚だけ割れた皿を入れておく。

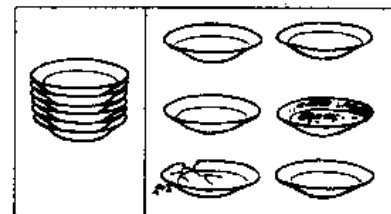
T 「ここに皿があります。」（数枚重ねたままで）

（全部見えるように並べて、割れた皿を指す）

T 「この皿は割れています。」

（汚れた皿を指したら）

S 「その皿は汚れています。」が出て
くればよい。



「この～は～ています」の形の練習のあと、「この皿は汚れていますから、洗ってください。」のように、結果の状態から考えられる次の行動、措置を言わせ

る練習で意味の理解を深める。

[指導留意点]

「NがVています」がようやく定着したところで「NはVています」と機械的に「が→は」の変換をさせると混乱を招く。できるだけ実際の状況を作って理解させる。

2. タクシーにカメラを忘れてしまいました

[指導内容]

「～てしまいます」の意味、用法には二つある。

その一つは動作動詞に付いてあることをすっかりやり終える、ある物が全部なくなるという意味を表す。

そのほかにはしてはいけないことをしてすまない、そうなってはならない状況になって残念だという不都合な事態に対する遺憾の気持ちの意味を表す。

この課では後者の「遺憾」の意味の用法に限って教える。この文型は1の「～ています」と違って、動作動詞や状態を表す動詞にも接続する。

取り返しのつかないことが既に起きた「～てしまいました」の形のみで、これから起こることを表す「～てしまいます」の形は扱わない。

[導入例]

困った場面を想定して導入する。例えば

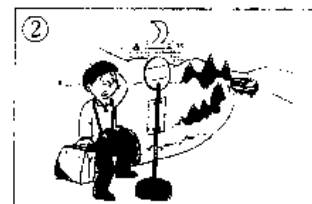
T 「リーさんは旅行に行きました。
パスポートを持って行きましたが…
(右の絵を見せながら)



パスポートをなくしました。たいへん困りました。」

T 「~~パスポートをなくして~~しまいました。」 (残念そうな表情で)

T 「リーさんは急いで (バス停へ) 行きましたが、
バスに遅れでしまいました。
バスが行ってしまいました。
バスもないし、駅まで遠いし、



たいへん困りました。」

もう一度①と②の絵を見せて、このような状況のとき、「～てしまいました」を使うことを説明する。導入文を絵を使ってリピートしてから、「パスポートをなくしました→パスポートをなくしてしまいました。」の形の練習に移る。

次にトラブルや問題が起きたときの状況説明の「～てしまったんです」に進む。まず電車やタクシー、バスなどに何か忘れ物をしたことがあるかどうか聞いてみる。その後タクシーにカメラを忘れたときを例にして

T「どうしたんですか。」

S「タクシーにカメラを忘れてしまいました。」



相手に事情を説明するには「普通形+んです」を使うことを思い出させる。

「忘れてしまいました→忘れてしまった+んです」

「タクシーにカメラを忘れてしまったんです。」

[指導留意点]

- (1) 「～てしまいました」は学習者の母語では単に過去形や完了形で表すことが多い。単なる事実を述べる「忘れました」と遺憾な気持ちを含んだ「忘れてしまいました」のニュアンスの違いを理解させる。

マイナスの意味を含んだ「忘れる」「なくす」「落とす」「間違える」「遅れる」などで残念な気持ちという意味の定着を図る。

- (2) 「タクシーにカメラを忘れてしまいました」「スーパーで財布を落としてしまいました」の「に」と「で」の使い方を間違えやすいので注意させる。

「に」は「～に置く」と同じで存在の場所を、「で」は「～でする」と同じで行為の場所を表す。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

トラブルに遭ったときに、その内容を的確に相手に伝え、対処できるようにする。

[場 面]

実習が終わって電車で宿舎に帰る途中、ラオは網棚にかばんを忘れてしまう。前半は急いで駅の事務室に駆け込み、事情を訴える場面、後半は駅員が連絡を取ってくれ、かばんが見つかりほっとする場面である。

[指導項目]

- (1) 「今の電車」…「今」は現時点の意味でなく直前の過去を示す。今行ったばかりの電車の意味。
- (2) 「このくらいの」…手振りを交えて大きさを示す方法。実際にやって見せる。
- (3) 「ありましたよ」…この「た」は過去の事実や動作の完了を表すのではなく、期待していたことが実現したことを表す。(捜していた人が)「いた」、(待っていたバスが)「来た」など。
- (4) 「ああ、よかった」…安堵感を表す。「いい」の形は使わないことに注意させる。

T「あしたの試験は易しいです。」

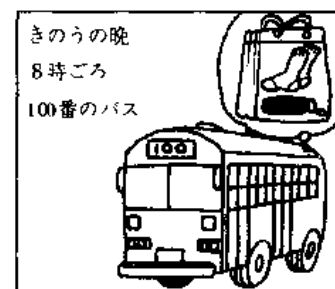
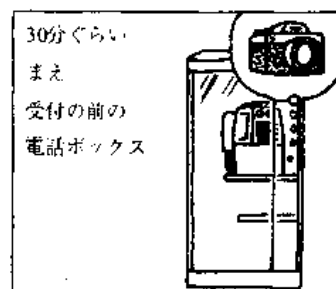
S「ああ、よかった。」

★発展指導

忘れ物をしたときの対処の仕方を実際に模擬体験の形でやらせてみる。

忘れ物の絵と忘れた時、場所を書いたカードを渡し、教師が遺失物係の役になって、学習者に自分の忘れ物を言わせる。「いつ、どこで(に)、何を(形や色、大きさ、中身など)」を正確に言えるようにする。

忘れ物が見付かった場合だけでなく、見付からなかった場合の対処も考えさせる。



第 30 課

I 指導項目

1. 1)～が～てあります	文1	例1	A 1	B 1・2	C 1
2)～は～に～てあります		例2	A 2	B 3	C 2
2. ～ておきます					
1)準 備	文2	例3	A 3	B 4	C 3
2)措 置		例4		B 5	
3)放 置		例5	A 4	B 6	C 4

II 指導項目解説

この課では前課で提出した「～ています」と意味・用法で類似性を持つ「～てあります」と、状況に応じて適切な措置を取る意味の「～ておきます」を教える。「～ておきます」にはいろいろな意味があるが、ここではその中から比較的理解しやすい「準備」「措置」「放置」の三つの意味について学習させる。

「放置」の意味の「～ておきます」と関連させて、「まだ使っていますから、そのままにしておいてください。」の副詞「まだ」の用法、「わたしがやりますから、そのままにしておいてください。」の助詞「が」の用法を教える。

1. 1) 壁に絵が掛けてあります

[指導内容]

人や物の存在を述べる言い方は「います」「あります」（第10課）で提出した。物が現在どのような状態であるかを具体的に詳しく述べるには「～ています」と「～てあります」の二つの言い方が可能である。この両者の表現の類似点、相違点を把握させることがこの課の指導のポイントとなる。

第29課で提出した「～ています」は単なる事実描写、すなわち物の状態を目で見たままに述べる表現であることを教えた。この課では誰かが何らかの目的、意図があって作りあげたある物の状況を示す「～てあります」の用法を教える。

ある物の存在そのものについて述べる場合は「～が～てあります」、その物がどこにあるか所在を問題にする場合は「～は～に～てあります」の形で示される。

「～てあります」に用いられる動詞は動作性の他動詞で、テキストでは「～て

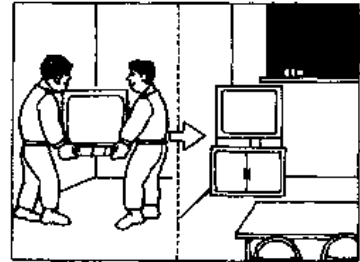
あります」の意味を理解しやすくするために、「置く」「掛ける」「並べる」「はる」「しまう」「載せる」「降ろす」など設置動詞と呼ばれる動詞を中心に練習させる。

「～てあります」にはこのほかに行為をした人を主語に立てた「わたしはもう宿題をやってあります」のような完了の意味を表す用法があるが、この課では扱わない。

[導入例]

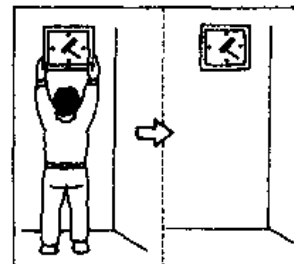
まずこの課の新出語「掛ける」「並べる」「はる」「しまう」「載せる」「降ろす」などの言葉の意味を既習の「置く」との違いに注意させながら、実際の動作や絵で定着させる。「～てあります」は教室の中にある物を見渡し、話題にすることで、だいたい導入できる。そうでない場合はあらかじめそのような状況を設定しておくといよい。

- T 「教室に何がありますか。」
S 「テレビがあります、時計があります、
地図があります。」



- T 「勉強するとき、テレビを見ます。
ですからセンターの人がここにテレビを置きました。
ここにテレビが置いてあります。」 (目の前のテレビを指して)

- T 「時計を持っていますか。」
S 「はい、持っています。/
いいえ、持っていません。」



- T 「時間がわからないと、困りますね。
ですからセンターの人があそこに
時計を掛けました。
あそこに時計が掛けてあります。」 (時計の方を指して)

同様に「あそこにスケジュールがはってあります。」、
「引き出しに道具がしまってます。」などを導入する。

「机を置きます→机が置いてあります」の練習のあと、設置場所と物がわかる

絵やOHPシートを使って「～に～が～てあります」のパターン練習を行う。

「～てあります」の否定形の練習は特にしなくてもよいが、簡単にQAをしておく。

T「この本は私のです。ここに名前が書いてあります。」（実際に見せる）

「みなさんの本にも名前が書いてありますか。」

S「はい、書いてあります」。

S「いいえ、書いてありません。」

2) パスポートは部屋にしまっています

[導入例]

「～に～が～てあります」の意味、用法が定着したら、「～は～に～てあります」の所在の言い方の導入に移る。

持ち物が部屋のどこにあるか、部屋の中の物がどこに置かれているかなど、物の所在を聞くことで導入する。

T「パスポートを持っていますか。」

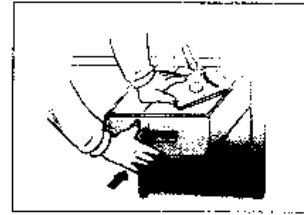
S「はい、持っています。」

T「どこにありますか。」

S「部屋にあります。」

T「部屋のどこにしまっていますか。」

S「引き出しの中にしまっています。」



全体の形を示すために繰り返す。

「パスポートは引き出しの中にしまっています。」

T「旅行かばんはどこにありますか。」

S「ベッドの下に置いてあります。」などが出ればよい。

このあと部屋の中の様子を示した絵などで所在を聞く練習をする。

[指導留意点]

- (1) 「～てあります」は第10課の教え方の流れをほぼ応用した形で進められる。
- (2) 「他動詞＋ています」の形がよく定着しているので、「書いてあります」「掛けてあります」を「書いています」「掛けています」にする間違いが出る。

「今名前を書いています。」(実際に書く動作を示す)

「本に名前が書いてあります。」(名前が書いてあるところを見せる)

このようにして違いを理解させる。

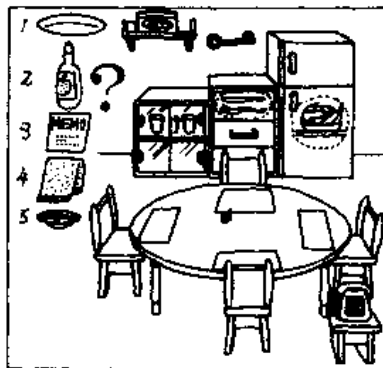
- (3) 学習者の母語では自動詞・他動詞の区別がはっきりしないことが多い。自動詞は「～ています」、他動詞は「～てあります」というように、自他を強調して区別させようとする、混乱させてしまうので、できるだけ実際の場面、状況を作って理解させる。

「開く」「開ける」のように自他でペアになるものは、特にその区別、使い分けを一度に理解させるのは難しい。今後少しずつ覚えてもらうことを期待し、自他のリスト(本冊p.276)で簡単に説明しておく。

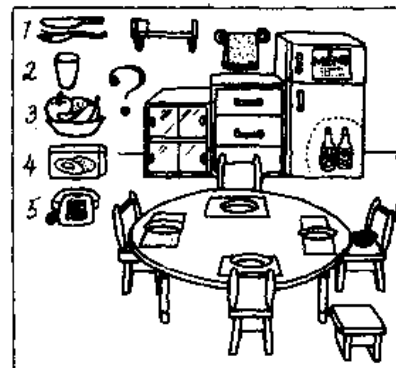
★発展指導

学習者同士でペアを組ませて一人に図Aを、もう一人に図Bを持たせて物がどこにあるかを聞き合い、それぞれの絵を完成させる。

図A



図B



2. 1) パーティーのまえに、飲み物を買っておきます

[指導内容]

「～ておきます」は「準備」「措置」「放置」の意味を教える。まず一番わかりやすい「事前準備」の意味を「～(する)まえに」と呼応させた形で導入、定着を図る。

[導入例]

パーティーの話題から入る。

まず学習者にどんなとき、どんな形で、どんな人を呼んでパーティーをするか話させたあと、質問する。

T 「パーティーのまえに、どんな準備をしますか。」

S 「部屋を掃除します、飲み物を買います、料理を作ります、…」

学習者から出た内容を「～ておきます」で言い換える。

T 「パーティーのまえに、部屋を掃除しておきます。」

「パーティーのまえに、飲み物を買っておきます。」

「パーティーのまえに、料理を作っておきます。」など。



恋人も来る場合を言わせると「～ておきます」を使った楽しい例が出てくる。

「花を買っておきます。」

練習は「旅行に行くまえに」「試験のまえに」「会議のまえに」などと言って、それぞれに適切な準備行為を学習者の発想を生かしつつ「～ておきます」を使って文を作らせる。

2) パーティーが終わったら、部屋を片づけておきます

準備の意味が理解できたら、事後措置の場合によく使われる「～ておきます」に移る。これも「～したら」（未来における完了）の言い方と呼応させて意味の定着を図る。

[導入例]

T 「パーティーが終わったら、どうしますか。」

S 「テーブルの上を片づけます、ふきます、コップや皿を洗います、部屋を掃除します…」



学習者から出た内容を「～ておきます」で言い換える。

T 「パーティーが終わったら、部屋を掃除しておきます。」

「きれいに」「きちんと」「元の所」などの新出語も実際の動作を見せながら一緒に理解させる。

「テーブルをきれいにふいでおきます。」

「ナイフやフォークを元の所にしまっておきます。」

「部屋をきちんと片づけておきます。」

練習は「食事が終わったら」「仕事が終わったら」「勉強が終わったら」と言って、そのあとすべきことを「～ておきます」を使って文を完成させる。

3) わたしがやりますから、そのままにしておいてください

最後に現在ある状態をそのままに保つ「放置」の意味の「～ておきます」を導入する。

この表現に関連させて、肯定形と呼応する形で動作・状態の継続の意味を表わす副詞「まだ」の用法、動作の主体を表わす助詞「が」の用法を教える。

[導入例]

これもパーティーの後片づけという状況設定の続きから導入できる。

パーティーは12月の寒い日で、夜9時ごろに終わったとする。

T 「パーティーが終わったら、
どうしますか。」

S 「テーブルの上を片づけて
おきます。etc …」

T 「テーブルはどうしますか。片づけますか。」

S 「いいえ、片づけません。」から

T 「ここに置いておきます。」

T 「ヒーターはどうしますか。消しますか。」

S 「いいえ、消しません。寒いですから。」

T 「つけておきます。」

それぞれの部分をさして「置いておきます」「つけておきます」から

「そのままにしておきます。」（手で動かさない様子を見せる）



現実に戻ってクラスが終わったとき、どうするかで理解の確認をとる。

T「この机を片づけますか。」

S「いいえ、そのままにしておきます／置いておきます。」

T「地図は？」

S「そのままにしておきます／はっておきます。」

T「ドアは開けておきますか。」（開いているドアを指す）

S「はい、開けておきます。」

このように「放置」しておくものが自然と「～ておきます」を使って出てくればよい。

「まだ使っていますから、そのままにしておきます。」

「放置」する理由を「継続」の意味の「まだ」を使って理解させる。

1)~3)で「～ておきます」の形と意味が定着したら、次に依頼の形の「～ておいてください」と助詞「が」の導入をする。

T「パーティーが終わりました。コップや皿を片づけなければなりません。

友達に手伝ってもらいたいです。何と言ってお願いしますか。

【コップや皿を片づけておきます+ください】は

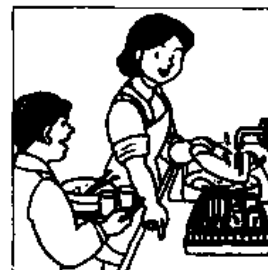
「すみませんが、

コップや皿を片づけておいてください。」

T「コップや皿が台所にあります。

だれが洗いますか。」

S「わたしが洗います。」



友達に自分が洗うことを言う場合は

「わたしが洗います（やります）から、そのままにしておいてください。」

[指導留意点]

(1) テキストで取り上げた「～ておきます」の三つの意味は一度に全部を導入しない。それぞれ「～まえに、～ておきます」（準備）、「～たら、～ておきます」（事後措置）、「まだ～ていますから、～ておきます」（放置）のようにこの段階では呼応した形で練習させたほうが理解させやすい。

(2) 「～ておきます」の「おきます」は補助動詞としていろいろな活用の形がある。この課ではまず「～ておきます」の形で意味の定着を図る。そのあと相手

に依頼する「～ておいてください」に移るほうが易しい。

- (3) 「～ておく」は日常会話では「～とく」になることがある（例：置いておいてください）が、この形はここでは扱わない。
- (4) 「そのままにしておいてください」ははじめに導入してしまうと、何でもこの形ですまして練習にならないことがあるので、最後のほうで提出する。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

「整理整頓」が職場で重視されていることを理解させる。

[場 面]

危険防止と効率のよい作業手順を教えるために指導員の小川がアリに工具の使い方の指導をする場面である。実習の中身の会話は第34課の「モーターを組み立てる」で扱う。

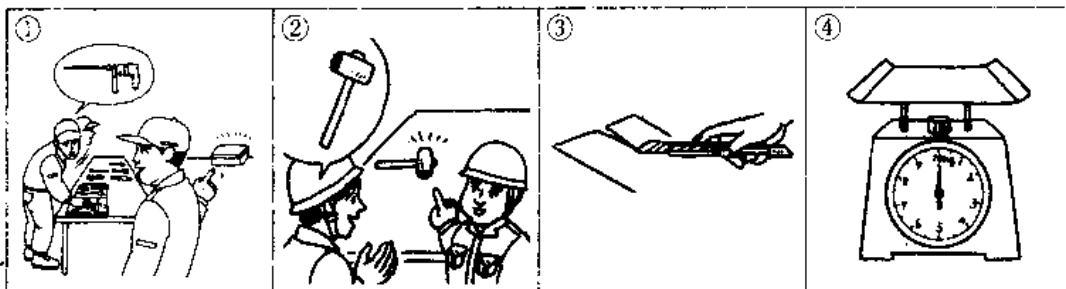
[指導項目]

「ご苦労さまでした」…上の立場の者から下の者によく使われるねぎらいのことば。「お疲れさまでした」（第22課）は身分の上下に拘わらず、丁寧な挨拶として使われることが多い。

★発展指導

分冊PARTⅡ（p.58）の「5.作業動作と工具」を利用して、会話文中の下線部分を言い換えて会話を発展させる。

- *ある場所を聞く 例：①A「あのう、ドリルはどこですか。」
- *場所を教える B「あの箱の中にしまっておりますよ。」
- *後始末を指示する 「使ったドリルはよくふいて、元の所にしまっておいてください。」



第 31 課

I 指導項目

1. ～（よ）う	文1	例1	A 1・2	B 1	C 1
2. ～（よ）うと思っています	文2	例2	A 3	B 2	C 2
3. まだ～ていません		例3	A 4	B 3	
4. ～つもりです	文3	例4	A 5	B 4・5	C 3
5. ～予定です		例5		B 6	C 4

II 指導項目解説

これまでは動詞の現在形「～ます」で自分の意志、予定を表わすとしてきたが、この課では自分の意志や心づもり、予定を明確に述べる場合の言い方を教える。

また、「レポートはまだ書いていません。今晚書こうと思っています。」のように、「まだ～ていません」（未完了）の言い方を「～（よ）うと思っています」の表現と関連させて提出する。他動詞の目的語を主題として取り立てる助詞「は」の用法も同様に取り上げる。

1. 少し休もう

[指導内容]

相手に自分と同じ行動を求めたり、また相手からの誘いに同意するときに使われる「～ましょう」（第6課）の普通体として意向形を提出する。

相手のためになる行為を申し出るときに使われる「～ましょうか」（第14課）の普通体は「意向形+か」の形になるが、この課では扱わない。

[導入例]

教室の言葉として定着している「始めましょう」「休みましょう」「終わりましょう」の普通体の言い方として導入する。

T 「『休みます』の普通体は？」

S 「休む」

T 「『休みましょう』の普通体は？」

S 「 … 」

T「休もう。」

T「いま何時ですか。」

S「10時です。」

T「疲れましたね。少し休みましょう。」

最後の3行の会話を友達同士の普通体の会話に直させる。

S「疲れたね。少し休もう。」

T「『始めましょう』『終わりましょう』の普通体は？」

学習者の類推力を助けながら「始めよう」「終わろう」を導く。

右の会話をOHPシートにしてA、Bの役を指名し、普通体に換えさせる。

「どこで会おうか。」

「3時に横浜駅で会おう。」

このポイントができるようにする。

このあと意向形の作り方をよく説明し、動詞単位「行きます→行こう」、文単位

「一緒に映画を見ましょう→一緒に映画を見よう。」の順に変換練習をする。

映画に行く

A:あした暇ですか。

B:ええ。

A:じゃ、いっしょに横浜で映画を見ませんか。

B:いいですね。どこで会いましょうか。

A:3時に横浜駅で会いましょう。

B:わかりました。

A:じゃ、またあした。

[指導留意点]

普通体の概念がかなり定着している段階なので、理解は易しい。

同じ言葉の繰り返しを避ける「そうしよう」も忘れないで教えること。

2. **今度の日曜日は新宿へ行こうと思っています**

[指導内容]

ほかの人に自分のこれからの計画を伝えるときに意向形を用いて「～(よ)う+と思っています」の表現が使われることを教える。

「～(よ)う+と思います」の形もあるが、これはその場の意思の表明になるので、この課では「前からそう考えていて、今もそう思っている」という意味を含む上の例文の形を教える。

[導入例]

カレンダーを見せて今度の日曜日がいつになるのかを確認させたあと、「今度の日曜日は何をするか」の話題から導入する。

T「今度の日曜日は何をしますか。」

S「新宿へ行きます。」

S「わたしは友達と映画を見に行きます。」 etc.

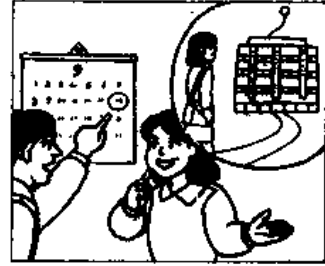
(デパートの折り込み広告などを見せながら)

T「わたしはデパートへ行こうと思っています。」

(「と思っています」で頭を指し、そう頭の中で思っているという動作)

T「あなたは何をしようと思っていますか。」

S「わたしは友達とテニスをしようと思っています。」などが出ればよい。



このあと「新宿へ行きます→新宿へ行こうと思っています。」の練習に移る。口慣らしができたなら、「今晚」「あした」「今度の日曜日」「夏休み」など未来の時を表す言葉を入れた文を変換させて意味の理解を深める。

3. あの映画はまだ見ていません。日曜日に見ようと思っています

[指導内容]

助詞「を」で示される目的語を主題として提示する助詞「は」の用法を教える。

また、行為が現時点で完了していないことを表す「まだ～ていません」を「～(よ)う+と思っています」の表現と関連させて教える。

[導入例]

学習者の事情に合わせて、日本へ来たなら経験すると思われる事柄について現時点での経験の有無、今後の意向を聞く形で導入する。

まず日本へ来てから、どのくらいになるかなど、この間の事情を聞く。

T「日本料理はもう食べましたか。」

S「はい、もう食べました。」

いつ、どこで、何を食べたか、どうだったかなど印象を簡単に聞く。



T「日本の映画はもう見ましたか。」

S 「いいえ、まだ見ません。」は×。

「いいえ、まだ見ていません。」を導き、以下のような板書で説明する。

【板書】

もう 日本の映画を 見ましたか。



日本の映画は もう見ましたか。← 「は」を用いて文のトピックを示すことを説明。

…はい、もう見ました。

…いいえ、まだ見ていません。

練習はまず「もうNを～ましたか。」から「Nはもう～ましたか。」への変換、そのあと「はい、もう～ました。」「いいえ、まだ～ていません。」のQA、最後に「いいえ、まだ～ていません。～（よ）うと思っています。」の形で行う。

【指導留意点】

- (1) 「～（よ）うと思います」と「～（よ）うと思っています」の違いの質問が出たら、その計画が今考えたことなら「～（よ）うと思います」、前から考えていて今もそうなら「～（よ）うと思っています」を使うことを説明する。
- (2) 「～（よ）うと思っています」は実行しようとする気持ちがないと使えない。単なる希望や非現実的な願望を言うときは「～たいと思っています」のほうが適切。
- (3) 「～と思います」（第21課）の推量表現にひきずられて「わたしは今度の日曜日新宿へ行くと思っています。」になる間違いが多い。以下の違いに注意させる。

わたしは今度の日曜日新宿へ 行こう と思っています。

意向形（自分の計画を述べる言い方）

リーさんもたぶん新宿へ 行く と思います。

普通形（ほかの人の状況を推量する言い方）

4. 一生懸命日本語を勉強するつもりです

[指導内容]

自分の意志をほかの人に伝える言い方には「～(よ)うと思っています」のほかに「～つもりです」もあることを教える。

日常会話ではこの二つの言い方は同じように使われることが多く、使い分けが難しい。このテキストでは「～つもりです」は「自分が希望することへの実現に向けて努力する」積極的な気持を表す表現として教える。

内容的には日常的な話題を離れて、将来の計画、ライフプランなどを中心にする。取り上げる形は「意志動詞の辞書形+つもりです」のみ。否定の「～ないつもりです」は扱わない。

[導入例]

学習者が日本へ来た目的を遂行するためにしなければならないこと、将来の夢、目標などを話題にして導入する。

T 「一般研修が終わったら、どこへ実習に行きますか。」

S 「広島へ行きます。」

T 「会社の人と日本語で話さなければなりません。」

会社へ行っても、日本語の勉強を続けますか。」

S 「はい、続けます。」

T 「あなたも続けますか。」

S 「はい、続けようと思っています。」



固い意志を持っているときは「続けるつもりです」がよく使われることを説明する。

T 「日本の会社で何をしますか。」

S 「一生懸命新しい技術を習うつもりです。」

T 「技術を習って、どうしますか。」

S 「国へ帰ったら、工場の人に教えるつもりです。」



[指導留意点]

- (1) 「～つもりです」は接続する動詞の形が易しいので、何にでもこの表現を使う傾向がある。人にわざわざ報告するまでもない日常的な事柄にはこの表現は

使わないことを理解させる。

- (2) 「会社をやめて、どうするつもりですか。」のような質問は非難めいて聞こえる場合があるので、注意する。

★発展指導

カードに次のような内容を書いておいて、ペアの一人が聞き役になって、これからの人生設計について話し合わせる。

「いつ結婚するか。結婚したら、仕事をどうするか。」

「もし今の会社をやめたら、どんなことをしたいか。お金はどうするか。」

「年をとってから、何をしたいか。」など。

5. 8月の終わりに国へ帰る予定です

[指導内容]

自分の意志を人に言うときには「～（よ）うと思っています」と「～つもりです」を用いることを教えた。

これらの表現に対して、自分の意志にはかかわらない、前もって決められた事柄を表す「～予定です」の言い方を教える。

この文型は「予定」という名詞を修飾する連体修飾文になる。

「辞書形+予定です」「名詞の+予定です」の形を扱う。

[導入例]

学習者が決められたスケジュールに従って日本での生活を送っている場合は、その予定表を見せながら導入する。

T 「これは何ですか。」

S 「スケジュールです。」

T 「スケジュールは日本語で何と言いますか。」

S 「わかりません。」

T 「予定です。今日の午後は何ですか。」

S 「講義です。」

T 「講義の予定です。」

明日、来週などの予定を聞き、「～予定です」と言えればよい。

T 「この予定が全部終わったら、どうしますか。」

S 「会社で実習する予定です。」

どこで、何を、どのくらいなどを聞く。

T 「いつ国へ帰りますか。」

S 「8月の終わりに帰る予定です。」

はっきりした日時がわからないときは、おおよその日「～の初めに」「～の終りに」などを用いて言えるようにする。













[指導留意点]

- (1) 直前に「～つもりです」を教えたばかりなので、「会社で実習するつもりです」という答えが出やすい。それは自分が決めたのかどうか聞いて、ほかの人が決めたことであれば、「～予定です」を使うように説明する。
- (2) 「出発する」と共に使われる助詞に注意させる。「～時に～を出発する」の「を」は起点、「～へ出発する」の「へ」は方向を表す。

★発展指導

課長のスケジュールを見て、いつ、どこで、何をするかを「～予定です」を使って話す練習をさせる。Aのスケジュールだけでもよいが、AとBの2枚を作り、二人のペアで不明部分を聞き出させて、課長のスケジュールを完成させる。旅行のスケジュール等でもできる。

課長のスケジュール

		A	B
4/2 月		大阪へ出張 東京  新大阪 15:56発 新幹線のぞみ号 18:26着 グランドホテル泊 	大阪へ出張 東京  新大阪  発  着 ? 泊
	4/3 火	?	会議  9:00~17:00
4/4 水		大阪工場見学  夕食 ?	夕食 日本料理「大和」 18:00~ 大阪工場の 佐藤氏と 
	A M	レポート 	A M ?
4/5 木	P	大阪→ ? →羽田	P 大阪→  →羽田
	M	 発  着	M 14:55発 JAL116便 15:55着

Ⅲ 会 話

[指導目標]

自分のこれからの計画や予定を話すことができる。

[場 面]

夏休みが近づいたある日の昼休み、社員がコーヒーを飲みながら、夏休みをどのように過ごすか話す場面である。

[指導項目]

- (1) 「～なあ」…感じたこと、感動した気持ちを独白的に表す終助詞。会話の例では羨望の意を表す。
- (2) 「よかったら、いっしょに～ませんか」…相手を誘う言い方。
- (3) 「え (!)」…驚きを表す。
- (4) 「いいんですか」…思いがけない、好意的な誘いに対する確認を表す。
- (5) 「楽しみにしています」…期待感を相手に伝える表現。

★発展指導

学習者の国の休暇事情について話させる（有給休暇、長期休暇など。そのような休みのときにはどんなことをして過ごすかなど）。

また日本の事情などを話して比較させてもよい。日本の代表的な観光地についての情報、イラスト入り地図等を用意して、日本にいる間に行きたい所を発表させたり、クラスの仲間と行く相談などをさせてもよい。

第 32 課

I 指導項目

1. ～た／ないほうがいいです	文1	例1・2	A1	B1・2	C1・2
2. ～でしょう	文2	例3・4	A2	B3・4	C3
3. ～かもしれません	文3	例5・6	A3	B5	C4

II 指導項目解説

1. すぐ病院へ行ったほうがいいです

[指導内容]

ほかの人に助言や指示を求める言い方として「～たらいいですか」（第26課）を教えた。この課ではその逆の立場から、ほかの人にアドバイスや指示、忠告を与える言い方として「～た／ないほうがいいです」を教える。

助言をする人は自分が持っている知識、経験や他から得た情報などを基に、相手に最善の方法を勧めるが、助言に従うか否かは相手次第で責任があまり伴わない。

「～ほうがいいです」は「た形」のほかに辞書形にも接続するが、これは扱わなくてよい。文末にはよく終助詞「よ」が使われる。

この表現はやや命令調のニュアンスを伴う場合があるので、目上の人に言う場合は状況を良く考えて使うように指導する。

[導入例]

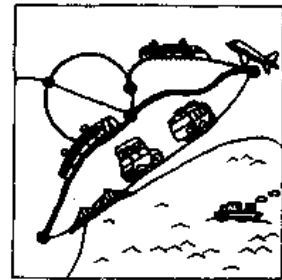
日本にいる間には、病気になったり、トラブルにあったりすることが少くない。そのような場合に日本人が与えるアドバイスや指示、忠告を想定して導入する。

まず比較選択の表現で習った「(Nの)ほうがいいです」(第12課)の形を思い出させる。国から友人が日本へ来たと仮定して、成田空港までの一番いい交通手段を考える話題から入る。何通りかの行き方を書いた地図を用意しておく。

T 「成田空港へ行くとき、何で行ったらいいですか。」

S 「タクシー、(リムジン)バス、電車(成田エクスプレス)…」

- T 「タクシーとバスと、どちらがいいですか。」
 S 「バスのほうがいいです。安いからです。」 (理由も)
 T 「バスで行きます、いいです。」 から
 「**バスで行ったほうがいいです。**」
 T 「バスと電車と、どちらがいいですか。」
 S 「電車のほうがいいです。速いからです。」
 T 「電車で行きます、いいです」 から
 「**電車で行ったほうがいいです。**」



病気になった人に何と一言か考えさせることで導入する。

- A 「どうしたんですか。」
 B 「おなかが痛いんです。」
 T 「AさんはBさんにどんなアドバイスを
 しますか。」



(右の絵で)

- S 「薬を飲みます、病院へ行きます、部屋で寝ます…」
 T 「薬を飲みます、いいです」 「**薬を飲んだほうがいいです。**」
 「病院へ行きます、いいです」 「**病院へ行ったほうがいいです。**」

否定のアドバイスの言い方も導入する。

- T 「Bさんはかぜをひいてしまいました。」
 「Bさんは毎晩お風呂に入ります。
 お風呂に入ってもいいですか。
 Bさんにアドバイスをしてください。」
 S 「お風呂に入ったほうが…よくないです。」は×。
 「**お風呂に入らないほうがいいです。**」
 T 「シャワーを浴びてもいいですか。」
 S 「いいえ、**浴びないほうがいいです。**」が出ればよい。



導入は肯定、否定同時にしてもよいが、練習ははじめに「～たほうがいいです」、
 そのあと「～ないほうがいいです」に分けてあとから混ぜる。

[指導留意点]

(1) この課の病気用語をよく定着させてから、導入をする。新出語が多いので相互に関連づけると覚えやすい。

「かぜをひく」「のどがいたい」「せきが出る」、「熱がある」「熱が上がる」
「熱を計る」、「けがをする」「薬を付ける」「けがが治る」

(2) 「手にやけどをする」の「に」、「医者に診てもらう」の「診てもらう」の言い方に注意させる。

★発展指導

学習者の国に教師が旅行に行くということにして、行く時期、泊まるホテル、見るべき所、買い物する所などをアドバイスさせる。

例：T「タイへ行きたいんですが、いつ行ったらいいですか。4月がいいですか、12月がいいですか。」

S「12月に行ったらほうがいいと思います。暑くないですから。」etc.

2. あしたはたぶんいい天気でしょう

[指導内容]

「～でしょう」はきっぱり断定できないが、今の状況やこれまでの経験から察するに「おそらくそうだ」と確信に近い気持ちで言うときに用いられることを教える。「～と思います」(第21課)と比べると、主観的な判断の意味合いが薄いといえる。確かさの度合いを示す副詞「きっと」「たぶん」と呼応する形で意味の定着を図る。

推測する事柄は現在、未来のことだけでなく、過去のことでも入るが、テキストでは過去についての推測は扱わない。

[導入例]

このところの天気を話題にしてあすの天気を考えることから導入する。




T「きょうの天気はどうですか。」

S「いい天気です。」

T「きのうはどうでしたか。」

S「きのうもいい天気でした。」

T「あしたは…?」

おととい	きのう	きょう	あした
			?

S 「たぶんいい天気だと思います。」から
 T 「たぶんいい天気でしょう。」を導く。
 T 「きょうは暑いですね。あしたはどうでしょうか。」
 S 「あしたもたぶん暑いでしょう。」
 T 「今晚雨が降るでしょうか。」
 S 「いいえ、たぶん降らないでしょう。」

[板書]

降る
降らない
暑い
暑くない
*天気 [だ]
天気じゃない
plain form

でしょう。
 (かもしれません。)
 ↑
 [あとで書き足す]



「～でしょう」は普通形に接続するが、名詞・な形容詞の現在形は「だ」が落ちて、「天気でしょう」「元気でしょう」になることを注意して、練習に入る。

[指導留意点]

(1) 「～でしょう? /」(第21課)もこの課で教える「～でしょう\」も断定を避ける表現で、上昇イントネーションのときは自分の下した推測に間違いがないことを確認することを表し、下降イントネーションのときは話し手の不確かな判断を表す。

「～でしょう」に接続する形は既に教えているので、ここでのポイントは意味の違いをよく理解させることである。

(2) 時間の余裕があれば、天気予報のビデオを見せ、「～でしょう」が多く使われていることをわからせる。

3. 今度の日曜日は雨かもしれません

[指導内容]

断定を避けた推量の言い方という意味では「～でしょう」と同じである。

「～かもしれません」は反語的な「か」、他を類推させる「も」と「知れませんが」に分解できることから、「～かもしれません」というときは、それを否定する「～ではないかもしれません」という意識が隠されている点が「～でしょう」と異なる。このニュアンスを理解させるのは難しいので、「～でしょう」は具体的な根拠に基づいての確信を持った推量、「～かもしれません」はそう判断する根拠も薄く、より不確かな推量の言い方になることを教える。

接続の仕方は「～でしょう」と同じである。推量する事柄が未来、現在、過去に渡ることも「～でしょう」と同じであるが、この場合も過去についての推量はテキストでは扱わない。

[導入例]

不安定な天気の状態から、あしたの天気を考えさせる。また少し先の天気を問題にして導入する。

T 「ずっといい天気です。あしたの天気はどうでしょうか。」 (Aを見せて)

S 「きっといい天気でしょう。」

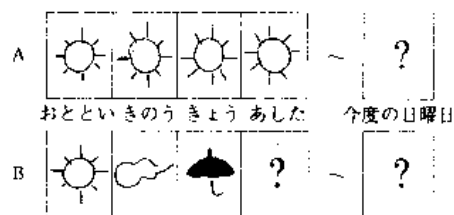
T (Bを見せて)

「おとといはいい天気でした。」

「きのうは曇りでした。」

「きょうは雨です。」

「あしたは？」



S1 「たぶん雨でしょう。」

S2 「いいえ、いい天気でしょう。」

T 「毎日違いますから、あしたは雨ですか、天気ですか、よくわかりません。」

「あしたは雨かもしれません。」

「あしたはいい天気かもしれません。」

このようにはっきりわからないときは、「～かもしれません」を使うことを説明する。

T 「今度の日曜日富士山へ行こうと思っていますが、天気はどうでしょうか。」

S 「雨が降るかもしれません。」

T 「それは困りますね。」

S 「いい天気かもしれません。」

このように出てくれば理解
できている。

かぜの初期症状から最終
的に医者がかぜと断定する
までの過程を絵にすること
でも導入できる。



接続の形の説明、「～だ」が落ちることの注意をして練習に入る。

【指導留意点】

形の定着に重点を置くのではなく、「～かもしれません」と「～でしょう」が適切に使い分けられるように、練習のやり方を工夫すること。

Ⅲ 会 話

【指導目標】

病気になったときに、医者に症状を説明し、診察が受けられる。

【場 面】

病状を訴え、病院に連れて行ってもらう場面は第9課で扱った。ここはかぜをひいて体調を崩したナロンが一人で病院へ行き、診察を受ける場面。

【指導項目】

- (1) 「横になってください」…医者の指示用語。よく使われる「口を開けて、服を脱いで、前／うしろを向いて、仰向けになって、俯せになって（ください）」などを紹介してもよい。
- (2) 「～分」…分量を表す。一日分、一週間分、一か月分など。
- (3) 「お大事に」…病気の人などをいたわる表現。注意を促す「気をつけてください」と異なることに注意させる。

第 33 課

I 指導項目

1. 命令形	文1	例1	A 1・2・3	B 1・2	C 1・2
禁止形	文2	例2	A 1・2・3	B 1・2	C 2
2. ～てくれ		例3	A 4	B 3	C 3
3. ～と言っていました		例4	A 5	B 4・5	C 4

II 指導項目解説

この課では人にあることをするように、またはしないように指示、命令する表現を学習させる。この表現は丁寧さを全く含まないので、待遇関係、使用場面がかなり限られる。その具体的な用法を理解させる。

また、「～てください」は丁寧体の会話で用いられる依頼表現として教えたが、普通体の会話の中では「～てくれ」の形がよく用いられることを教える。

最後に、ある人が発言したことをほかの人に伝える「～と言っていました」の表現を教える。ほかの人からの依頼、命令などもこの形の中に入れて伝えられることを理解させる。

1. 規則を守れ スイッチに触るな

[指導内容]

話し手が聞き手にあることをするように指示、命令する場合は動詞の命令形を用い、また、反対にあることをしないように指示、命令する場合には動詞の辞書形に「な」をつけた禁止形を用いて表すことを教える。このような命令形・禁止形は荒っぽく、威圧的な強い語感があるので、使える状況が限られる。この課では以下のような用法を中心に学習させる。

- ① 目上の男性が目下の者（上司が部下、親が子、兄が弟など）に直接指示、命令、叱責などをする場合。
- ② 作業現場でてきぱきと能率よく仕事をするための指示、また緊急事態発生の場合の指示などをする場合。
- ③ 人の目に触れる場所に書かれた標示や交通標識。

[導入例]

命令形が使われる場面の絵をいくつか用意して導入する。

T 「銀行に泥棒が入りました。

泥棒は銀行員に何と言いますか。」

S 「お金をください。」は×。

T 「**金を出せ!**」(凄んで言う)

「**手を上げろ!**」(同じく凄んで)

命令形を使って言うことを説明する。



T 「子どもがいつもテレビを見て、

勉強しません。お父さんは子どもに何と言いますか。」から

「**勉強しろ!**」(怒った調子できつく)



T 「学校へ行く時間になっても、弟は

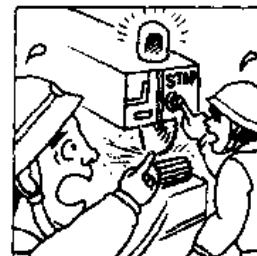
なかなか起きません。兄は弟に何と言いますか。」から

「**早く起きろ!**」(布団を剥がす真似をして)

T 「工場で危険を知らせる赤いランプがつかしました。

工場の人や機械のそばにいる人に何と言いますか。」から

S 「**危ない! 機械を止めろ!**」が出ればよい。



もう一度「出せ」「起きろ」のような動詞の形が命令形と呼ばれることを教える。この命令形は泥棒の場合のように相手がどんな人であろうと自分の意のままに強く命令するとき、目上の男の人が目下の者に指示、命令するとき、緊急時で相手に話し方の配慮をしている暇がないときや作業現場での指示などに使われることを説明する。

[板書]

	命令形
金を	出せ。
手を	上げろ。
早く	しろ。
*こっちへ	来い。

- ← Iグループ (出します)
- ・ IIグループ (上げます)
- ・ IIIグループ (します)
- ・ …… (来ます)



板書で命令形の作り方を導入例で用いた動詞で示す。このときⅢグループの「来ます」は「来い」となることを板書に付け加え、犬を呼ぶときの動作などをして理解させる。

命令形の作り方のプリントを配り、皆で読み合わせをしてルールを確認してから、動詞の絵やフラッシュカードなどを使って、動詞のみの変換練習をし、それができるようになったら、「一生懸命勉強します→一生懸命勉強しろ。」のような短文の変換練習のあと、練習C1のような場面や相手との待遇関係を踏まえた練習をする。

命令形のあとで、禁止形の導入に移る。

これも同様にこのような表現が用いられる場面の絵を見せて導入する。

T「学校のお手洗いで学生がたばこを吸っています。

先生は学生に何と注意しますか。」

S「たばこを吸わないでください。」は×。

T「たばこを吸うな！」(強い調子で言う)

「してはいけない」ことを「しない」ように命令する場合は「吸う」に「な」を付けて言うこと、「～な」は「だめだ、いけない」の意味を表すことを説明する。



右のような絵で状況を簡単に説明し、以下のような答えが出てくればよい。

S「みかんを取るな！」

S「危ない！触るな！」



[板書]

ここでたばこを すう な。
機械に さわる な。

辞書形+な … [禁止形]

板書で禁止形の作り方を説明してから、練習Aのような命令形と禁止形を対照させたプリントを配布し、両方の言い方を読み合わせて理解させたあと、禁止形だけの練習に移る。この場合もまずは動詞だけの変換練習、次に短文の変換練習、最後に命令形と禁止形を混ぜた短文の変換練習を行う。

次に、町や工場の中でよく目にする標示や標識などが表す意味を説明する場合の言い方を導入する。

まず、分冊PARTⅡ (p.57) 「工場の中でよく見る標示」を開けさせて、ざっと一緒に読む。その中から「禁煙」の標示を指す。

T「この漢字は何と読みますか。」

S「禁煙です。」

T「禁煙の意味は何ですか。」

S「たばこを吸うな。」から

T「たばこを吸うなという意味です。」



表す意味について詳しい説明を聞きたいときは「意味は何ですか」ではなく、「どういう意味ですか」のほうがいいこと、また意味を説明するときは「～という意味です」を文の終りに付けることを説明する。

理解の確認のため、「頭上注意」の標識を指して、意味を質問させる。

S「頭上注意はどういう意味ですか。」に、ほかの学習者が

S「上に注意しろという意味です。」と答えられればよい。

例文2のような形で板書をし、「～という意味です」には禁止形だけでなく、肯定の命令形も入ることを説明し、練習に移る。練習は練習B2の絵や町で見掛ける実際の標示を真似て書いたものなどを用いて、主に意味の説明の仕方「～は～という意味です」の形を練習する。

[指導留意点]

- (1) 命令の表現はこの国の言語にもほぼあるので、意味を理解させるのは易しい。命令形をそのまま使う状況は限られており、間違えて使うと大変失礼になるので、注意するよう指導する。
- (2) 命令形は、て形などに比べ、日常で使う頻度が低いため、正しいフォームを忘れやすい。特にⅢグループの「しろ」「来い」が間違えやすいので注意する。
- (3) 母親が子どもに、教師が学生などに何かをするように命じる表現には、命令形よりも丁寧な響きを感じられる「ます形+なさい」があるが、この課では扱わない。
- (4) 漢字で書かれた文字標識は非漢字圏の人には難しい。しかし学習者に余力があれば、漢字が記号として認識でき、意味がわかるように指導してもよい。
- (5) 内容を受ける引用の「と」は「～という意味です」のほかに、「～と書いてあります」「～と読みます」などの使い方も練習C2などを使って簡単に教える。

★発展指導

町の中、駅、道路、日常生活などでよく目に触れる標示について、どういう場所にあったか、何と書いてあって、どういう意味かを発表させる。

①	②	③
入口	営業中	入場無料
④	⑤	
入場料金 大人 千円 子供 五百円	シルバーシート	
	⑥	
	Closed	
⑦		
車庫前に付き駐車禁止		
⑧		
夏物 バーゲンセール オール半額 お買い得	⑨	
	モーニングサービス ￥650	

また、次の例のように標示を見たときの会話を作り、どの標示について言っているのか選ばせてもよい。

会話例 A:まだ開いていると思ったのに、もう閉まっていますね。

B:じゃ、ほかの店へ行きましょう。(6)

2. この荷物は邪魔だから、片づけてくれ

[指導内容]

「～てください」は普通体の会話の中では「ください」を除いた「～て」だけの形で用いられることを教えた(第20課)。この課では「～てください」の普通形としてこのほかに「～てくれ」の形があることを教える。「～て」だけの依頼の表現は男女ともに使うが、「～てくれ」は丁寧さを含まないため、女性は使わず、男性が親しい同輩、または目下の者に何かを頼む場合に用いられることを理解させる。

[導入例]

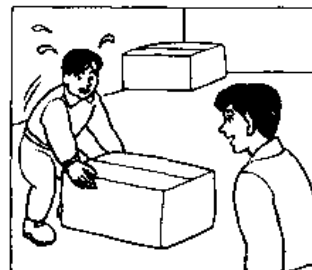
これもいくつかの場面を絵で見せて、状況を説明しながら導入する。

T「うちを建てました。新しいうちに全部荷物を運ばなければなりませんから、友達が手伝いに来ました。

この荷物は重いですから、一人で持てません。友達に何と言って、頼みますか。」

S「ちょっと手伝ってください。」

「いっしょに持ってください。」



男の人は友達には「～てください」ではなく

「～てくれ」を使うことを説明する。前件に理由を用いた次のような文を示す。

「一人で持てないから、ちょっと手伝ってくれ。」

「重いから、いっしょに持ってくれ。」

主として男同士の普通体の会話では「～てくれ」が用いられることを説明する。

次に上の立場の男性が下の者に頼む場合の応答の仕方を導入する。

T「会議のまえに、資料をコピーしたいです。

この男の人は部長の下で働いています。

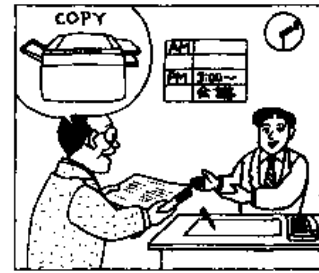
部長はこの人に何と言って、頼みますか。」

S「この資料をコピーしてくれ。」

T「男の人は部長に何と答えますか。」

S「はい、わかりました。」

友達には「いいよ」でよいが、部長には丁寧に答えなければならないことを説明する。



そのあと練習に移る。

まず「ちょっと手伝います→ちょっと手伝ってくれ。」の簡単な変換練習のあと、「荷物を運びます、手伝います→荷物を運ぶから、手伝ってくれ。」のような文の変換練習をする。そのあと練習Cのような状況に応じた談話練習を行う。

[指導留意点]

- (1) 「～てください」が「～てくれ」になるだけなので、「て形」ができていればすぐ言える。動詞の命令形ほどのきつさはないが、命令に近いニュアンスを持つので、使える人間関係や場面をきちんと教える。
- (2) 「～てくれ」より遠慮がちな頼み方になる「～てくれないか」（男性）、上昇インネーションで使う「～てくれない」（女性）はこの課では扱わない。
- (3) 「～ないてください」も「～ないでくれ」になるが、「ください」の部分が「くれ」になることがわかれば易しく、使う場面も「～てくれ」よりもっと限られるので、この課では扱わない。

3. 吉田さんは会議の資料を送ってくれと言っていました

[指導内容]

話し手が第三者の言ったことばを要約して間接的に聞き手に伝える時に「～さんは～と言っていました」の形で表すことを教える。

第三者の依頼、指示、命令の内容も伝えられること、伝える内容は普通形に言い換えて引用することを理解させる。

[導入例]

電話の伝言を伝える場面から導入する。

病気で会社を休む場合の電話を学習者にかけてさせる。

S「もしもし、東京電気ですか。」

ラオですが、加藤さんをお願いします。」

T「ああ、ラオさん、おはようございます。

加藤さんはまだ来ていません。」

S「すみませんが、きょうは会社を休みます。」

T「どうしたんですか。」

S「かぜをひいて、頭が痛いんです。」

T「わかりました。お大事に。」



しばらくして加藤さんが会社に来た状況を作る。

T「あ、加藤さん、さっきラオさんから電話がありました。

ラオさんはきょう会社を休むと言っていました。」

ラオさんが言ったことをほかの人に言うときは、「ラオさんは～と言っていました」の形を使い、「会社を休みます」を「会社を休む」と普通形に直して「と」を用いて引用することを説明する。

右のような絵を見せて、加藤さんが言ったことを佐藤さんがラオさんに伝える場面を説明する。

T (加藤)「佐藤さん、2時に事務所へ来て
ください。ラオさんにも言って
ください。」から

T (佐藤)「加藤さんは2時に事務所へ来て
くれと言っていました。」を導く。



「～てください」は普通形の「～てくれ」にすることを説明する。

「～てくれ」はそのままで用いる場合は、男性しか使えないが、ほかの人のメッセージを伝える場合は女性も使えることを補足する。

[板書]

ラオさんは	きょう会社を 休む	と言っていました。
加藤さんは	2時に事務所へ来てくれ	
	↑	
	[普通形]	

このあと練習に移る。

[指導留意点]

- (1) 「～と言いました」（第21課）と、この課の「～とっていました」の違いは、前者は第三者の発話を事実として述べることに重点が置かれるのに対し、後者は第三者が言った内容を聞き手に伝えることを主眼とする点にある。
- (2) 「～とっていました」と「～ました」の形になるが、「～と」で受ける内容は第三者が発言したときのままの形で、時制の一致はないことに注意させる。
例：「部長はあした大阪へ出張すると言っていました。」
- (3) 伝言の内容によっては語句をほかの言葉に置き換えなければならない場合があるので、注意する。例えばAさんの発言「あした そちらへ 行きます。」をその翌日伝えるとき、「Aさんは きょう こちらへ 来ると 言って いました。」になる。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

作業現場では事故やけがを未然に防ぐための安全管理を大切にしていることを理解させる。

[場 面]

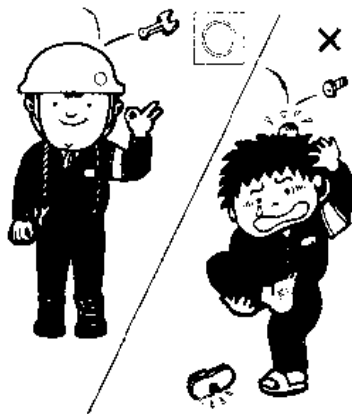
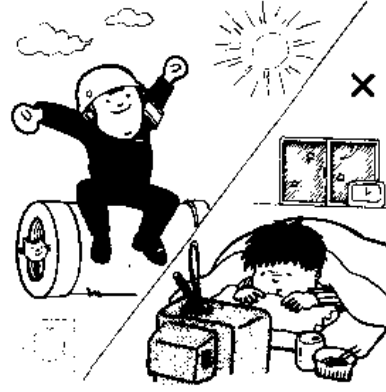
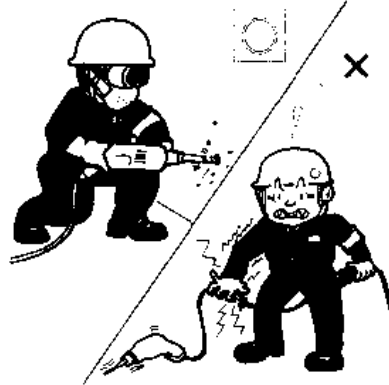
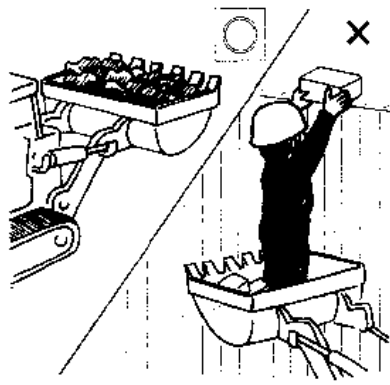
リーは指導員の中村から工場に入るとき注意事項を聞く。その後、実際に工場を案内してもらいながら安全指導を受ける。

[指導項目]

- (1) 「必ず」…「必ず～する」の形で、怠りなくする意味。朝起きてから必ずすることや、出かけるまえに必ずすることなどを聞いて、理解の確認をする。「必ず」と「きっと」、「ぜひ」との違いを聞かれることがあるが、この場合は「きっと～でしょう」、「ぜひ～たいです／てください」のように文末表現と呼応させた形で意味の違いを説明する。
- (2) 「安全が第一」…工場の中では安全が何よりも大切という意味。

★発展指導

作業現場では事故を防ぐための安全指導が厳しく行われている。例えば下のよ
うな例で×印の行為はどうしていけないのか、その理由などを話し合わせる。



第 34 課

I 指導項目

1. ～とおりに	文1	例1・2	A1	B1・2	C1・2
2. ～あとで	文2	例3・4	A2	B3・4	C3
3. 1)～て／ないで		例5	A3	B5	C4
2)～ないで	文3	例6	A4	B6	

II 指導項目解説

1. 今わたしがやったとおりに、エンジンを組み立ててください

[指導内容]

「とおりに」は動詞に接続する場合は、「するとおりに」「したとおりに」、名詞に接続する場合は、「Nのとおりに」「Nどおりに」などがある。この課では動詞は「～たとおりに」、名詞は「Nのとおりに」の形で教える。

この表現は「ある人が行った動作を規範として、別の人がそれと全く同じ動作をする」ときに、また「ある基準から寸分もたがわぬようにある動作をする」ときに使われる。類似した表現に例示を表す「～ように」があるが、一致性という点では「～とおりに」のほうが高い。

[導入例]

教師の動作を真似させることで導入する。

T「今からわたしがいろいろします。手を上げます、下げます、前、うしろ、右、左…」(いくつかの動作をして見せたあとで)

T「わたしがやったとおりに、やってください。」と指示する。

初めゆっくり、だんだんテンポをあげて、間違った人がいたら、

T「わたしがやったとおりに、やってください。」と再度言う。

文字を書かせることでも導入できる。黒板に字形が難しく、間違いやすい漢字を教師がまず書いて見せて、誰かを指名して書かせる。



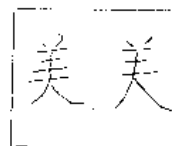
T「今わたしが書いたとおりに、書いてください。」

教師が指名された人の書いた字をチェックする。

T「ここが違いますね。書く順序が違いましたね。」などと指摘。

T「もう一度書きますから、よく見ていて
ください。」（ゆっくり書く）

T「今わたしが書いたとおりに、書いてください。」
「今わたしが教えたとおりに、書いてください。」



教師が言ったとおりに、文字を書きとらせたり、一人を呼んで小さい声で耳打ちした言葉を「わたしが言ったとおりに、言ってください。」と皆に伝えさせる方法もある。

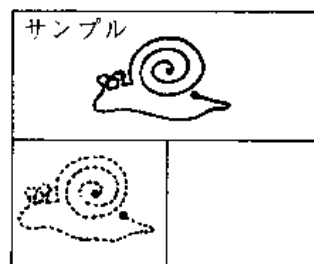
「～たとおりに」の練習が終わったら、「名詞+のとおりに」の導入に移る。
簡単な絵を書いた紙を渡し、同じ絵を書かせることで導入する。

上にサンプル、その下に点線入りの絵と空白スペース。

T「この線のとおりに、切ってください。」

T「この絵のとおり、ここに絵を書いて
ください。」

様子を見て回り、違う人がいたら、もう一度「この絵
のとおり、…」など注意する。



[指導留意点]

- (1) 導入は「名詞+のとおりに」のほうが易しいので、先にしてもいい。
- (2) 「～とおりに」は目に見える動作については、実際に手や体を動かしたりして理解させる。「言った／説明した／話した／教えたとおりに」など、言語的な指示はわかりにくいので、具体的な状況で理解させてから、練習をする。
- (3) 「今わたしがやったとおりに」の「今」は文字通りの「現在」の意味でなく、「たった今」の意の過去を表すことに注意させる。

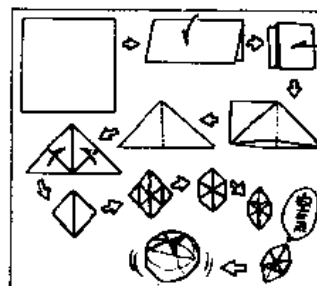
★発展指導

折り紙を使って、指示に従って簡単な物を作らせる。

折り紙と折り方を書いた図を渡して

「この図のとおり、○○を作ってください。」

教師がやり方を見せて



「わたしがやったとおりに、作ってください。」など。

2. 仕事が終わったあとで、友達と食事に行きます

[指導内容]

二つの動作・行動についてその時間的順序を問題にするときに、「～あとで」が使われることを教える。

動詞の場合は完了を表す「た形」に接続し、名詞の場合は動作性名詞（仕事、食事など）に接続し、「Nのあとで」となる。

[導入例]

仕事が終わって、うちへ帰ってから、何をやるかのやり取りから導く。

T 「うちへ帰ってから、何をしますか。」

S 「晩ごはんを食べて、テレビを見て、勉強して、…、それから寝ます。」

T 「いつお風呂に入りますか。」

晩ごはんを食べるまえに、入りますか。」

S1 「はい、晩ごはんを食べるまえに、入ります。」

S2 「いいえ、晩ごはんを食べてから、入ります。」

T 「わたしも先に晩ごはんを食べます、あとでお風呂に入ります。」

(「食べます」と「お風呂に入ります」の絵を順に見せ)

「晩ごはんを食べたあとで、お風呂に入ります。」



理解の確認と「Nのあとで」の導入を合わせて、いつ勉強するかを問題にする。

T 「いつ勉強しますか。晩ごはんを食べるまえに、しますか。」

食べたあとで、しますか。」

S 「晩ごはんを食べたあとで、します。」から

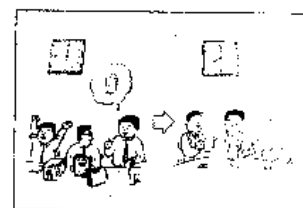
「晩ごはんのあとで、勉強します。」を導く。

終業後の過ごし方を話題に導いてもよい。

T 「仕事は何時までですか。」

S 「5時までです。」

T 「それから何をしますか。」



S「友達と飲みに行きます。」

T「5時まで仕事をします、それから友達と飲みに行きます」
「仕事のあとで、友達と飲みに行きます。」

[指導留意点]

類似した表現に「～てから」（第16課）がある。「～てから」は「薬を飲んでから、寝る」のように、ある事柄に引き続いて何かをするという動作の連続性を示すのに対し、「～たあとで」は「食事をしたあとで、この薬を飲む」のように、時間的前後関係に重点が置かれる場合に使われる点に留意して教える。

「～あとで」は「仕事のあとで、食事に行く」のように、場面の転換性が感じられる点は特に指導しなくてもいいが、ドリルを作る際考慮する。

3. 1) マニュアルを見て機械を操作します
マニュアルを見ないで機械を操作します

[指導内容]

「～て」「～ないで」は主節の動詞を修飾する副詞節で、「人がどのような状態で、ある行為をするか」を説明するときに使われる。

この課では「マニュアルを見て／見ないで機械を操作します」のように、一方はある事をして、もう一方はそれをしないで何かを行うというペアの形で意味の定着を図る。

[導入例]

その日の試験を見せて質問する。

T「本を見て答えを書きましたか。」

S「いいえ、見ませんでした。」から

T「本を見ませんでした、書きました」

「本を見ないで書きました。」



「見て書きます」「見ないで書きます」の意味をジェスチャーでわからせる。

出勤前の状況を話題にしてもよい。

T「うちから会社まで遠いですか。どのくらいかかりますか。」

S「いいえ、あまり遠くないです。30分ぐらいです。」

T 「毎日必ず朝ごはんを食べて会社へ行きますか。」

S 「はい、朝ごはんを食べて行きます。」

T 「あなたも朝ごはんを食べて行きますか。」

S 「いいえ、ときどき食べません。」

T 「どうして食べないんですか。」

S 「遅く起きますから、時間がありません。」から

T 「ときどき朝ごはんを食べません、
会社へ行きます」

「ときどき朝ごはんを食べないで会社へ行きます。」



[板書]

朝ごはんを <u>食べ</u> ます、会社へ行きます	朝ごはんを <u>食べ</u> ません、会社へ行きます
↓	↓
朝ごはんを <u>食べ</u> て会社へ行きます。	朝ごはんを <u>食べ</u> ないで会社へ行きます。

「朝ごはんを食べます、会社へ行きます→朝ごはんを食べて会社へ行きます。」
の練習を先にしてから、

「朝ごはんを食べて会社へ行きます→朝ごはんを食べないで会社へ行きます。」
の練習を行う。

時間の余裕があれば、「～ないで」の場合は理由を付け加える練習も入れる。

[指導留意点]

「～て～します」に類似した表現に「～ながら」（第28課）があるが、これは状態を説明するのではなく、同時進行の行為を並べたものである。

2) ゆうべは寝ないで、勉強しました

[指導範囲]

この場合の「～ないで、～します」は1)で扱った状況説明的な「～ないで」とは異なり、対立的な二つの動作、行為を接続するときに使われることを教える。

「AをしないでBをする/した」という二者択一的な意味である。

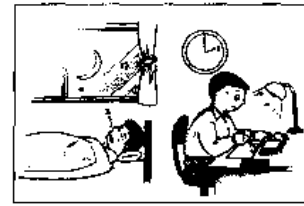
[導入例]

試験の前日の夜を話題にして導入する。

T 「あした試験があります。もう12時です。
でも勉強はまだ全部終わっていません。
どうしますか、寝ますか、勉強しますか。」

S 「寝ません。一生懸命勉強します。」から

T 「寝ないで、一生懸命勉強します。」を導く。



仕事が忙しいときの休日出勤を話題にしてもよい。

T 「仕事がたいへん忙しいです。

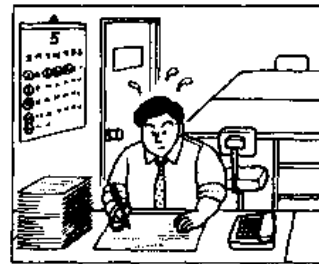
あしたは土曜日で、会社は休みです。

休みますか、働きますか、

どうしますか。」

S 「働きます。」

T 「休まないで、働きます。」



★発展指導

「寝ないで、勉強します」「日曜日も休まないで、働きます」などは国によっては理解できない人もいます。日本人の働きぶりなどを例に、日本事情について話す練習に発展させてもよい。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

作業の指導を受けたときに、簡単な手順の説明が聞いてわかる。

[場 面]

実習が始まって間もなくのOJT（実務訓練）。アリは指導員の小川からモーターの組み立て方を習う。

[指導項目]

- (1) 「アリさんに組み立ててもらいます」…この場合の「～てもらいます」は自分が恩恵を受ける意味でなく、相手に一方的に依頼、または命令をする意味。
- (2) 「いけない」…禁止の意味でなく、間違いや失敗をしたとき思わず発する言葉。「電車を降りてから、すぐ忘れ物に気付いたとき」など。
- (3) 「【これ】でいいですか」…内容の是非について確認を取る言い方。
- (4) 「うまくなりましたね」…成功したとき、思い通りになったとき使われる。

★発展指導


OJTの内容は研修分野によって語彙が異なるので、料理の作り方に変えてもよい。自分の好きな料理の作り方を右の言葉を参考に書かせる。

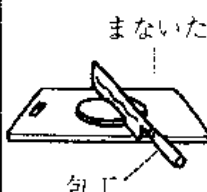





例：すき焼きの作り方

- 1.肉を焼く。
- 2.醤油、砂糖、みりん、お酒など割下を入れる。
- 3.野菜や他の材料を入れて、煮る。

↓

生玉子をつけて食べる。



<p>切る</p> <p>まないた</p>  <p>包丁</p> <p>半分に</p> <p>3つに</p> <p>小さく</p>	<p>混ぜる</p> <p>ボール</p>  <p>調味料</p> <p>塩 醤油</p> <p>砂糖 胡椒</p>	<p>焼く</p>  <p>いためる フライパン</p>  <p>煮る</p>  <p>ゆでる なべ</p> 
--	--	---

第 35 課

I 指導項目

1. ～ば	文1	例1・2	A 1・2・3	B 1・2・3・6	C 1・2
～ければ	文2	例3	A 4	B 4・6	
2. ～なら	文3	例4・5	A 5	B 5・6	C 3・4

II 指導項目解説

条件を表す言い方として「このボタンを押すと、機械が止まります」「この道をまっすぐ行くと、駅があります」（第23課）、「もし雨が降ったら、ピクニックに行きません」「昼ごはんを食べたら、見学に行きます」（第25課）などの意味・用法を提出した。条件を表す言い方にはこの「～と」「～たら」のほかに「～ば」の形があることを教える。

1. このボタンを押せば、テレビがつきます

[指導内容]

このテキストでは「読めば」「安ければ」「簡単なら」「天気なら」などの形を条件形と呼ぶ。

この課では条件形の用法を以下の2つにまとめて教える。

- ① 上の例文のように前件Xが成立すれば必ず後件Yが成立する「XばY」という形になる内容。第23課の「～と」に重なる用法で、一般的な事実や論理的関係を述べる。「XばY」という論理の裏には「XでなければYにならない」という対比性を暗に含む。
- ② 「XばY」が前提条件に基づく展開を示す場合。相手の発言内容をそのまま受けたり、話し手がその場の状況を判断したりして、「そういうことならば、次のようにする、次のようにしてください」など、話し手の主観的な判断を表す。

A：使い方がわかりません。

B：わからなければ、この説明書を読んでください。

なお以下のような「～ば」の用法はこの課では扱わない。

「急げば、間に合ったのに…」 (反実仮想)

「たばこを吸う人もいれば、吸わない人もいます。」 (並列)

「荷物は軽ければ、軽いほどいいです。」 (比例)

[導入例]

まず①の用法を動詞の肯定形に絞って導入する。

T 「テレビを見たいです。どうしますか。」

S 「このボタンを押すと、テレビがつきます。」は

T 「このボタンを押せば、つきません。」でもよいと説明。

T 「音が小さいですね。どうしますか。」

S 「このボタンを押せば、音が大きくなります。」を導く。



「日本語が上手になる方法」を話題にする。

T 「どうしたら、日本語が上手になりますか。」

S 「一生懸命勉強したら、上手になります。」から

T 「一生懸命勉強すれば、上手になります。」

他の条件も考えさせる。

T 「たくさん話します…」

S 「たくさん話せば、上手になります。」

次に②の用法も簡単に導入する。

T 「日本にどのくらいいますか。」

S 「1年います。」

T 「そうですか。1年いれば、日本語が上手になります。」

理解ができれば、動詞の条件形「～ば」の作り方をグループごとに説明し、そのあと絵やフラッシュカードで「～ば」の言い方がスムーズに出るまで練習する。それができたら、文と文を「～ば」で結合する練習に移る。

動詞の否定形は肯定形と同時に導入する方法もあるが、動詞の肯定形がきちんとと言えるようになったら、肯定形で導入した内容を裏返しした言い方で理解させ

る。

T 「一生懸命勉強すれば、日本語が上手になります。」

「一生懸命勉強しなければ、上手になりません。」

否定形は「～なければ」の形になることを説明する。

T 「日本人と話せば、日本語が上手になります。」

T 「日本人と話しません…」

S 「日本人と話をしなければ、日本語が上手になりません。」

このように言えたら、否定形は第17課の「～なければなりません」の「～なければ」と同じことに気づかせて、「話しません→話をしなければ」のような語レベルの変換練習をしたあと、結合練習に移る。

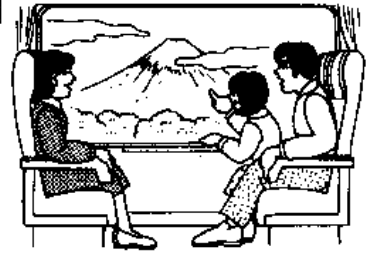
動詞の肯定、否定の条件形が定着したら、形容詞の条件形を導入する。できれば、東京タワーや新幹線から見える富士山の絵を用意しておく。

T 「新幹線からいつでも富士山が見えますか。」

S 「いいえ。天気がよかったら、見えますが、
天気が悪かったら、見えません。」から

T 「天気がよければ、富士山が見えます。

天気が悪ければ、富士山が見えません。」



を導く。い形容詞の場合は「～い」を「～ければ」

に換えること、「いい」は「よければ」になることを説明する。

な形容詞・名詞の場合もここで導入する。

T 「今晚暇ですか。」

S 「はい、暇です。」

T 「暇なら、いっしょにビールを飲みませんか。」

S 「いいですね。」

次にリーさんには断らせる。

T 「リーさんもいっしょに行きませんか。」（行けない理由を指示する）

S 「すみません。今晚はちょっと都合が悪いです。」

T 「じゃ、あしたはどうですか。」

S 「はい、あしたなら都合がいいです。」を導く。
 な形容詞と名詞は「～ければ」でなく、「～なら」になることを説明する。

T (問題用紙を見せて) 「この問題がわかりますか。」

S 「簡単なら、わかりますが、難しければ、わかりません。」

T 「今度の日曜日は出かけますか。」

S 「はい、いい天気なら、出かけます。」

このように言えたら、い形容詞、な形容詞ごとに語単位で「～ければ」「～なら」の変換練習をしてから、結合練習に移る。

[指導留意点]

- (1) 条件形は『新基礎 I』の「～と」「～たら」と意味・用法が重なる内容が多いため、これらの言い方の使い分けに深入りし過ぎると、混乱させてしまう恐れがある。

この課ではまず「～ば」の形の定着に重点を置き、「～ば」の特徴的な用法が理解できるように練習文を吟味し、前件の条件を提示して後件を考えさせたり、後件を与えて前件を作らせたり、有効的な練習方法を工夫する。

- (2) この課の終わりに「～たら」と「～ば」の形の違いを次のようにまとめると、学習者の理解の整理に役立つ。

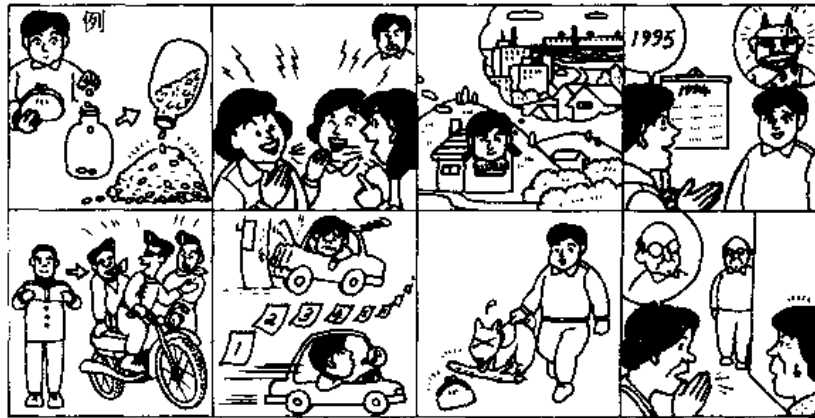
～たら	いったら	なかったら	やすかったら	ひまだったら	あめだったら
～ば	いけば	なければ	やすければ	ひまなら	あめなら

- (3) 動詞の否定形は第17課の「～なければなりません」の形で口慣らしができていたので、比較的易しい。い形容詞・な形容詞・名詞の否定形は学習内容が多くなるので、この段階では扱わなくてよい。
- (4) 「疑問詞～ばいいですか」は「疑問詞～たらいいですか」(第26課)と同様にほかの人にアドバイスを求める表現になるが、このテキストでは扱わない。

★発展指導

「～ば」を用いた諺を教える。諺が表す絵を下から選ばせ、意味を考えさせる。

- 例：塵も積もれば山となる
 住めば都
 来年のことを言えば鬼が笑う
 犬も歩けば棒に当る
 のどもと過ぎれば熱さ忘れる
 朱に交われば赤くなる
 女三人寄ればかしましい
 噂をすれば影



2. カメラなら、新宿が安いです

[指導内容]

な形容詞・名詞の条件形は「～なら」になるが、このほか「名詞＋なら」の形で、相手が持ち出した話題を主題として、それに対する自分の主観的判断や主張を述べる用法を教える。

[導入例]

学習者の買いたい物を聞いたあと、アドバイスを与える形で導入する。

T「今何がいちばん買いたいですか。」

S「カメラを買いたいです。」

T「いい店を知っていますか。」

S「いいえ、どこで買ったらいいですか。」

T「カメラなら、新宿がいいです。」

店も多いし、値段も安いからです。」 ワープロなら東京電気がいいです。



T 「リーさんは何を買いたいですか。」

S 「車を買いたいです。」

T 「日本の車ですか。」

S 「はい。」

T 「日本の車なら、ATMの車がいちばんいいです。故障が少ないですから。」

このように何人かに聞いて、「名詞+なら」の文機能を理解させる。

理解の確認のために、反対に学習者からアドバイスさせる。

T 「タイシルクを買いたいんですが、どこで買ったらいいですか。」(タイ人に聞く)

S 「タイシルクをお、ジムトブツシがいいです。」

T 「どうしてですか。」

S 「ちょっと高いですが、種類が多いですから。」

このあと「日本の車、ATM→日本の車ならATMがいいです。」のように、学習者がよく知っているメーカーを挙げて、文機能の理解を助ける練習をする。そのあと、「ビールを飲みたいです」に対し、「ビールなら〇〇〇がおいしくて、いいです。」など、学習者に考えさせる練習を行う。

[指導留意点]

- (1) 「名詞+なら」の「~なら」は「~に関して言えば」に近い意味になる。学習者の興味を引き付ける内容で、理解も定着もよい。
- (2) 日本のことだけでなく、学習者の国のお土産品、観光地などを推薦してもらうとよい。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

自分が買いたい商品について、簡単な説明を販売店の人から聞くことができる。また、値引きの交渉、配達依頼ができる。

[場 面]

ラオは電気製品を売っている店へ行行って、ビデオを買う。

[指導項目]

- (1) 「(いろいろ) ございます」…「ございます」は「あります」の丁寧語。店の人が客に対して丁寧な言葉を使っていると説明する。
- (2) 「安くなりませんか」…値段を値切る言い方。ほかに「まけてください」「これ以上安くないんですか」などの言い方を紹介してもよい。
- (3) 「いや」…「いいえ」の意味。男性がよく使うことを説明する。
- (4) 「これ以上は無理ですね」…学習者からなぜ「これ以下」ではないのかと聞かれることがある。この場合の「これ以上」は「これ以上まけること」の意味で、値段の下げ幅を示していることを理解させる。
- (5) 「【配達】を願ひできますか」…配達を依頼する言い方。「お願いします」に比べ、相手にその可能性を尋ねている分丁寧なニュアンスを含むことを理解させる。
- (6) 「かしこまりました」…商売やビジネスで、客に承諾の意を伝えるときに用いられる。

★発展指導

次のようにA（客）、B（店員）に分けて、会話の流れをカードにし、買い物の場面の会話を発展させる。買いたい物やセールスポイントなどは分冊PART II (p.61)の「8.身近な製品と機能」を利用したり、実際の広告やパンフレットなどを見せたりするとよい。

A	B
店に入る	挨拶
↓	
買いたい物を店の人に言う	店の中の案内
↓	
品物についての質問	客の質問に答える (セールスポイントを言う)
↓	
値段を安くしてもらう	値段を決める
↓	
重い物は配達を頼む (都合のよい日を言う)	配達先を聞く

セールスポイントの例

このテレビは衛星放送が見られる。

このカメラはパノラマ写真が撮れる。

このビデオカメラは軽くて、操作が簡単だ。

第 36 課

I 指導項目

1. ～ように	文1	例1・2	A1	B1・2	C1
2. ～ようになりました	文2	例3・4	A2	B3・4	C2・3
3. ～ようにしてください	文3	例5・6	A3	B5・6	C4

II 指導項目解説

1. 日本語が上手になるように、一生懸命勉強します
家族が心配しないように、手紙を書きます

[指導内容]

ここではある目的、目標を実現するための意志的行為を表す言い方を教える。この表現は「節1ように、節2」の形で表され、節1は到達目標を、節2はそれに近づくための努力を示す。今は「そうでない（できない）状態」から、将来は「そのようになる（できる）状態」を目指して、ベストを尽くすという内容を中心に教える。

節1には状態変化を表す自動詞「なります」や可能の意味を表す可能動詞、「わかります」「見えます」「聞こえます」などの動詞の辞書形が用いられる。節2には意志動詞が表現意図に基づいていろいろな形で用いられる。

「節1ないように、節2」の形も、目標達成のための努力を表すことは変わらない。この場合は「そのような状態にならない」ことが目標となる。

節1が肯定形・否定形であるとかかわらず、節2に用いられる動詞が意志動詞である点は変わらない。

[導入例]

「ピアノが弾ける」「泳げる」「ワープロが打てる」「運転ができる」など、練習の成果が目に見えるものを話題に導入する。

例えば「車の運転」を話題にして、皆に「運転ができるか、できないか」を聞く。そのあと右のような絵を見せる。



T「彼は運転が上手です。いつも恋人と車でいろいろな所へ遊びにいきます。」

T 「この人は運転ができません。

いつも一人で寂しいです。」

T 「この人はどうしたらいいと思いますか。」

S 「運転を習います。」

教習所で必死に練習している絵を見せながら、

T 「運転ができます、毎日練習します。」

「運転ができるように、毎日練習します。」を導く。



T 「皆さんは毎日勉強しています。

一生懸命勉強したら、どうなりますか。」

S 「日本語が上手になります。」

「日本語がよくわかります。」

「日本語が上手に話せます。」

答えを右のような図にして、今はその途中で
あると説明する。



「日本語が上手になるように、一生懸命勉強します。」

「日本語が話せるように、一生懸命勉強します。」

節1に使われる動詞の制約について簡単に説明したあと「～ように」の肯定形
のみの練習に入る。

「～ように」の肯定形の言い方が定着したら、否定形の導入に入る。

T 「ときどき家族に手紙を書いていますか。」

S 「はい、書いています。」

T 「どうして手紙を書きますか。」

S 「家族が心配しますから。」

右のような絵を見せながら、

「家族が心配しないように、手紙を書きます。」



「忘れないように、メモを取ります」「かぜをひかないように、セーターを着
ます」など、ほかの絵を見せて、「～ないように」の形が出るか確認してから、
練習に移る。

[指導留意点]

- (1) 「～ように」の文型導入のまえに、可能動詞の作り方、その辞書形（話せませ→話せる）をよく復習しておく。
- (2) 「できるよように／上手になれるよように」という間違いが出ることもある。「できる」「わかる」「見える」「聞こえる」などはその語自体に可能の意味を含んでいるので、そのままの形で使うこと、「なる」はそれ自体が変化を表す言葉なのでそのままの形で用いることを注意しておく。

2. 日本語が話せるよようになります

[指導内容]

状態変化を表す言い方は「寒くなります」「きれいになります」「病気になります」（第19課）で形容詞、名詞の場合だけを提出したが、この課では動詞の場合の言い方を学習させる。

「ある状態から違う状態に変化する／した」という意味を表すときに、「～よようになります／なりました」の形が使われることを教える。

「少し」「かなり」「ほとんど」など程度を表す副詞と呼応させて意味の定着を図る。

この文型も1の文型と同様に可能動詞、「できます」「わかります」「見えます」「聞こえます」など状態を表す動詞の辞書形に接続する。

[導入例]

「なります」の復習をしながら、子どもの成長過程を話題にして導入する。

S 「子どもはだんだん大きくなります。」

T 「1歳になります。どうなりますか。」

S 「歩けます。」

T 「歩けます、なります。」

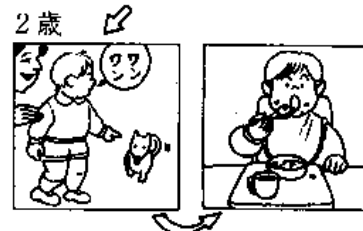
「歩けるよようになります。」

T 「2歳になります。どうなりますか。」

S 「ことばが話せます。」から

T 「ことばが話せます、なります。」

「ことばが話せるよようになります。」



T 「一人でごはんが食べられますか。」

S 「はい、食べられるようになります。」

が出ればよい。

[板書]

おおきいです (い形容詞)		おおきくなります。
げんきです (な形容詞)	→	げんきになります。
あるけます (動詞)		あるけるようになります。

日本語について話題にし、程度の副詞を入れながら導入する。

T 「日本へ来たとき、日本語がわかりましたか。」

S 「いいえ、全然わかりませんでした。」

T 「今はどうですか。」

S 「少しわかります。」

T 「6か月勉強します。どうなりますか。」

S 「かなりわかります。」から

「かなりわかるようになります。」

T 「1年日本にいます。どうなりますか。」

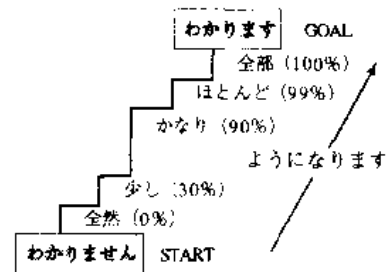
S 「ほとんどわかるようになります。」

T 「皆さん日本語がわかるようになりましたか。」

S 「はい、少しわかるようになりました。」

T 「日本へ来たときは、どうでしたか。今はどうですか。」から

S 「初めは全然わかりませんでした、今は少しわかるようになりました。」



理解ができたらず「日本語がわかります→日本語がわかるようになりました。」の言い方を副詞も入れて練習する。

「～ようになりました」が言えるようになったら、「～ようになりましたか」の質問に「いいえ」で答える言い方の導入に移る。

T 「日本語が話せるようになりましたか。」

S 「はい、少し話せるようになりました。」

T (非漢字圏の人に) 「漢字はどうですか。書けるようになりましたか。」

S 「いいえ、なりません／なりませんでした」は×。この場合は

「いいえ、まだ書けません。」可能動詞の否定形を用いることを説明する。

T 「漢字が書けるようになりたいですか。」

S 「はい。書けるようになりたいです。」から

「わたしはまだ漢字が書けません。早く書けるようになりたいです。」

現在の不可能の状況と将来への希望の言い方を導く。

まず「～ようになりましたか」の質問に対し、肯定、否定で答える練習をする。そのあと「まだ～ません、早く～ようになりたいです」の言い方の練習をする。

[指導留意点]

(1) この文型は「～ように、～ます」よりも理解させやすい。しかし、副詞の導入、否定の答え方、「～ようになります／なりました／なりたいです」などいろいろな言い方があり、手際良く教えないと、難しく感じさせてしまう。

(2) 「わかる」「できる」などがそのままの形で使われるので、他の動詞も可能動詞にしないで「食べるようになりました」の形にする間違いが多い。理解の良いクラスにはそれらの意味の違いを簡単に説明してもよい。

「初めは食べられませんでした、今は日本料理が食べられるようになりました。」「日本人は肉を食べませんでした、100年ぐらい前から食べるようになりました。」前者は状態変化、後者は習慣の変化を表す。

3.

必ず時間を守るようにしてください
このスイッチに絶対に触らないようにしてください

[指導内容]

既習の依頼の表現、「～てください」(第14課)、「～ないてください」(第17課)が直接的な依頼表現であるのに比べ、「～ようにしてください」は遠回し

に丁寧な依頼するときや、その場かぎりのことでなく、常日頃心掛けてほしいことを指示するときによく使われることを教える。

「必ず～（する）ようにしてください」、「絶対に～ないようにしてください」というように副詞と呼応させた形で意味の定着を図る。

[導入例]

意味の理解しやすい「～ないようにしてください」を事務所内での禁煙を話題に導入する。

T 「事務所ではタバコを吸ってもいいですか。」

S 「はい、いいです。」

T 「いいえ、だめです。事務所は禁煙です。」

日本の会社では事務所は禁煙の所が多いことを簡単に説明し、

T 「事務所ではタバコを吸わないようにしてください。」

今日だけでなく、毎日守らなければならないときはこのように言うことを説明する。



会社の出退勤に関するルール、一般的な決まりごとを話題にしてもよい。

否定形・肯定形を同時に導入することもできる。

T 「会社は何時からですか。」

S 「9時からです。」

T 「5分ぐらい遅れてもいいですか。」

S 「いいえ、いけません。」

T 「そうですね。いつも時間を守らなければなりません。

時間に遅れないでください。」

「いつも時間に遅れないようにしてください。」

「1分でも2分でもだめです。」

「絶対に時間に遅れないようにしてください。」



T 「会社を休むときは、どうしますか。」

S 「電話をかけます。」

T 「そうですね。必ず連絡してください。」



「必ず電話で連絡するよう~~に~~してください。」

都合で授業や講義を休む場合も同じであることを理解させる。

[指導留意点]

- (1) 「～ようにしてください」は意志的努力を表すため、2の「～ようになりま
す」とは異なり、意志動詞が使われることに注意させる。
- (2) 肯定形の「～ようにしてください」と「～てください」の違いが理解できる
ように日常生活の上で心掛けておくべき事柄を多く取り上げて練習させる。

★発展指導

研修センター、寮、アパートなどの共同生活の場で、皆が守らなければならない
ことを「～ようにしてください」を使って書かせ、発表させる。

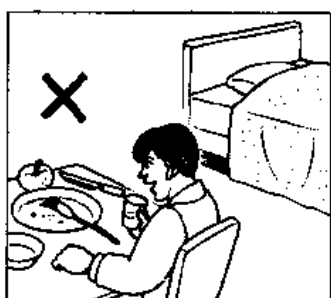
例：夜、部屋の外で大きな声で
話さないようにしてください。



洗濯が終わったら、洗濯機からすぐ
洗濯物を出すようにしてください。



食堂のコップやナイフを
部屋へ持って行かないよう
にしてください。



Ⅲ 会 話

[指導目標]

レポートの書き方等について、指示を正しく理解し、不明な点を質問すること
ができる。

[場 面]

提出したレポートについてラオが実習担当者の加藤からコメントを受ける場面である。初めの4行は話の本題に入る前のアプローチで、ここではラオの実習の様子をそれとなく窺う内容になっている。「ところで」から本題に入る。

[指導項目]

- (1) 「おかげさまで」…他者に対する感謝を表す。
T「日本語が上手になりましたね。」
S「はい、おかげさまで。」
T「お元気ですか。」
S「はい、おかげさまで元気です。」など。
- (2) 「ところで」…話題転換に用いられる。
- (3) 「例えば」「～とか」…相手の理解を助けるために、具体的な例をいくつか挙げる時に用いられる。ここは「例えば～とか～とか」の形で教える。
「とか」は「や」の意味に近いが、一番大きな違いは、「や」は普通、体言のみに接続するが、「とか」は用言や文にも接続するという点である。
- (4) 「そうそう」…急に何か思い出したときに発する言葉。

★発展指導

実習が始まると、指導の参考とするために、レポートを書かせる所が多い。実物の例などがあれば見せて、大体どんなことを書くのかインフォメーションを与えておくとよい。

今日の授業について簡単な報告書を書かせて、提出させ、コメントを加える。

授業報告書		名前
月 日		
内 容		
感 想		
指導者記入欄		

第 37 課

I 指導項目

1. ～は～に～（ら）れます	文1	例1	A 1・2	B 1	C 1
2. ～は～に～を～（ら）れます	文2	例2	A 3	B 2・3	C 2
3. 非情の受身	文3	例3・4・5	A 4・5・6	B 4・5・6	C 3・4

II 指導項目解説

この課では受身の表現を取り上げる。受身の用法にはいろいろあるが、その中からよく使われ、初級レベルの学習者にわかりやすい用法を教える。

指導項目の1, 2は人を主語に立てた有情の受身、3は物を主語に立てた非情の受身と呼ばれるものである。

1. わたしは課長に褒められました

[指導内容]

二者間の行為についてその事実を述べるとき、二通りの言い方が可能である。一つは行為をする人の立場・視点に立っての言い方で、もう一つは行為を受ける人の立場・視点に立っての言い方である。前者は「課長はわたしを褒めました」になり、後者は「わたしは課長に褒められました」になる。

このように「行為を受ける側」からその事実をとらえて表現するときに「受身」が使われることを教える。

このテキストでは直接相手に働きかける動作を表す「褒める」「しかる」「頼む」「聞く」（「尋ねる」の意味）「質問する」「言う」「呼ぶ」などの動詞でこの受身文が理解できるようにした。このほか、この種の受身文によく使われる動詞に「招待する」「誘う」「助ける」「愛する」などがあるが、この課では扱わない。

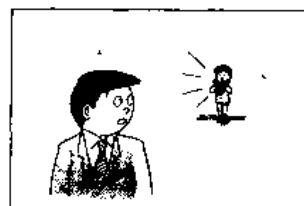
[導入例]

教師と学習者とのやりとりで導入する。

T 「リーさん。」

S 「はい、何ですか。」

みんなに向かって



T 「わたしはリーさんを呼びました。」

「リーさんは？」

S 「 … 」

T 「~~リーさんは先生に呼ばれました。~~」

T 「リーさん、この試験はだれのですか。」

S 「ラオさんのです。」 またみんなに向かって

T 「わたしはリーさんに聞きました。リーさんは？」

「~~リーさんは先生に聞かれました。~~」

T 「ラオさん、きのうの試験はよかったですね。100点です。」

「わたしはラオさんを褒めました。」

「ラオさんは？」

S 「~~ラオさんは先生に褒められました。~~」

T 「ラオさん、あなたは？」

S 「~~わたしは先生に褒められました。~~」

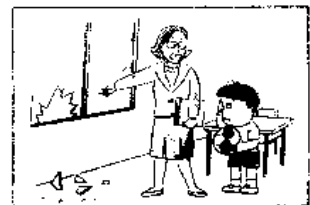


T 「ラオさんはきのう宿題を忘れました。」

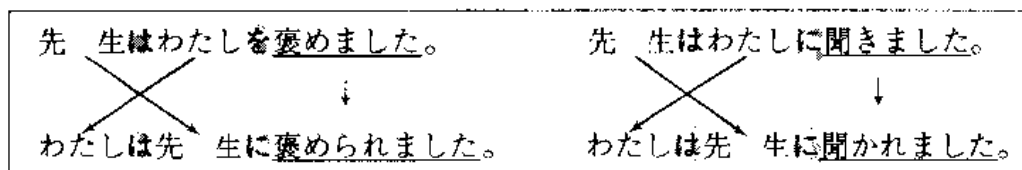
先生はラオさんをしかったです。」

「ラオさん、あなたは？」

S 「~~わたしは先生にしかったです。~~」 が出ればよい。



[板 書]



行為を受けた人の立場から話す場合に受身を使うことを説明し、導入した内容の範囲で「呼ばれます」「聞かれます」「褒められます」「しかられます」が受身の形であることを理解させる。

次に動詞のグループ別に受身動詞の作り方を説明し、動詞のみの変換練習、文の変換練習に移る。

2. 泥棒にかばんをとられました

[指導内容]

ほかの人（A）の行為によって自分（B）が迷惑を受けた、いやな気持ちになったとき日本語ではBの視点・立場からその事実を受身を用いて表現することを教える。

Aの行為がBの所有物に対して何らかの影響を与える場合の言い方を中心に扱う。

「迷惑の受身」で扱う動詞はテキストでは他動詞に限ってある。自動詞の受身（「雨に降られる」「子どもに泣かれる」「親に死なれる」「友達に来られる／いられる」等）は特徴的な受身表現とされるが、学習者の母語の表現とのずれが大きく理解が難しいため、この段階では割愛した。

[導入例]

どこの国の人にもわかりやすい泥棒の話題から導入する。

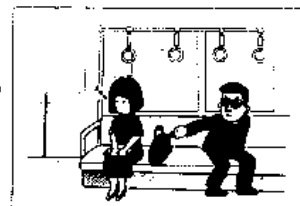
T 「泥棒がわたしのかばんをとりました。」

「かばんの中にお金や大切な物が入っていました。」

ですから、たいへん困りました。」

このような体験談をまとめて

「わたしは泥棒にかばんをとられました。」を導く。



大切な物を壊された話もよくあることで、理解させやすい。

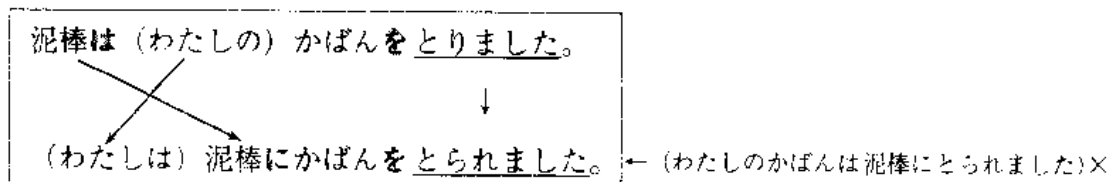
T 「わたしは新しい時計を買いました。」

でも、わたしの子どもがその時計を壊してしまいました。とても困りました。」

「わたしは子どもに時計を壊されました。」



[板書]



ほかの人の行為が自分には迷惑に感じられたとき、日本語では能動文は使わず、受身を使って表すことを説明する。

この場合、迷惑を感じる人が主語となり、対象となる物は主語にならないことをしっかり理解させる。

このあと、困ったのは「わたし」という設定で、場面がよくわかる絵（例：練習B2）などを使って受身文の練習を行う。上の板書のような形の変換練習をしてから、「わたしは」を省略した「～に～を受身動詞」の練習を行う。

3. このビルは去年建てられました

[指導内容]

迷惑の意味を伴わず、また行為者が問題にされない場合は、行為の対象となる事物を主語とする受身表現が使われる。この表現は現在は受身表現の中で最も使用頻度の高いものと言われている。ここでは具体的に取り上げた「物」に対する説明を受身を使って表現することを教える。

[導入例]

日本酒をトピックにして他のアルコール類との違いの話題から導入する。

T 「日本のお酒を飲んだことがありますか。」

S 「はい、あります。」

T 「お酒とビールとどちらがおいしいですか。」

S 「どちらもおいしいです。」

T 「お酒とビールの原料は同じですか。」

S 「いいえ、違います。」

T 「お酒の原料は何ですか。」

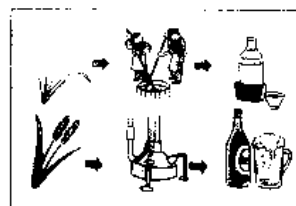
S 「米です。」から

T 「お酒は米から作られます。」

T 「ビールは？」

S 「ビールは麦から作られます。」と言えればよい。

学習者の国の有名なお酒の名前や原料を聞き、「～は～から作られます」の意味がわかったら、練習に移る。



製造過程を説明するときに使われる受身の言い方を導入する。

T 「ここは自動車を作っている工場です。」 (工場の写真を見せながら)
「工場にはいろいろな仕事があります。」

(分冊PART II (p.62) の「9.車の生産ライン」
を利用して)



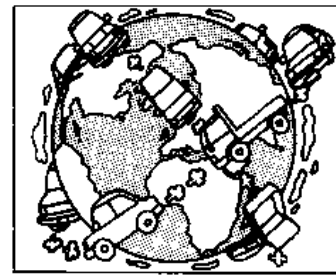
T 「ここで鋼板が切られます。」
T 「ここでボディーが溶接されます。」

ここでは導入文の主語が「が」によって示されることに注意させ、原料の加工から完成にいたるプロセスを書いた絵で受身文の練習を行う。

最後に「～は～れています」の形をとる受身の言い方を導入する。

工場で作られた製品を話題にして、導入できる。

T 「完成した車はどうしますか。」
S 「売ります。」
T 「そうです。車は売られます。」
「全部日本で売られますか。」
S 「いいえ、外国へ輸出しています。」から
T 「日本の車は外国へ輸出されています。」を導く。



T 「今はどこの国でも車が多いです。
いろいろな所で車を使っています。」から
「車はいろいろな所で使われています。」

もっと身近な例で理解させてもよい。

T 「あなたの国ではどんなことばを話していますか。」
S 「英語を話しています。」
T 「アメリカのことばは何ですか。」
S 「英語です。」

同様にイギリス、オーストラリアについて同じ質問をする。

T 「英語はいろいろな国で話されています。」

[指導留意点]

- (1) 受身の概念は多くの言語にあるが、言語により意味・用法が異なるので、どんな場合に受身を使うのか、その使い方のずれを埋めることにポイントを置く。
- (2) 能動文から受動文に変換する練習に終始せず、「いつ」「どこで」「誰が」「誰に」「何を」「どうして」「どうされた」などのQAで押さえるやり方も理解を深めるのに役に立つ。
- (3) 受身表現と受給表現の「～してもらいます」とを混同する人が出る。そのときには受身は「迷惑」（自分にはマイナス）、「～してもらいます」は「恩恵」（自分にはプラス）になること教える。
- (4) 以下の助詞の用法に注意させる。
「～から作る」（原料）、「～で作る」（材料）
「～から輸入する」（原産地）、「～へ輸出する」（輸出先）

★発展指導

本冊の問題7（p.125）の読み物を発展させ、輸出入の中身を読み取らせる。必要があれば資料を用意する。また自国の産業について、どんなものを多く輸出しているか、また輸入しているかなどを話させる。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

専門に関係のある工場の生産ラインの簡単な説明がわかる。

[場 面]

ナロンは車の整備の実習をしているが、実習の一環として地方にある自動車工場へ行き、同行した指導員の石川に生産ラインを案内してもらう。

点線以下の会話は生産工程の後半部分のみを扱っている。

[指導項目]

「3分に1台完成します」…割合や比率を表すの助詞「に」の用法。「1日に何時間勉強しますか。」「1週間に何回手紙を書きますか。」などのQAで理解を図る。

第 38 課

I 指導項目

1. ～のは～です	文1	例1	A 1	B 1・3	C 1
2. ～のが～です	文2	例2・3	A 2・3	B 2・3	C 2
3. ～のを～しました／知っています	文3	例4・5	A 4・5	B 4・5	C 3・4

II 指導項目解説

動詞の普通形に「の」を付けると、動詞文を名詞句にすることができる。そのほか名詞文、形容詞文についても同様のことが言えるが、ここでは動詞文の名詞句化のみを扱う。

この課ではこの形が文中で主語や目的語として使われる用法を学習させる。

1. 日本語を話すのは難しいです

[指導内容]

名詞化された形（名詞句）が文の主語となる場合の言い方を教える。

組み込まれた部分がわかりやすいように、「NはAdjです」のN（名詞）の部分にはNP（動詞文の名詞句）を入れた「NPはAdjです」のパターンで定着を図る。

述部に用いる形容詞は「難しい」「易しい」「（体に）いい／悪い」など評価を表すもの、「恥ずかしい」「楽しい」「気持ちがいい」「大変だ」など個人的な感情を表すものを中心とする。

[導入例]

日本語の勉強で、どんな点が難しいかなどを話題にして導入する。

T 「日本語は易しいですか。」

S 「いいえ、難しいです。」

T 「何が難しいですか。話すことですか、聞くことですか。漢字を覚えることですか。」

S1 「話すことです。」

S2 「漢字を覚えることです。」から



「日本語を話すのは難しいです。」

「漢字を覚えるのは難しいです。」を導く。

[板書]

日本語
日本語を話すのは難しいです。
N

日本語 (N)

話すの (V plain form+) の = (N)

「動詞普通形+の」が名詞と同じになることを上のような板書で説明したあと、「～のはAdjです」の文の練習に入る。

2. わたしは本を読むのが好きです

[指導内容]

「わたしはNが好きです／嫌いです」「～さんはNが上手です／下手です」(第9課)のNの部分にNP(名詞句)が使われる場合の言い方を教える。

[導入例]

趣味(スポーツ、音楽、カラオケ等)、特技や料理などの話題から導入する。

T「どんなスポーツが好きですか。」

S「サッカーです。」

T「わたしもサッカーが好きです。でも、
できません。」

(スポーツ新聞の写真を見せながら)

「わたしはサッカーを見ます、好きです。」から

「わたしはサッカーを見るのが好きです。」

T「あなたはサッカーを見るのが好きですか、
するのが好きですか。」

S「わたしはサッカーをするのが好きです。」が出てくればよい。



[板書]

	サッカー	
わたしは	サッカーをするの サッカーを見るの	が好きです。
	N	

「上手です、下手です」も同じパターンをとるので、簡単に導入しておく。
歌が上手な人に歌ってもらい、拍手しながら褒める。

T 「Aさんは歌が上手です。」

Aさんは歌を歌うのが上手です。」

[板書]

	歌	
Aさんは	歌を歌うの	が上手です。
	N	



褒められたとき、謙遜して言う言い方も導入しておく。

T 「Aさんは歌を歌うのが上手ですね。」

A 「いいえ、あまり上手ではありません。」から

「いいえ、それほどでもありません。」

「～は～が～」構文の「～が」の部分に名詞句が入る他の例についても導入しておく。特技、はやわざなどを話題に導入する。例えばワープロが打てるかどうか聞いたあと、ほかの人の仕事の速さを取り上げる（彼等がよく知っている人の名前を出す）。

T 「田中さんはワープロを打ちます、とても速いです。」

(ジェスチャーでワープロを速く打っている動作)

「田中さんはワープロを打つのが速いです。」

T 「わたしはワープロを打ちます、とても遅いです。」(ぎこちなく打つジェスチャー)

「わたしはワープロを打つのが遅いです。」

オリンピックで活躍した選手が走っている新聞の写真記事などを見せて、

T 「カール・ルイスは走ります、速いです。」(そのときの有名な選手の名を出す)

「カール・ルイスは走るのが速いです。」

このあと「～は～のが～」の形をとる文の変換練習に移る。

3. レポートに名前を書くのを忘れました

[指導内容]

「Nを～ます」(第6課)の目的語(N)の部分に名詞句(NP)を組み込んだ「NPを～ます」の言い方を教える。

この形をとる動詞には「忘れます」「覚えています」「思い出します」「知っています」「待ちます」「手伝います」「見ます」「聞きます」などがよく使われるが、この課では「忘れました」「知っています」に絞って、形と意味の定着を図る。なお「NPを忘れました」についてはNPの部分は普通形の現在・肯定形に限り、「NPを知っています」については普通形の現在・過去肯定形を扱う。

[導入例]

パターンの易しい「NPを忘れました」から始める。学習者に多い、宿題等の名前の記入忘れ、出かける時うっかり忘れそうなことなどを話題にして導入する。

試験や宿題に名前がないものなどを利用する。

T 「この宿題には名前がありません。だれのですか。」

A 「わたしのです。」

T 「Aさんは何を忘れましたか。」

(名前のない宿題を見せながら皆に聞く。)

S 「名前を忘れました。」

T 「宿題に名前を書きます、忘れました。」

(書くジェスチャーを入れながら)

「宿題に名前を書くのを忘れました。」を導く。

T 「先生に宿題をもらいました。でも夜テレビを見て、寝てしまいました。

何を忘れましたか。」から

S 「宿題をするのを忘れました。」を導く。



[板書]

わたしは	宿題	を忘れました。
	宿題に名前を書くの	
	N	

「NPを忘れました」のパターンが定着したら、「NPを知っています」の導入に移る。この表現は何かの出来事、ニュース性のある事件、人の噂など本当にあったことを話題に、うまく授業に合わせて利用するとよい。

T 「オリンピックを知っていますか。」 (オリンピックのマークを見せて)

S 「はい、知っています。」

T 「2000年にシドニーでオリンピックがあります。知っていますか。」

「2000年にシドニーでオリンピックがあるのを知っていますか。」と言い直して聞く。

S 「はい、知っています。」

S 「いいえ、知りません。」はX。

今まで知らなかったことを、今知ったときの「いいえ、知りませんでした」を教える。



名詞句の中では、主語は「が」で表されること (第22課) も思い出させる。

学習者がよく知っている人や有名人の最近の話題を取り上げて導入する。

T 「この人を知っていますか。」 (写真を見せながら)

S 「はい、知っています。マドンナです。」 (そのときの話題の人に合わせる)

彼女について少し話したあと、

T 「マドンナは来月日本へ来ます、知っていますか。」

「マドンナが来月日本へ来るのを知っていますか。」

と言い直して聞く。

S1 「はい、知っています。」

S2 「いいえ、知りませんでした。」



すでにあったこと、なされたことは、名詞句の動詞部分を「～した」の形にすること、主語を

表す「は」を「が」に変えることを以下のように板書して説明し、理解させる。

[板書]

	マ ド ン ナ	
(あなたは)	マドンナが来月日本へ来るの	を知っていますか。
	先週木村さんが結婚したの	
	V plain form + の = N	

[指導留意点]

- (1) 動詞普通形に「の」を付ければ名詞と同じ働きになること、それが文中の主語、目的語のどの部分になるかという文の構造を把握させれば、この課は易しい。形の変換も連体修飾（第22課）が理解できていれば問題ない。
- (2) 名詞句に続く助詞「は」「が」「を」などの使い方の間違いが多い。前に来るものが名詞であれ名詞句であれ、助詞は変わらないことをよく理解させる。
- (3) この課で提出した「の」は「こと」に置き換えられるものが多い。なお既習の以下の表現に使われている「こと」は慣用句的な言い方として、「の」には置き換えられないことを注意しておく。

「日本語を話すことができます」(可能、能力) (第18課)

「歌舞伎を見たことがあります」(経験) (第19課)

「わたしの趣味は本を読むことです。」(第18課)

★発展学習

名前、年齢、仕事、生活の状況、趣味、得意／不得意なこと、将来の夢などについて語った自己紹介をテープに入れ、ポイントを聞き取らせる練習をする。

また三人位のこのような自己紹介文を読ませ、結婚するなら、どの人がいいか選ばせ、その理由を簡単に言わせる。

例：わたしの名前は佐藤一郎です。今年29歳で、NTCでコンピューターのプログラムを作る仕事をしています。残業が多くて、忙しいですが、仕事はおもしろいです。趣味はスポーツで、学生ときはサッカーをやっていました。今はヨットに乗るのが好きで、日曜日はいつも海へ行っています。結婚したら、海の近くに住んで、家族と一緒にヨットに乗りたいです。結婚する人は料理を作るのが上手な人がいいですね。

こんなわたしですが、どうぞよろしくお願いします。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

日本の印象や日本での経験について簡単な話ができる。

[場 面]

実習が終わってから、リーは指導員の中村に誘われて飲み屋に寄り、一杯やりながらよもやま話をする。通勤の話は日本事情を紹介する一端となっている。

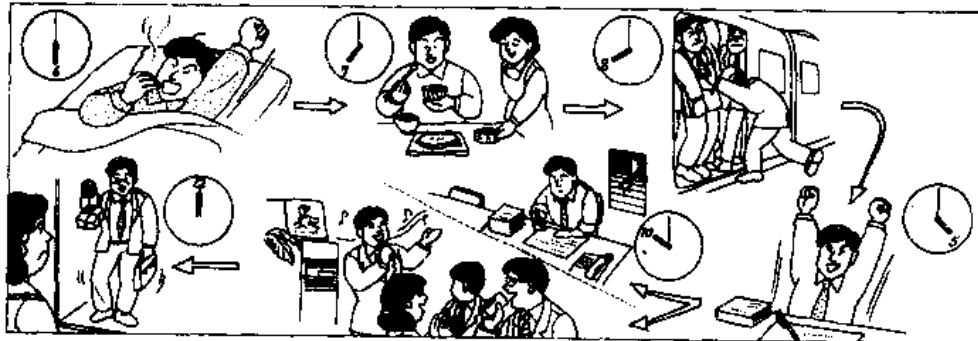
[指導項目]

- (1) 「帰り」…「帰ります」の名詞形。「行き」「帰り」のペアで出す。動詞の「ます形」がすべて名詞にはならない。時間の余裕があれば、他の例は本冊 p.275の「動詞・形容詞のいろいろな使い方」を使って説明するとよい。
- (2) 「【時間】をむだにしませんね」…「～を～にします」の形は未提出（第44課）なので、特に文法的な説明を加えずにこのままで意味をとらせる。
- (3) 「もう一杯どうですか」…相手にお酒を勧める言い方。断るときは「もうけっこうです」。応じる時は「いただきます」。

★発展学習

この課の問題7 (p. 135) の加藤さんについての話を読み教材にして、日本の事情を補足して説明する（日本の住宅事情、通勤ラッシュ、終業後の過ごし方、残業など帰りが遅い日本のサラリーマンの仕事ぶり、家族との付き合い方、休日や余暇の過ごし方など）。

そのあと学習者の国の事情との比較をして話す練習にしたり、作文を書かせたりするとよい。



第 39 課

I 指導項目

1. 1)～て	文1	例1	A 1	B 1・2	C 1
2)～くて		例2・3	A 2	B 3	C 2
3)～で		例4	A 3	B 4	C 3
2. ～ので	文2	例5・6	A 4	B 5・6	C 4

II 指導項目解説

原因・理由を表す言い方は「～から」(第9課)のほかに、この課の「～て」の形によるもの、「～ので」を用いるものがある。

それぞれが厳密に使い分けられるまで指導するのは困難であるので、初級レベルの学習者にわかりやすく、かつ特徴的な使い方を抽出して教える。

1. 1) ニュースを聞いて、びっくりしました

動詞、い形容詞、な形容詞はそれぞれ「～て」「～くて」「～で」の形で、あとの語句につなぐことができることを教えた(第16課)。この課では動詞の否定形「～なくて」の形の結合をさらに加える。

「～て」の形で表される前件は、後件との関係によって種々の意味が生じるが、その関係が原因と結果を表す場合をこの課で教える。

この文型は上の例文のように前件がきっかけになって、後件の事態が引き起こされることを表す。また、前件と後件の間には前件が先で、後件が後に起こるという時間的前後関係がある。自分の意志にかかわりなくそのような事態になったことを表すため、後件には意志を含んだ表現(意志、命令、勧誘、依頼)などは現れない。

このテキストでは動詞の「て形」に続く後件は、「びっくりする」「安心する」「心配する」「困る」「泣く」「笑う」「うれしい」「寂しい」「残念だ」などの感情に関する表現に限る。また、い形容詞の「～くて」、な形容詞の「～で」の後件は、可能動詞の否定形や不可能の意味を表す「できない」「わからない」などに限ることによって「～から」との用法の違いを理解させる。

[導入例]

まずこの課の感情を表す新出の動詞をよく定着させておく。

そのあと教師が最近遭遇したうれしい出来事、びっくりしたことなどを話題にして導入する。

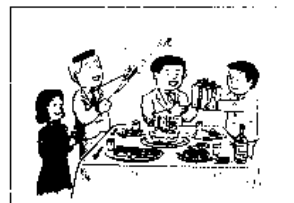
T 「きのうはわたしの誕生日でした。

友達にいろいろなプレゼントをもらいました。

とてもうれしかったです。」

「プレゼントをもらって、とても

うれしかったです。」



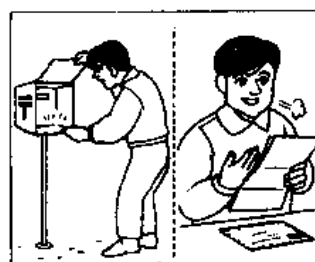
T 「家族からなかなか手紙が来ませんでした。

ですから、心配しました。」

「やっと手紙が来ました。手紙を読みました。

家族は元気です。安心しました。

手紙を読んで、安心しました。」



T 「きのう大阪で電車の事故があったのを
知っていますか。」

S 「はい、知っています。」

T 「どうして知っていますか。」

S 「テレビを見ました。」

S 「ニュースを聞きました。」

T 「すごい事故でしたね。わたしもびっくりしました。」から

「テレビを見て、びっくりしました。

ニュースを聞いて、びっくりしました。」



「うれしい」「安心する」「びっくりする」などの感情を持つに至ったきっかけを説明するときには、「～から」ではなく、「て形」を使うことを説明する。そのあと前件、後件を「～て、～」で結合する練習に移る。

動詞の肯定形の言い方が落ち着いたら、否定形の「～なくて、～」の導入に移る。

「家族から手紙が来ませんでした。ですから、心配しました。」から
「家族から手紙が来なくて、心配しました。」を導けばよい。
否定形の「～ない」は「～なくて」の形になることを説明して、練習に移る。

2) ことばが難しくて、わかりません

[導入例]

毎日テレビを見たり、新聞を読んだりするかということで導入する。

T 「テレビを見ると、いろいろなニュースがわかります。

毎日テレビを見ていますか。」

S 「はい、見えています。」

T 「話の内容がわかりますか。」

S 「いいえ、難しいですから、よくわかりません。」から

T 「難しくて、よくわかりません。」

T 「日本の新聞が読めますか。」

S 「いいえ、難しくて、読めません。」

な形容詞の場合も簡単に導入しておく。

T 「このコンピューターが操作できますか。」

S 「いいえ、複雑ですから、操作できません。」から

T 「いいえ、複雑で、操作できません。」



い形容詞は「～くて」、な形容詞は「～で」の形になること、これらの後ろに
続く言い方は「わかりません」「できません」や可能動詞の否定形になることを
説明して、練習に移る。

3) 地震でうちが壊れました

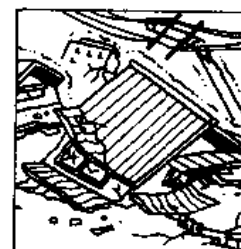
[導入例]

地震や事故、台風など最近実際にあったことを
話題にして導入する。

T 「この間インドで大きな地震がありましたね。」

S 「はい。」

(そのときの新聞の写真などを見せながら)



T 「うちが壊れました。人がたくさん死にました。」から

「地震でうちが壊れました。」

地震で人がたくさん死にました。」

名詞は「～で」の形になることを説明し、具体的に被害のわかる絵を使って練習をする。

[指導留意点]

- (1) 動詞の場合は「手紙を読みました、安心しました→手紙を読んで、安心しました。」のように「～ました」の形でCueを与えたほうが、時間的前後関係をつかませやすい。
- (2) 「時間がなくて、テレビを見ません」「うるさくて、寝ません」など「～て」の形の後件の言い方が意志表現になってしまう間違いが多い。単純な二文結合の練習のあと、「仕事が忙しくて、…」のように後件を完成させる練習で理解をチェックする。
- (3) 「遅くなって、すみません」（例文4）の「～て、すみません／申し訳ありません」の形は「謝り」の慣用句的な表現としてよく使われることを簡単に説明する。
- (4) 「複雑で、わかりません」の「～で」は「～だ」のて形、「病気で会社を休みます」「事故で死にました」の「で」は原因や理由を表す助詞で、文法的には異なるが、形が同じなので便宜上特に説明を付け加えず、同じ範疇で扱う。

★発展指導

今年いちばんうれしかったこと、びっくりしたこと、困ったことを書かせて発表させる。

今年いちばんうれしかったこと、びっくりしたこと、困ったことは何ですか。

例：前からずっと日本へ来たいと思っていましたが、やっと日本へ来ることができて、とてもうれしかったです。でも空港で家族と別れるとき、悲しくて、泣いてしまいました。

2. 用事があるので、きょうは早く帰ります

[指導内容]

「～から」(第9課)と同様「～ので」も原因・理由を表すが、以下の相違を取り上げて教える。

- (1) 「～から」は自分の意志、願望、判断、相手への依頼、勧誘、命令などの原因、理由、根拠を主観的に表すのに使われる。
- (2) 「～ので」は既に起こったこと、または現実にある状況から自然に導かれる事柄の因果関係を客観的に説明するのに使われる。
- (3) 「～ので」は話し手の主観が強く出るのが抑えられ、柔らかな語感や丁寧な響きを感じられるため、対人関係を円滑に運ぶ会話によく用いられる。

この課では相手の誘いを断るための理由、許可・依頼を求める理由、また、やむを得ない事態に至った理由などを述べる表現として、「～ので」の意味・用法の定着を図る。

[導入例]

まず誘いを断る言い方から導入する。第22課の会話のアウトラインをOHPシートで見せて、相手の申し出を丁寧に断るときは、


「今晚はちょっと友達に会う約束があるので、また今度お願いします。」

「普通形+ので」に換えることを説明する。

またこのようにはっきり言わないで、

「今晚はちょっと用事があるので、また今度お願いします。」と言ったほう

が相手の気持ちを害さずに断れることを説明する。

<p>仕事のあとで</p> <p>A: 今晚いっしょに食事に行きませんか。</p> <p>B: すみません。今晚は<u>ちょっと友達に会う約束がありますから、</u> また今度お願いします。</p> <p>A: そうですか。残念ですね。</p>	
--	--

次に許可を求める言い方を導入する。

T 「頭が痛いです。早く帰りたいです。

会社の人に何と言いますか。」

S 「頭が痛いですから、早く帰っても

いいですか。」から、

T 「頭が痛いので、早く帰ってもいいですか。」



T 「子どもが病気です。」のときは？

S 「子どもが病気だので、…」は×。

「子どもが病気なので、早く帰ってもいいですか。」

この場合も「～ので」を使って丁寧をお願いすること、な形容詞・名詞の現在形は「～なので」の形になることを説明する。

T 「会社へ来るときに、電車の事故がありました。

それで時間に遅れてしまいました。

会社の人に何と言いますか。」

S 「すみません。電車の事故があったので、

遅れました。」



このあと以上のような内容を中心に二つの文を

「～ので」を使って結合する練習に移る。

[指導留意点]

- (1) 「～て」の形より後件の制約がなく、理解はやさしい。客観的な叙述文の練習として後件が過去形のを多くするとよい。「～なので」への変換が不徹底になりがちなので、注意させる。
- (2) より改まった場合は「丁寧形+ので」の形が使われるが、この段階では扱わない。また、「～ので」の丁寧さに合う、許可を求める表現の「～(さ)せていただけませんか」は第48課で教える。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

理由を述べて適切に相手に許可を求めることができる。また、相手の気持ちを損なわずに話ができる。

[場面]

大使館のパーティーに出席するため、前もってラオは指導員の加藤に早退の許可を求めて、許しを得る。

[指導項目]

- (1) 「お忙しいですか」…工作中的相手に用件を持ち込むとき、相手の都合を聞く言い方。「今ちょっとよろしいですか。」などの言い方もある。
- (2) 「ちょっとお願いがあるんですが」…言い出しにくい依頼を切り出す言い方。
- (3) 「実は」…事情の説明の切り出しに使うことば。特に重要でないことに対しても「実は」を使ってしまう人がいるので注意する。
- (4) 「それじゃ」…前の内容を受けて、次の結論を出すときのことば。ここでは「実は～」以降の事情を聞いた上での加藤の判断を導く。
- (5) 「しかたがありませんね」…やむを得ない事情により成り行きを認める慣用句。
- (6) 「申し訳ありません」…「すみません」より丁寧な謝罪の表現。

★発展指導

許可を求めたい内容をカードに書いて、この課の会話のパターンに従って許可を願い出る会話を作らせる。

教師は許可する側に立って、簡単に承諾する場合、しぶしぶ許す場合、許可できない場合など、いろいろバリエーションをつけて応じる。

例：

パスポートをなくしてしまった
3時まで大使館へ行かなければならない
午後の日本語のクラスを休む

かぜをひいて、頭が痛い
これから病院に行きたい
早く帰る

第 40 課

I 指導項目

1. 疑問詞～か、～	文1	例1・2・3	A1	B1・2	C1・2
2. ～かどうか、～	文2	例4・5	A2	B3・4	C3
3. ～てみます	文3	例6	A3	B5・6	C4

II 指導項目解説

1. 講義は何時に終わるか、わかりません

[指導内容]

疑問詞を含んだ疑問文を述語の目的語ないし対象語として文中に組み込む場合の言い方を教える。上の例文でいえば「講義は何時に終わりますか」という直接疑問文の述語を普通形に変えて、主節に従属させる。

な形容詞と名詞の現在形については「～だ」が残る形と省略する形があるが、このテキストでは「～だ」を省略した形で教える。

[導入例]

易しい「疑問詞+ですか」の形を一文に組み込んだ言い方の導入から入る。

T 「今何時ですか。」

S 「9時50分です。」

T 「バンコクは今何時ですか。」 (タイ人以外の人に聞く)

S 「わかりません。」から

「~~何時か、わかりません。~~」の形を導く。

はっきりわからないときに「さあ」を使うことを説明して、

「~~さあ、何時か、わかりません。~~」

名詞の現在形は「～だ」を省略して「わかりません」に続けることを説明したあと、第1課から第4課ぐらいまでの疑問文をこのような形に直す練習をして理解させる。

次に動詞文・形容詞文の疑問文を組み込む形の導入に移る。

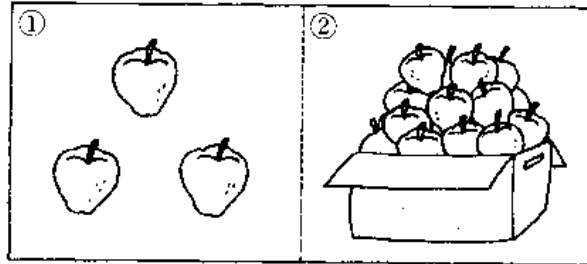
T 「りんごがいくつありますか。」 (①で)

S 「みっつあります。」

T 「りんごがいくつありますか。」 (②で)

S 「さあ、いくつか、わかりません。」 から

「さあ、いくつあるか、わかりません。」の形を導く。



小さいものを数えるときは「いっ個、に個、さん個、…何個」を使うことを説明して、「さあ、何個あるか、わかりません。」の言い方を導く。

T 「どのりんごがおいしいですか。」

S 「さあ、どのりんごがおいしいか、わかりません。」

意味と接続の定着を図るために質問を続ける。

T 「日曜日どこへ行きましたか。」

S 「新宿へ行きました。」

T (クラスの他のメンバーを指して)

「リーさんは日曜日どこへ行きましたか。」

S 「さあ、どこへ行ったか、わかりません。」

疑問文を普通形に直して「わかりません」に続けることを説明して、「今日の講義は何時に終わりますか。→さあ、何時に終わるか、わかりません。」のように「さあ、～か、わかりません」で答える練習に移る。

「わかりません」で固定させた形が定着したら、他の述語に換えていく導入に入る。再びりんごの絵②を見せて聞く。

T 「りんごがいくつあるか、わかりません。

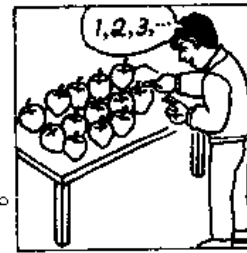
どうしますか。」

S 「数えます。」から

「りんごがいくつあるか、数えます。」

T 「ほかの人にお願ひする時は、何と言ひ
ますか。」から

「りんごがいくつあるか、数えてください。」を導く。



い形容詞の名詞形「～さ」の言ひ方も初出なので触れておく。

T 「この箱は重さが何キロあるか、わかりません。
どうしますか。」

S 「量ります。」から、上と同じパターンで

T 「重さが何キロあるか、量ります。」

重さが何キロあるか、量ってください。」



学習者の行きたい所を聞くことで、導入してもよい。

T 「北海道までどうやって行くか、わかりますか。」

S 「いいえ、わかりません。」

T 「わからないとき、どうしますか。」

S 「日本人に聞きます。」から

「北海道までどうやって行くか、聞きます。」を導く。

T 「ほかの人に聞くとき、何と言ひますか。」

北海道までどうやって行くか、教えてください。」



意味と用法が理解できたら、「りんごが何個ありますか、数えます→りんごが何個あるか、数えてください。」のような練習を行う。

[指導留意点]

- (1) 「おなかがすきましたから、何か食べたいです」「いい天気ですから、どこか行きたいです」(第13課)と、この課の「あしたのスケジュールは何か、わかりません」「お手洗いはどこか、わかりません」はそれぞれ意味が異なるので注意する。
- (2) い形容詞の名詞形「～さ」は第40課の新出語彙に挙げてあるものをそのまま覚えさせる程度でよい。時間に余裕があれば本冊p.275の「動詞・形容詞のいろ

いろな使い方5」の具体的な用例を参照させる。

「この荷物の重さは5キロです」と「この荷物は重さが5キロあります」の二つの言い方があるが、この課では後者の言い方で教える。

(3) 既習の助数詞（第11課）を簡単に復習しながらこの課の助数詞をまとめる。

「～本」「～杯」は付く数によって音が変わる（1,6,8,10…半濁音、3…濁音、その他…清音）ので、よく練習する。なお、助数詞のまとめは『新基礎Ⅰ分冊』p.138, 139を参照のこと。

度量衡の言い方のまとめは必要に応じて『新基礎Ⅱ分冊』p.64の「a)計算・その他」の項を参照させる。

2. **彼はパーティーに来るかどうかわかりません**

[指導内容]

疑問詞を含まない疑問文（「はい」、「いいえ」で答えるもの）を文中に組み込む場合は「～かどうか」を用いることを教える。

「～かどうか」は「～であるか、または～ではないか」という意味で、確定できないことを表すのに使われる。

疑問詞を含まない疑問文が述語の表す目的語、対象語となること、普通形に接続すること、な形容詞・名詞の現在形の場合は「～だ」を落とすことは1と同様である。

[導入例]

何でも話題にできるが、例えば料理の話から入る。

T「リーさんは料理ができますか。」

S「はい、できます。」

T「どんな料理ができますか。」

S「ギョーザ、野菜炒め…何でもできます。」

T（他のメンバーについてリーに聞く）「キムさんも料理ができますか。」

S「さあ、できるか、わかりません。」は×。

「料理ができますか、できませんか、どちらですか、わかりません」は「できるかどうか、わかりません。」になることを説明する。

T（当の本人に聞く）「キムさん、料理ができますか。」

T (皆に聞く) 「キムさんが作った料理はおいしいですか。」

S 「おいしいかどうか、わかりません。」

T 「じゃ、キムさんの奥さんは料理が上手ですか。」

S 「さあ、上手かどうか、わかりません。」

T 「わたしはたぶん上手だと思います。」

このような応答ができたなら、「～かどうか」の意味、接続の仕方など、簡単に文法的な説明をして、述語の動詞を「わかりません」に限った練習を行う。

その言い方が定着したら、「わかりません」以外のいろいろな動詞の目的語として組み込む言い方の導入に移る。

試験のときの答えの確認を話題にする。

T 「答えを全部書いたら、もう一度チェック
しますか。」

S 「はい、チェックします。」

T 「何をチェックしますか。」のやりとりから
「正しいかどうか、チェックします。」

「間違いがあるかどうか、チェックします。」は×。

「間違いがない」ことが望ましいので、

「間違いがないかどうか、チェックします。」

「間違いがないかどうか、皆さんもかならずチェックしてください。」



このあと練習に移る。

[指導留意点]

「～かどうか」の言い方は意味も用法も易しく定着がよいが、1の疑問詞を含んだ疑問文に「～かどうか」をつけてしまう間違いが多い(例:どこへ行ったかどうか、…)。

疑問詞がある場合は「疑問詞+普通形+か」、疑問詞がない場合は「普通形+かどうか」になることを徹底させるために、最後に両者を混ぜた練習をする。

3. 日本のお酒を飲んでみます

[指導内容]

未知の事柄についてそれがどんなものかを知るため、或いはその結果を見るた

めに、試みにある動作をするときに「～てみます」の言い方を用いることを教える。

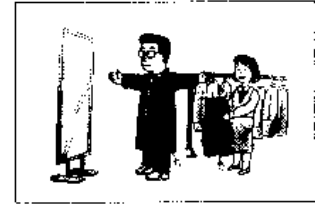
[導入例]

服の試着や味見の場面で導入する。

T 「デパートへコートを買に行きました。
いいコートがありました。サイズが合うか
どうか、わかりません。どうしますか。」

S 「着ます。」から

T 「着てみます。」になることを説明する。



学習者があまり知らない日本の食べ物を用意する。

T 「これを食べたことがありますか。」

S 「いいえ、ありません。」から

T 「ちょっと食べてみてください。」

(味見させる)

「どうですか。」

S 「おいしいです。」

「食べます」と「食べてみます」の違いを右上のような絵で理解させるとよい。



T 「富士山へ行ったことがありますか。」

S 「いいえ、ありません。」

T 「行きたいですか。」から

「はい、ぜひ行ってみたいです。」

このあと練習に移る。

[指導留意点]

「～てみます」は学習者の多くの母語にも見られるので、意味の理解は易しい。練習はまず「～てみます」の形で慣らしをするが、そのあと「～てみたいです」「～てみてください」「～てみてもいいですか」などに換えていく。

最後に前項の「～かどうか」と「～てみます」を組み合わせた形で練習させる。

★発展指導

練習C4のやりとりを発展させ、教師が店員の役になり、買い物場面の会話を作らせる。カードを渡し、そこに情報を書いておく。



例：ジーンズをはく。
小さくて、はけない。
買わないで帰る。



スーツを着る。
上はいいが、ズボンが長い。
直してもらおう。



靴をはく。
サイズはちょうどよい。
ほかの色を見せてもらう。
どちらにするか、決める。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

業務上の簡単な説明や指示が聞いてわかり、自分の意見や要望が言える。

[場 面]

ナロンは今後の実習の予定について、担当者の高橋と話し合う。

[指導項目]

- (1) 「専門と関係がない」…ナロンは生産現場にかかわっているエンジニアなので、客相手の販売店の研修は必要ないと考えての発言。助詞「と」の用法に注意させる。
- (2) 「ニーズ」…「客の求めているもの」という意味で、ここでは「客がどんな車を買いたがっているか」を知ることにより、それを生産現場に活かして、いい車、売れる車を作るヒントにすべきことを高橋が説明している。
- (3) 「しかし」…反対の内容を展開する逆接の接続詞であるが、この例のように前述の内容を一応認めながらも、「それはそうだが」と異なる意見を付け加えたりするときに使われることもある。

★発展指導

学習者からコメントの出そうな内容のスケジュールを渡し、異議があれば要望を言わせて、望ましい予定表に変える。

第 41 課

I 指導項目

1. ~を	いただきます	文1	例1	A 1	B 1	C 1
	くださいます			A 2	B 1	
	やります			例2	A 3	B 2
2. ~て	いただきます	文2	例3	A 4	B 3・6	
	くださいます	文3	例4	A 5	B 4・6	C 2
	やります	文4	例5	A 6	B 5・6	C 3
3. ~ていただけませんか			例6	A 7	B 7	C 4

II 指導項目解説

日本語では人に物をあげたり、もらったりするときに、「あげます」「もらいます」「くれます」の三つの動詞を用いて表すこと、また物ばかりでなく行為のやりとりを表すときにもこれらの動詞が使われることを教えた（第7,24課）。

この課ではさらに人間関係における「上下関係」（地位、年齢など）、「親疎関係」（ウチとソト）などの待遇意識によって「（～て）やります」「（～て）いただきます」「（～て）くださいます」の言葉に使い分けることを教え、「わたし」を軸とした授受表現の大意を理解させる。

1. わたしは田中さんに辞書をいただきました

[指導内容]

事物の授受を表す言い方として「あげます」「もらいます」「くれます」のほかに、「やります」「いただきます」「くださいます」を加え、これらの言葉の使い分けを以下の範囲で教える。

* 「やります」…与える相手が自分より目下の人物（兄弟や子ども）や動植物などの場合に「あげます」の代わりに用いられる。

* 「いただきます」…自分より目上の人（家族以外）やあまり親しくない人から物をもらう場合に謙遜の意を表す意味で「もらいます」の代わりに用いられる。

- * 「くださいます」…物を与える人が目上（家族以外）の場合とかあまり親しくない場合に相手に敬意を表す意味で「くれます」の代わりに用いられる。受け手は自分または家族など自分側に属する者に限られる。

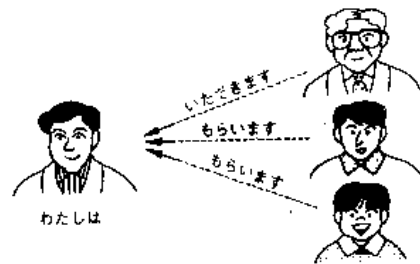
[導入例]

誕生日のいちばん近い人にクラスの仲間と教師がプレゼントをあげる状況を作る。

T 「あしたはナロンさんの誕生日です。アリさん、あなたはナロンさんに何をあげますか。」

S 「わたしはボールペンをあげます。」
(教師は実物を用意して本当にあげる)

T 「わたしはテレホンカードをあげます。」



T 「ナロンさん、何をもらいましたか。」

S 「アリさんにボールペンをもらいました。」

先生にテレホンカードをもらいました。」から

「わたしは先生にテレホンカードをいただきました。」を導く。

右上の図式を使って「もらいます」と「いただきます」の使い分けの説明をしたあと、「友達、切手→わたしは友達に切手をもらいました。」「先生、辞書→わたしは先生に辞書をいただきました。」のようにもらう相手によって使い分けの言い方の練習を行う。

次にもう一度プレゼントの話題に戻って「くださいます」の導入に移る。

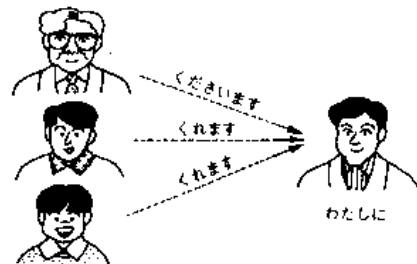
T 「誕生日にいろいろな物をもらいましたね。」

アリさんは何をくれましたか。」

S 「アリさんはボールペンをくれました。」

S (テレホンカードを指して) 「先生はテレホンカードをくれました。」から

T 「先生はテレホンカードをくださいました。」



前ページの図式で「くれます」と「くださいます」の使い分けの説明をしたあと、「アリさん、ボールペン→アリさんはわたしにボールペンをくれました。」
「先生、テレホンカード→先生はわたしにテレホンカードをくださいました。」
の使い分けの練習を行う。

最後に「やります」を家族の話題から導入する。

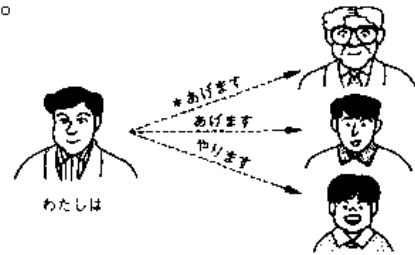
T「わたしは娘が一人います。今15歳です。

友達と遊びに行くときは、お金が
要りますから、

わたしは娘にお金をやります。」

T「うちには犬がいます。名前はタロー
です。

毎日わたしはタローにごはんと水をやります。」



右上の図を使って「あげます」と「やります」の使い分けの説明をしたあと、場面のわかる練習B2のような絵などを用いて、「やります」の言い方の練習を行う。

[指導留意点]

- (1) 「あげます」「もらいます」「くれます」の言い方がきちんと理解されていることが前提であるが、「くれます」の意味・用法は忘れていることが多い。特に「くれます」に重点を置いて復習をしながら「やります」「いただきます」「くださいます」の言い方を教えていく。
- (2) 目上の人には「あげます」より敬意の度合いが高い「さしあげます」があるが、この課では「あげます」で教える。余裕のあるクラスには紹介してもよい。
- (3) 男性は「やります」を目下の者に対してばかりでなく、同等の者にも用いることがある。しかし、この言葉はぞんざいなニュアンスを伴うので、女性は人前で使うのを避け、目下の者に対しても実際には「あげます」を使うことが多い。「やります」の理解は易しいので、練習は軽く扱った。
- (4) 韓国等では自分の親に対しても敬語を用いるので、このような国の学習者から質問が出たら、日本語では家族に対してはたとえ目上であっても「いただきます」や「くださいます」は使わず、「あげます」「もらいます」「くれます」

を使うのが一般的であることを説明する。

- (5) 「いただきます」は謙讓語、「くださいます」は尊敬語であるという概念は第49,50課の敬語で扱い、この課では特に説明しない。食前の挨拶「いただきます」(第8課)が感謝の意を表すことや、「これをください」(第3課)などを思い出させて意味の理解を助ける。
- (6) 他の言語では「くれます」「くださいます」に対応する語がないことが多く、学習者にとって、理解が難しい場合が多い。相手への感謝を込めた「くださいます」の用法をよく理解させる。

「いただきます」と「くださいます」は利益の享受者が同じであっても主語が異なることを下のような言い換え練習や応答練習によって十分理解させる。

「わたしは先生に辞書をいただきました。」

→「先生はわたしに辞書をくださいました。」

「だれに辞書をもらいましたか。」

…先生にいただきました。」

→「だれが辞書をくれましたか。」

…先生がくださいました。」



★発展指導

結婚、誕生、入学、就職祝いや、お中元、お歳暮などを話題にする。このようなとき、よくあげたり、もらったりする物をデパートのギフト商品カタログなどを利用して見せる。日本のこのような習慣をどう思うか、自分だったらどんなものを選ぶか、また、このような経験があるかなどを話させる。

人に贈物をする会話の聞き取り教材を作り、内容についての理解をチェックさせてもよい。

2. わたしは鈴木先生に日本語を教えていただきました

[指導内容]

物の受給に用いたときと同じ受給動詞を行為を表す動詞の「て形」に続けて表すことを教える。

[導入例]

T「きのうだれに日本語を教えてもらいましたか。」

S「鈴木先生に教えてもらいました。」から

「鈴木先生に教えていただきました。」を導く。

目上の人から受ける行為に対しても物の場合と同様、「いただきます」が使われることを説明する。

T「だれにテープレコーダーを貸してもらいましたか。」

S「先生に貸していただきました。」

導入文型の理解が確認できたら、「わたしは友達に日本語を教えてもらいました（先生）→わたしは先生に日本語を教えていただきました。」の練習、「鈴木先生は日本語を教えました。」という事実文を「わたしは」を除いた「鈴木先生に日本語を教えていただきました。」に直す言い方、QA練習などに進めていく。

「～てくださいます」もお世話になった人の行為などを話題に導入する。

T「成田空港から一人でこのセンターへ来ましたか。」

S「いいえ、会社の人で連れて来てくれました。」から

「会社の人で連れて来ていただきました。」

この場合も会社の人には敬意を表す「くださいます」を使うことを説明する。



次に確認のため質問をする。

T「成田から何でセンターへ来ましたか。」

S「バスとタクシーで来ました。」

T「自分でお金を払いましたか。」

S「いいえ、会社の人で払っていただきました。」

このように応答できたら、「～ていただきます」と同様に練習を進める。

「～てやります」は帰国の口を聞いて、家族へのお土産を話題に導入する。

T「お子さんにどんなお土産を買ってあげますか。」

S「おもちゃを買ってあげます。」から

「おもちゃを買ってやります。」

自分より目下の場合は「やります」を使うことを



説明する。

兄弟がいるかどうか聞いて、兄弟へのお土産を何にするかということで理解の確認をとる。

T「弟さんにどんなお土産を買ってあげますか。」

S「時計を買ってやります。」

このように言えれば練習に移る。

[指導留意点]

- (1) この課で新たに導入した「いただきます」「くださいます」「やります」が物のやりとりできちんと理解できていれば、行為のやりとりの場合も理解させることは簡単である。
- (2) 「案内する」「連れて行く」「連れて来る」「送る」「紹介する」「招待する」など人を目的語にとる動詞が「～てくださいます」で表されるときは恩恵の受け手は助詞「に」ではなく、そのまま「を」によって表されることに注意させる。
- (3) 「いただきます／くださいます」は自分または自分の領域に属する者への他者の行為であるので、基本的な練習が終わったら、「わたしは」を省略した言い方で練習する。

3. 漢字の読み方がわからないんですが、教えていただけませんか

[指導内容]

依頼表現として「～てください」（第14課）、「～てくださいませんか」（第26課）を提出した。「～ていただけませんか」は目上の人やあまり親しくない人への非常に丁寧な依頼表現であることを教える。

[導入例]

T「会社へ行ってから、漢字の読み方がわからないとき、どうしますか。」

S「会社の人に教えていただきます。」

T「何と言って頼みますか。」

S「漢字の読み方を教えてくださいませんか。」から

T「教えていただけませんか」



という表現もあることを教え、依頼をするときの状況説明の「～んですが…」(第26課)を思い出させて

「漢字の読み方がわからないんですが、教えていただけませんか。」を導く。

同じくワープロの使い方がわからないときは、何と云うかで理解の確認をとる。

S「ワープロの使い方がわからないんですが、教えていただけませんか。」
このように言えれば、練習に移る。

[指導留意点]

「～していただけますか」(第26課)がよく理解されていれば、「～していただけませんか」の言い方も易しい。「いただけ…」という可能動詞にして相手に可能性を尋ねる分、丁寧になっている。単なる変換練習だけでなく、依頼のいろいろな状況を言葉で説明して、その場にふさわしい言い方を考えさせる。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

相手に応じて依頼表現が適切に使い分けられる。

[場 面]

ナロンはホームステイのお礼の手紙を日本語で書き、漢字や言葉使いの間違いをチェックしてもらうため、実習担当者の高橋に頼む。

[指導項目]

- (1) 「ホームステイのお礼の手紙」…外国人に日本の家庭訪問の機会を設け、日本人の生活や習慣を学び、体験してもらうことがある。ナロンがそうした訪問先に対して、お世話になったお礼の手紙を出すこと。
- (2) 「親切にします」…「形容詞＋く／にします」の形は第44課で扱う。この課では文法的な説明を加えないで、これだけを一つの表現として教える。
- (3) 「ええと、…丁寧になります」…この場合は「もらいます」と対比させて「いただきます」のほうが丁寧な言葉であることに気付かせる。

★発展指導

簡単なお礼の手紙（葉書）を①お礼②感想③終わりの言葉のパターンで理解させ、実際に書かせる。また、それを教師に見てもらう会話をさせてもよい。

- ① 先日はお宅へ招待していただきありがとうございました。
- ② 日本料理は初めてでしたが、とてもおいしかったです。まだ日本語が上手ではありませんが、家族の皆さんといろいろ話せて、とても楽しかったです。
- ③ ほんとうにどうもありがとうございました。皆さんにもよろしくお伝えください。

9月20日

ナロン

- ① 先日は浅草を案内していただきありがとうございました。
- ② 浅草寺へ行く道には小さなお土産屋がたくさんあって、とてもおもしろかったです。わたしの国のお寺を思い出しました。時間があつたら、もう一度友達と一緒にいきたいと思っています。
- ③ ほんとうにありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。

11月25日

ラオ

寒い日が続いていますが、山本さん、お元気ですか。

- ① 先日はセーターを送っていただき、ありがとうございました。
- ② おかげさまで毎日体も心も暖かいです。
- ③ ほんとうにありがとうございました。

まだまだ寒いので、山本さんもかぜをひかないように、気を付けてください。まずはお礼まで。

1月10日

リー

第 42 課

I 指導項目

1. ～ために	文1	例 1・2・3	A 1	B 1・2・3	C 1・2
2. ～(の)に	文2	例 4・5・6	A 2・3	B 4・5・6	C 3・4

II 指導項目解説

1. うちを買うために、お金をためています

[指導内容]

「～ために」は動詞の辞書形、「名詞+の」に接続して、目的を表す。前件が目的を、後件はその目的を実現するための意志的行為を表す。

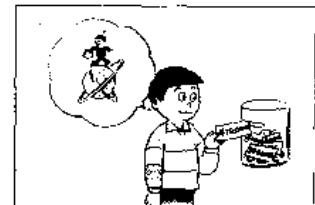
「名詞+のために」は事柄と人の両者を扱う。事柄の場合は上述のとおりであるが、人の場合は利益を表す。対象となる人にとって利益となる行為をするという意味である。

[導入例]

お金をためる目的から導入する。

(右のような絵を見せながら説明する)

- T 「わたしは旅行が好きです。世界のいろいろな所へ旅行に行きたいです。
ですから、毎月少しずつお金をためています。
旅行に行くために、お金をためています。」



- T 「わたしのうちは古くて、狭いです。ですから新しいうちが欲しいです。
うちを買うために、お金をためています。」

このような導入でほとんどの場合理解できるが、意味の確認をとる。

- T 「あなたもお金をためていますか。」
S 「はい、新しい車を買うために、お金をためています。」
T 「あなたは？」
S 「わたしは結婚するために、お金をためています。」

このように言えたら、接続の仕方を説明して、練習に移る。

「名詞+のために」は動詞と同時に導入する方法もあるが、「動詞+ために」が定着したあとで、日本へ来た目的などを話題に理解させる。

T「皆さんは日本へ何をしに来ましたか。旅行ですか。」

S「いいえ、実習するために、来ました。」

「実習するために」は「実習のために」でもいいこと、名詞の場合は「名詞+のために」になることを説明して、

「実習のために、日本へ来ました。」を導く。

T「皆さんはセンターへ何をしに来ましたか。」

S「勉強のために、来ました。」が出ればよい。

人の利益になる言い方は働く目的を聞くことで導入する。

T「皆さんは実習が終わってから、国へ帰って、毎日一生懸命働きますね。」

だれのために、働きますか。」

S「家族のために、働きます。」

意味はよく理解できるので、特に事柄と人の場合の「ために」の意味の区別の説明はせず、練習に移る。

[指導留意点]

- (1) 目的を表す言い方としては「～ように」（第36課）があるが、用いられる動詞が異なる。「～ように」には意志を含まない動詞（自動詞、可能動詞、否定形）が用いられるのに対し、「～ために」は意志動詞（多くの場合肯定形）が使われる。使い方について質問が出たら、以下のような例文で違いを説明する。

「うちを買うために、お金をためています。」

「うちが買えるように、お金をためています。」

- (2) 「～しに」（第13課）とこの課の「～するために」は目的を表す助詞「に」が使われている点で意味が共通する部分がある。相違点をあげれば「～しに」は移動の目的を表し、その後ろに「行く」「来る」「帰る」等の移動動詞しか来ないが、「～するために」の後ろは意志動詞であればどんな動詞でもよい。
- (3) 「～ために」は原因・理由の意味を表す用法（普通形に接続、後件は前件の原因によってもたらされた結果を無意志表現で表す）もあるが、この課では扱

わない。

2. ドリルは穴を開けるのに使います

[指導内容]

名詞および名詞相当句「辞書形+の」に付いて後の述語との間にいろいろな関係を表す助詞「に」の用法を教える。この課では「～に使います」（用途）、「～にいいです／便利です／役に立ちます」（評価）、「～に（時間、お金）がかかります／必要です」（所要時間・経費）などの言い表し方を教える。

[導入例]

物の用途の説明で導入する。

実物の道具（文房具や日本独特の道具など）を用意しておく。

T 「これは何ですか。」

S 「はさみです。」

T 「はさみは何に使いますか。」

S 「紙を切るとき、使います。」から

T 「紙を切るのに使います。」

T 「これはパンチです。これは何に使いますか。」

S 「わかりません。」

T 「穴をあけるのに使います。」（実際にあけて見せる）

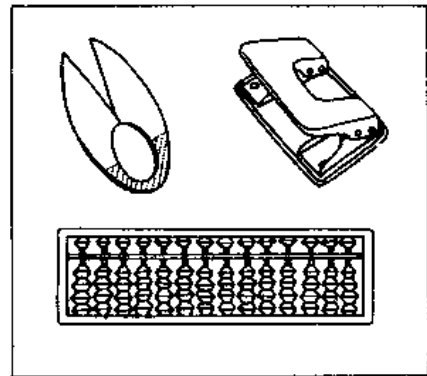
T 「これは何に使いますか。」（算盤を見せて）

S 「 … 」

（数字を言いながら指ではじいて見せる）

S 「あ！計算するのに使います。」

意味がほぼわかったところで、次のページのような板書で文法的な説明をして、練習に移る。



[板書]

はさみは何に使いますか。
↓
紙を切るのに使います。
辞書形+の=N

次に名詞に直接付く「に」の用法、評価などを表す言い方の導入を行う。
右のような絵を利用する。

T「わたしのうちは駅の近くにあります。」

近くにはスーパーや学校、公園があります。

友達のうちは駅から遠いですが、

近くには木が多くて、空気も
きれいです。

皆さんはどちらのうちはいいと
思いますか。」

S「わたしは駅の近くのうちはいい
です。」

T「どうしてですか。」

S「便利ですから。」

T「何をするのに便利ですか。」から

S「会社へ行くのに便利です。」

「買い物するのに便利です。」などが出る。

「買い物するのに便利です」は「買い物に便利です」でもいいことを説明する。

T「近くに公園がありますから、…」

S「散歩にいいです。」が出ればよい。

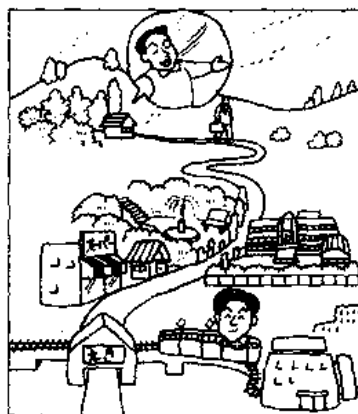
友達のうちを指して

T「ここは空気がいいですから、体にいいです。」から

「健康にいいです。」を導く。

T「でも、ちょっと不便ですね。駅まで30分かかります。

駅へ行くのに30分かかります。」



[板書]

うちの近くにスーパーがあって、	買い物するの	に便利です。
	買い物	
	N	

板書でもう一度説明をしたあとで、練習に移る。

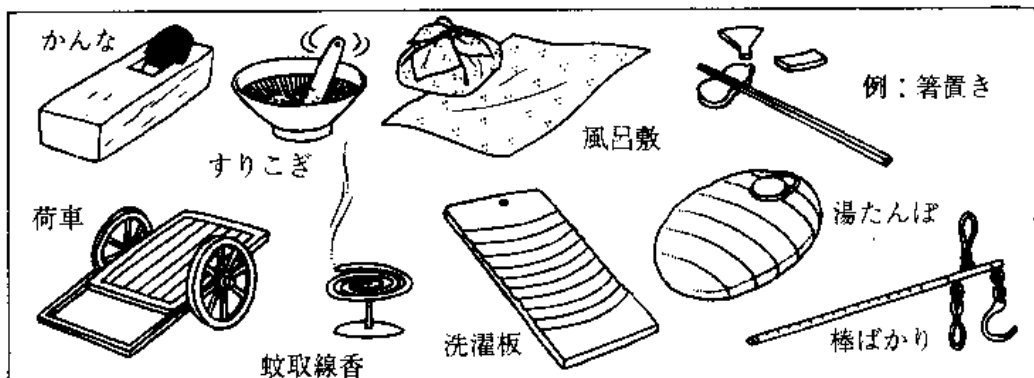
[指導留意点]

- (1) 「何に使用しますか」(第23課)は会話表現として、「体にいいです」(第32課)は新出語彙として文法的な説明をせずに提出した。これらを導入に利用する。
- (2) 「～ために」を習うと、「～ために」と「～のに」の違いについて質問が出る可能性がある。その場合は「～ために」の後件は目的を実現するための意志的な行為を表すが、「～のに」は「使用します」「便利です」「いいです」「役に立ちます」「時間・お金がかかります」などの言葉が続くことで両者の違いを理解させる。
- (3) 動作性の名詞以外に「に」が付く場合(例：健康にいいです)は定着が悪いので、気を付けること。

★発展指導

下の絵のように、日本に古くからある物を紹介して、何に使用のか話させる。

例：箸置き…箸を置くのに、使用します。



Ⅲ 会 話

[指導目標]

行事についての簡単な情報が聞いてわかる。また参加申し込みの問い合わせができる。

[場 面]

加藤から社員旅行の誘いを受け、ラオは話を聞いて興味を持ち、参加の申し込みを決める。実際の社員旅行の様子は第43課に続いている。

[指導項目]

新しい文法事項は特にない。「旅行に行くために、～」 「旅行にいい季節」 など、この課で提出した内容を再度押さえればよい。「参加する」「申し込む」「旅行の係」「詳しいこと」「毎年」「毎月」「紅葉」「季節」「湖」など会話で初出の言葉が多いので、意味をよく理解させる。

★発展指導

日本の会社の一般的な社員旅行について下のような絵を使って簡単な情報を与える。また、学習者から質問を受けるなどして自由に話し合う。



第 43 課

I 指導項目

1. ～そうです	文1	例 1・2・3・4	A 1・2	B 1・2・3・4	C 1・2
2. ～て来ます	文2	例 5・6	A 3	B 5・6	C 3・4

II 指導項目解説

1. 今にも雨が降りそうです

[指導内容]

「～そうです」は動詞のます形、い形容詞・な形容詞の語幹に接続して様態を表す。動詞の場合は「ある現象が起こる直前の状態である」内容を中心に、切迫した状況を強調する副詞「今にも」と呼応させた形で意味の理解を図る。

形容詞の場合は、自分以外の人や物について「実際に確認したわけではないが、外見から察するにその様な状態・性質に思われる」という意味を教える。

「～そうに（も）ありません」などの否定形は、言い方に揺れもあり、学習者の負担になるので扱わない。また、「～そうです」のいろいろな活用形「～そうな」「～そうに」などの言い方もこの段階では扱わない。

[導入例]

実物や写真、絵などを見せて、場面から直感的に「～そうです」が出る状況を作る。実際に天気が悪い日は、空を見て、または右のような絵を見せて、



T 「今にも雨が降りそうです。」①

T 「かばんが…」②

S 「かばんが落ちそうです。」

切迫感は「今にも」で表すことを説明する。



①の絵と③の絵を対比し、「雨が降るまえ」の状態を「～そうです」で表すことを理解させる。

文法説明のあと、まずは練習B1のような具体的な絵を使って練習し、それから「～そうですから、～します/しておきます」など事態に備えた措置の言い方の練習を行う。

形容詞は動詞の言い方が定着したあとで行う。

おいしそうなお菓子を用意しておく。

T 「このお菓子は…」

S 「そのお菓子はおいそうです。」を導く。

「おいしいそう」にならないように発音に気をつける。

T 「リーさん、お菓子はいかがですか。」

S 「はい。いただきます。」

T 「味はどうですか。」（実際に食べさせて聞く）

S 「おいしいいです。」



食べるまえの「おいそうです」、食べてからの「おいしいいです」で意味の違いを理解させる。

T 「リーさん、きょうの試験は100点ですよ。」

(リーさんのうれそうな表情から)

「リーさんはうれそうです。」

自分自身については「うれしいいです」、ほかの人の様子には「うれそうです」を使うことを説明する。

T 「ラオさん、元気ですか。」

S 「はい、元気すです。」

T (もう一度ラオさんに尋ねる)

「リーさんも元気すですか。」

S 「はい、リーさんも元気すです。」から

「リーさんも元気すそうです。」を導く。



い形容詞、な形容詞、「いい」の例外的な言い方「よそう」を次のページのような板書で説明したあと、物やほかの人に関する外見からの判断を動詞の場合と同じように、まずは絵で、それから口頭だけで練習する。

[板書]

このお菓子は	おいし	
*リーさんは頭が	よざ	そうです。
リーさんはいつも	げんま	

[指導留意点]

- (1) 「～そうです」は意味の理解は易しいが、接続の仕方を間違えやすいのでよく注意させる。特に「よさそうです」は忘れやすいので気をつける。
- (2) 既習事項との関連では第29課の結果の状態を表す「～ています」（切れています）とこの課の「切れそうです」の言い方を対照させて、意味の理解を深めるとよい。
- (3) 可能動詞や状態を表す動詞に付いた「できそうだ／使えそうだ／ありそうだ」などは、現在の状況から判断して「その可能性が十分にある」という主観的な推測を表すが、この課では扱わないので、練習に入れないようにする。
- (4) 「きれいだ」「かわいい」「赤い」などそれ自体外見を表す形容詞には「～そうです」は一般的には使えない。また、「有名だ」「嫌いだ」等にも付きにくい。い形容詞、な形容詞の言い方を教えると名詞の言い方とは聞かれるが、名詞はできないと説明する。

2. ちょっとたばこを買って来ます

[指導内容]

「今いる所から、別の場所へ行き、そこで目的の行為をして、元の場所に戻って来る」ことを相手に伝えるときに、「～て来ます」を用いることを教える。「～て」の部分には動作を表す動詞を用い、行為の場所を明示するときは、元の動詞が必要とする助詞を用いる（例：「食堂で食べて来ます」「公園を散歩して来ます」）。移動を表す動詞が先行する「行って来ます」「出かけて来ます」などは単に「ある所へ行って、戻って来る」という意味になり、助詞は「へ」を用いる。どちらも副詞「ちょっと」と呼応させた形で、短時間で用事を済ませ、戻って来る意味の理解を図る。

「帰って来ます」は上のような動作の順序を示す意味はなく、「こちらへ帰る」という動作の方向性だけを示す言い方であるが、ここで扱う。

[導入例]

授業の休憩時間に何をしたかを聞くことで導入する。

T 「さっき10分休みましたね。教室を出て、どこで何をしましたか。」

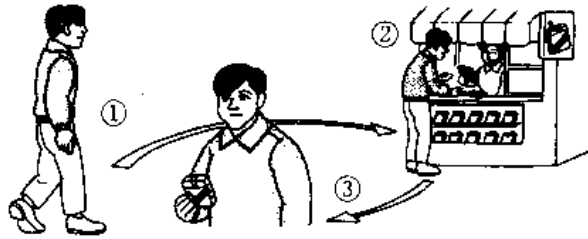
S1 「食堂でお茶を飲みました。」

S2 「お手洗いへ行きました。」

S3 「受付で手紙をもらいました。」から「食堂でお茶を飲んで来ました。」

「受付で手紙をもらって来ました。」「お手洗いへ行って来ました。」を

導く。



ちょっとたばこを買って来ます。

上のような絵を書いて、矢印のような行動をとるときは、「～て来ます」を使うことを説明する。このとき助詞の「で」「へ」にも注意させる。

クラスの誰かがまだ教室に戻らない場合を設定して、

T 「リーさんがいません。リーさんはロビーでテレビを見ています。

どうしますか。」

S 「リーさんを呼んで来ます。」が言えれば理解できている。

すぐ教室へ帰るときは「ちょっと」を使うことを説明する。

「ちょっとリーさんを呼んで来ます。」

このあと右のような絵で、

「ちょっと電話をかけて来ますから、

ここで待っていてください。」

の言い方の練習に移る。



「帰って来ます」は最後に質問に答える形で簡単に導入すればよい。

T 「きのうの午後はどこへ行きましたか。」

S 「ATMの工場へ見学に行きました。」

T 「何時ごろセンターへ帰りましたか。」

S 「6時ごろ帰りました。」から

「6時ごろセンターへ帰って来ました。」

「国へ帰ります」と現在いる場所へ戻って来る「帰って来ます」との違いを説明する。

[指導留意点]

- (1) 「食堂へごはんを食べに行きます」(第13課)と間違えやすい表現なので、その違いについて質問が出たら、導入例の絵で「食べに行きます」は①②の行為だけで、③の元の所へ帰る意味がないことを理解させる。
- (2) 「～て来ます」における行為を表す場所が話し手と聞き手にとって明らかな場合は、わざわざ「～で」という必要がないので、練習は「～で」の使われていない形になっている。「駅へ友達を迎えに行って来ます」「コインロッカーに荷物を預けて来ます」など間違えやすい助詞の用法も混じっているので、注意して教える。
- (3) 「～て来ます」にはこのほか「雨が降ってきます」(開始)、「だんだん寒くなってきました」(変化)、「3年間日本語を勉強してきました」(継続)など使用頻度の高い用法もあるが、この課では扱わない。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

旅行などに行ったときの印象を簡単に話すことができる。

[場 面]

第42課に続く会話の内容になっている。ラオは社員旅行に参加し、箱根へ来て記念写真を撮ったりして、旅行を楽しんでいる。

日本の秋を紹介する役割となっている。

[指導項目]

- (1) 「【富士山】をバックにして」…「富士山を背景に写真を撮る」の意味。本冊のイラストで皆の後ろに富士山があることに注意させる。
- (2) 「～の方」…ここではお土産屋がある「方角」「方向」の意味で、「お土産

屋へ行く」と違うことに注意させる。学習者の国は日本のどちらにあるか未習語彙ではあるが「東西南北」を使って「南の方、東の方…」などで教えるとわかりやすい。

- (3) 「ほんとうに来てよかったです」…「～てよかった」は第39課の原因・理由の表現で学習した「あるきっかけによって引き起こされた現在のうれしい気持ち」を表す内容になる。「日本へ来てよかったですか。」などと質問して意味の理解をチェックする。
- (4) 「いい思い出になります」…(3)と同様に、体験したことに対していい印象を持ったことを相手に伝える表現。「いい経験になります」「いい勉強になります(第50課)」などの言い方もある。

★発展指導

テキストの会話は社員旅行の一部なので、出発から帰るまでを下のような絵にして、話す練習をするとよい。



第 44 課

I 指導項目

1. ～すぎます	文1	例1・2	A1・2	B1・2・3	C1
2. ～やすい／にくいです	文2	例3・4	A3・4	B4・5	C2・3
3. ～く／にします	文3	例5	A5	B6	C4

II 指導項目解説

1. ゆうべお酒を飲みすぎました

[指導内容]

「～すぎます」は動作や状態の程度が度を越していることを表す。従って、普通あまり望ましくない状態の場合に使われることを教える。

ほとんどの用言、副詞に接続するが、この課では動詞のます形、い形容詞・な形容詞の語幹に接続するものを扱う。名詞には接続しない。

動詞の場合は上の例のように「量的にたくさん」または「時間的に長く」（テレビを見すぎる）、形容詞の場合は「過剰に」「不適當に」の意味内容を中心に教える。

「～すぎます」によって動詞は複合動詞となり、形容詞は動詞化して、いずれもIIグループの活用になることを教える。

[導入例]

状況がわかる右のような絵で説明を加えて導入する。

T 「ごはんをたくさん食べました。
 気持ちが悪いです。」から
 「ごはんを食べすぎました。」（苦しそうな表情で）



T 「ゆうべたくさんお酒を飲みました。
 きょうは頭が痛いです。」から
 「ゆうべお酒を飲みすぎました。」



意味と接続の説明のあと、理解の確認をする。

T 「『たくさんタバコを吸いました。のどが痛いです。』は？」

S 「タバコを吸いすぎました。」

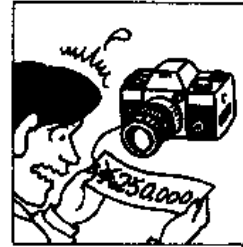
このように言えたら、導入文をもう一度リピートし、一目で様子がわかる練習 B1 のような絵を使って、「～すぎました」の言い方の練習をする。

「形容詞＋すぎます」は理解のいいクラスには動詞と同時に導入してもよいが、動詞の言い方が定着してから導入したほうがわかりやすい。

T 「『このカメラはたいへん高いです。買えません。』は？」

S 「高いすぎます」は×。

「このカメラは高すぎます。」



T 「服を買いたいですが、この服はたいへん大きいです。着られません。」

S 「この服は大きすぎます。」



このように言えたら、動詞の場合の板書に、以下のようにい形容詞、な形容詞の言い方を付け加えて説明し、そのあと「～すぎます」の状態がわかる練習 B2 のような絵を用いて練習する。

[板書]

ごはんを	たべ	
このカメラは	たか	すぎます。
この問題は	かんたん	

たべ~~ます~~
たか~~い~~~~です~~
かんたん~~です~~ } +すぎます

動詞、形容詞の「～すぎます／ました」の言い切りの形が言えるようになったら、て形を用いて原因・結果の表現を簡単に導入する。

このとき、もう一度導入で用いた絵を使う。

T 「ゆうべお酒を飲みすぎました。

それでけさ頭が痛いです。」の説明から、

「ゆうべお酒を飲みすぎて、頭が痛いです。」



T 「このカメラは高すぎます。ですから買えません。」から

「このカメラは高すぎて、買えません。」

このあと前件と後件を「～すぎて、～」の形で結合させる練習をする。

[指導留意点]

- (1) 「～すぎます」の意味は理解しやすいが、接続をよく間違えるので注意する。
「ない」「いい」に「～すぎます」の付いた「なさすぎます」「よすぎます」はこの課では扱わない。
- (2) 形容詞は「～です」の言い方に慣れているので、「大きすぎです」になりやすい。動詞の場合は「食べすぎです」のように名詞化した言い方もよく使われるが、ここでは「～すぎます」の言い方だけ教える。
- (3) 「買い物しすぎて、お金がなくなります」「辛すぎて、食べません」などの間違いが多い。第39課の原因・理由を表す「～て」の後件の制限を思い出させる。

2. この辞書は字が大きくて、見やすいです

[指導内容]

「～やすい／にくいです」は動詞のます形に接続し、動詞文を形容詞文に換える。行為の難易や、対象についての主観的な評価を述べる場合に用いられる。

「～やすいです」は上の例のように①「そうするのが易しい」の意味のほか、②「容易にそうなる、そうなりがちだ」という意味があることを教える。

「～にくいです」はこの反対で、①「そうするのが難しい」、②「なかなかそうならない」という意味になる。

①の意味になるときは動作を表す意志動詞を、②の意味になるときは状態を表す無意志動詞を中心にして、意味の理解を図る。

[導入例]

まず①の用法から導入する。

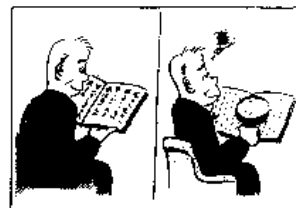
ワープロできれいに打った手紙と、癖のある字の手紙や大型活字版の本などを用意する。

T 「これは何と書いてありますか。」（ワープロの手紙を見せて学習者に少し読ませる）

T 「じゃ、これは？」 (手書きのを見せて)

S 「よくわかりません。」 から
「この手紙は読みにくいです。」

T 「ワープロの手紙はどうですか。」 から
「この手紙は読みやすいです。」 を導く。



大きい文字で印刷された本と普通のとを比べてもよい。

図の入った説明書、文字だけの説明書などを見せて

T 「この説明書は図を見れば、すぐ使い方がわかります。」
「この説明書はわかりやすいです。」

T 「この説明書は説明だけなので、読んでもよくわかりません。」
「この説明書はわかりにくいです。」

次に②の用法を導入する。

ガラスのコップとプラスチックのコップを用意する。

(コップをよく見せ、触らせてから)

T 「このコップは落としても大丈夫ですか。」

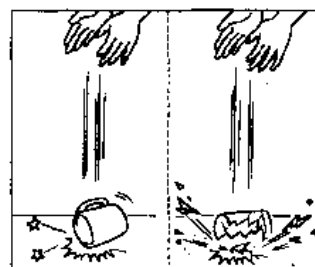
S 「はい、大丈夫です。」

T 「このコップは落としても、なかなか
割れません。」

「このコップは割れにくいです。」

T 「このガラスのコップはどうですか。」

S 「ガラスのコップは簡単に割れます。」 から
「ガラスのコップは割れやすいです。」 を導く。



導入した例の一つを板書して、作り方、意味の確認をしたあと、練習に移る。

練習は①と②の用法を分けてしたほうがわかりやすい。

[指導留意点]

- (1) 第38課で学習した「～するのは難しい／易しいです」と、この課の「～やすい／にくいです」は類似した言い方であるが、前者は「漢字を読むのは難しいです」のように行為に対する評価、後者は「この字は読みにくいです」のよう

にある対象に対する評価を表す点が異なる。

- (2) 物の性質に関する「～やすい／にくいです」の理解が少し難しいが、実験的にやって見せるとわかりやすい。また、「熱に強い」の「に」の使い方に注意させる。

3. 部屋をきれいにします

[指導内容]

「だんだん寒くなります」「日本語が上手になります」「来月25歳になります」のように、第19課では形容詞や名詞に「～なります」を続けて、状態変化を表すことを教えた。この課では「誰かがあるものを意図的にある状態に変化させる」ことを表すときに、「～なります」の部分で「～します」に換えることを教える。

「なります」は自動詞で、変化する対象は「が」で示されるが、「します」は他動詞で、変化させる対象は「を」で示される。

[導入例]

テープレコーダーを用意して、音量調節の場面を作り導入する。

T 「音が聞こえますか。」

S 「いいえ、よく聞こえません。」

T 「じゃ、音を大きくします。」

(ボリューム調節のつまみをみんなに見せるようにして回す)

T 「どうですか。聞こえますか。」

S 「はい、よく聞こえます。」

T 「今わたしは何をしましたか。」の質問から

S 「音を大きくしました。」

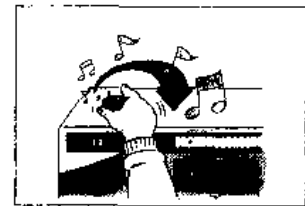
T 「音が大きくて、うるさいですね。どうしますか。」

S 「音を小さくします。」が出ればよい。

T 「リーさん、音を小さくしてください。」(実際にリーにさせる)

T 「リーさんは何をしましたか。」

S 「リーさんは音を小さくしました。」



このほか、調節のできる椅子を「高くします」「低くします」、電気を操作し

て部屋を「暗くします」「明るくします」など、実際に学習者に動作させて理解させるとよい。助詞「を」の使い方にもよく注意させる。

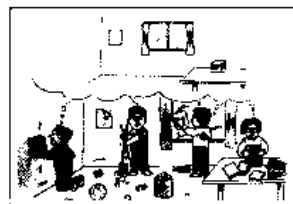
な形容詞の場合は右のような絵を利用する。

T 「この部屋は汚いですね。どうしますか。」

(部屋を掃除している人を指して)

S 「部屋を掃除します。」から

「部屋をきれいにします。」を導く。



名詞の場合も簡単に導入しておく。

T 「りんごがひとつしかありません。

わたしは友達と食べたいです。どうしますか。」

S 「切ります。」から

「りんごを半分にします。」



以下のように導入内容をOHPシートにして見せ、「～なります」との違いを説明する。

い形容詞	音		おおきく		音		おおきく
な形容詞	部屋	を	きれいに	します。	→	部屋	がきれいに
名詞	りんご		はんぶん			りんご	はんぶん
							なります。

このあと「音、大きい→音を大きくします。」「部屋、きれい→部屋をきれいにします。」のように「～く／にします」の使い分けの簡単な練習をしたあと、「音が小さいですから、大きくしてください。」のような練習を積んでいく。

[指導留意点]

- (1) 「～く／になります」の意味が理解されて、形容詞の区別ができていれば簡単に導入できる。場面を作って、物で意味を理解させるように工夫する。また、「～く／にします」のときは助詞が「を」になることに注意させる。
- (2) 「名詞+にします」はこのほかに「何にしますか」「ハンバーグにします」(第16課、会話)の選択・決定の意味があるが、この課では扱わない。

- (3) 形容詞の用法をまとめるときは「動詞・形容詞のいろいろな使い方」本冊 p.274を利用するとよい。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

コピー機など機械の使い方がわからないとき、知りたい情報を聞き出すことができる。また、使い方の手順が聞いてわかる。

[場 面]

ナロンは拡大コピーの取り方を女子社員の池田に教えてもらう。

[指導項目]

- (1) 「ほら」…話し手が実際に物を見せたり、指したりして、聞き手の注意を喚起するときに発する言葉。教室内外の物をいくつか指して、意味を定着させる。
- (2) この課の文法事項をよく押さえる。特に「読みにくいです」←→「読みやすいです」、「大きくします」←→「大きくなります」のように対比して、意味をつかませる。

★発展指導

下の図を使って、コピーの取り方をいろいろ換えて練習する。はじめは教師が教える役になるが、要領がわかったら、学習者同士でさせるとよい。

例：字が薄くて、読みにくい。
もっと濃くしたい。

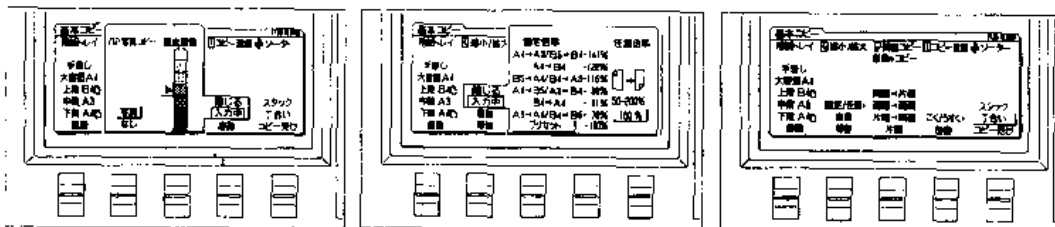
↓
コピーの濃度を変える
このボタンでコピーの濃度を選ぶ

ルビが小さくて、
わかりにくい。
もっと大きくしたい。

↓
B5からA4にする

会議の資料に使う。
10部コピーしたい。

↓
このボタンで丁合いにし
1と0のボタンを押す



第 45 課

I 指導項目

1. ～場合は	文1	例1・2・3	A1	B1・2	C1・2
2. ～のに	文2	例4・5	A2	B3・4・5	C3・4

II 指導項目解説

1. 地震が起きた場合は、すぐ火を消してください

[指導内容]

「～場合は、～」の形で、好ましくない事態、滅多にない事態における対処の仕方や、そのような事態から引き起こされた結果を表すことを教える。

その事態が起こる確率が非常に少ないということを強調するときは、副詞「万一」と呼応させて「万一～場合は」の形で意味・用法の理解を図る。

動詞の肯定・否定形、い形容詞、な形容詞、名詞に接続させて練習するが、動詞は仮定的な意味の強い「～（し）た場合は」の形だけで、「～する場合は」は扱わない。

[導入例]

非常事態の地震や火事を話題にして導入する。

T 「皆さんの国は地震が多いですか。」

S 「いいえ、あまり多くないです。」

T 「日本は地震が多いです。」

T 「地震が起きます。物が倒れてけがをします。

そして、火事が起きます。とても怖いです。

地震が起きます、どうしますか。」

S 「外へ逃げます。」

T 「外は危ないです。」から

「地震が起きた場合は、机の下に入ります。

地震が起きた場合は、すぐ火を消します。」

また、そのように行動する理由を簡単に説明する。



T 「火事が起きた場合は、どうしますか。」

S 「すぐ逃げます。」

T 「どこから逃げますか。」

S 「非常口から逃げます。」 から

T 「火事が起きた場合は、非常口から逃げます。」



T 「センターにはたくさんの方が住んでいます。みんなが注意すれば、

火事は起きません。でも、(火事が起こる確率を右のように示す)

$\frac{1}{10000}$

万一火事が起きた場合は、すぐ非常口から逃げてください。」

「万一」の意味、「～場合は」に接続する動詞の形の説明をしてから、非常事態の内容を中心とした「～た場合は、～」の文の結合練習に移る。

動詞の否定形は肯定形と同時に導入する方法もあるが、分けたほうがわかりやすい。

T 「会社の電話番号を書いた紙をなくしてしまいました。

電話をかけたいのですが、どうしたらいいですか。」

S 「受付の人に聞きます。」

T 「わからないとき、どうしますか。」

S 「 … 」

T 「電話番号がわからない場合は、

104番に電話してください。」



このあと、「～ない場合は、～」の文の練習に移る。

次にい形容詞、な形容詞、名詞に接続する例を順に導入する。

T 「コピーをしたいのですが、機械の調子が悪いです。どうしますか。」 から

「調子が悪い場合は、中を調べます。」

「修理が必要な場合は、係の人を呼びます。」

「故障の場合は、係の人に見てもらいます。」



[板書]

問題が	起きた
機械が	動かない
調子が	悪い
修理が	必要な
	故障の

場合は、係の人に見てもらいます。

上記のような板書で接続の形を説明してから、練習に移る。

[指導留意点]

「～たら」との意味の違いを聞かれることがあるが、「～場合は」は好ましくない事態、滅多にない事態が起きることを想定するときに使われると説明する。

★発展指導

次のような事態が発生した場合の処置を選ばせる。

(その地域の市や区の「生活情報ガイド」などを利用してまとめるとよい。)

- 例：1.地震が起きた場合は、()
- 2.万一火事が起きた場合は、()
- 3.交通事故にあった場合は、()
- 4.休日に病気になった場合は、()
- 5.盗難にあった場合は、()

a.火を使っていたら、すぐ火を消す。ドアや窓を開けて、いつでも出られるようにしておく。
b.まず警察に知らせる。銀行のカードやキャッシュカードが入っているときは、カードが使えないように、連絡しておく。
c.休みの日でも、受け付けてくれる救急病院に電話する。
d.110番ですぐ警察を呼ぶ。相手の車の番号、住所、名前などを聞いておく。軽いけがでも、かならず病院で診てもらおう。
e.消火器があれば、すぐ消す。間に合わないときは、119番に電話する。慌てないで、住所をはっきり知らせる。

2. 薬を飲んだのに、まだ熱が下がりません

[指導内容]

ある状況から期待される結果が導かれないとき「～のに」を用いることを教える。この表現は順当でない結果に対する話し手の意外感、不満、不服の気持ちが言外に込められることを理解させる。「～のに」は原因・理由を表す順接の「～ので」（第39課）に対応する語で、現実にある、または起こったことについて述べる。

[導入例]

T 「かぜをひきましたから、薬を飲みました。

薬を飲んだので、…」 (絵を見せながら後件を言わせる)

S 「薬を飲んだので、治りました。」

T 「薬を飲みました。けれども、まだ治りません。」

「薬を飲んだのに、まだ治りません。」 (不満な表情で)

このように予想外の結果、意外な事実などが導かれる場合に「のに」を用いることを説明する。



意味の理解をほかの例で確認する。

T 「試験のために、一生懸命勉強しました。

一生懸命勉強したので、…」

S 「一生懸命勉強したので、よくできました。」

T 「一生懸命勉強したのに、…」

S 「一生懸命勉強したのに、できませんでした。」

このように言えればよい。



「のに」の接続を理解させるために、導入を続ける。

T 「きょうは暖かいです、リーさんはセーターを着ています」

S 「きょうは暖かいのに、リーさんはセーターを着ています。」



T 「リーさんはいつも元気です、きょうは元気ではありません。」

S 「リーさんはいつも元気なのに、…」は×。

T 「リーさんはいつも元気なのに、きょうは元気ではありません。」

な形容詞と名詞の現在形は「～なのに」になることを説明する。



T 「日曜日デパートはいつも込んでいます。」

T 「きょうは日曜日です、人が少ないです。」

S 「きょうは日曜日なのに、人が少ないです。」

このように言えたら、「～のに」を用いて、二つの文を結合させる練習に移る。

正しく結合できるようになったら、「～のに」の後件を完成させる練習をする。

その後、前件と後件を示し、「～ので」か「～のに」を選択させる練習をしてもよい。

[指導留意点]

- (1) 前件と後件が相反した関係にあることを示す接続には、「～のに」のほかに、「～ても」（第25課）、「～が」（第8課）などがあるが、以下のような相違点が見られる。

「～ても」は「～と」「～たら」「～ば」に対立する語で、現実には起こっていないことを仮定の上で述べる表現で、後件には客観的な叙述表現も意志、命令、推量などの主観的な表現も用いることができる。

例：「あした雨が降ったら、ピクニックに行きません。」

「雨が降っても、ピクニックに行きます。」

「～のに」は必ず話し手の不満や意外感の気持ちが込められるが、「～が」は前件と後件の事実関係を単に対立的に捉えるだけで、話者のムードは含まない中立的な表現である。

例：「日本語の勉強はたいへんでしたが、とても役に立ちました。」

- (2) 目的を表す「～（の）に」（第42課）とこの課の「～のに」を混同させないように注意する。逆接の「～のに」は「～たのに」の形で多く練習すると、理解させやすい。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

ミーティングなどで自分の問題点が言え、簡単なアドバイスが聞いてわかる。

[場 面]

その日の実習が終わったあとに行う指導員とのミーティング。品質管理を勉強中のリーはきょうの問題点を述べる。中村からその原因の説明を受け、アドバイスをもらう。

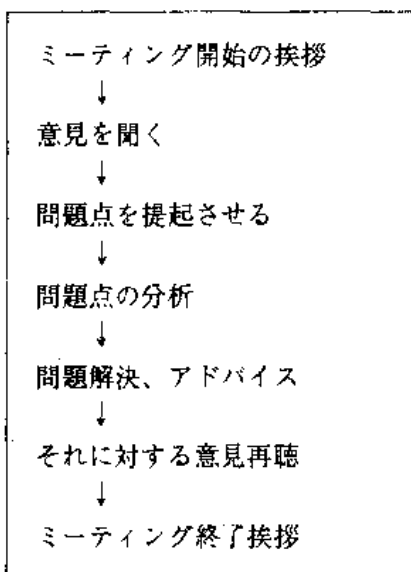
[指導項目]

会話で初出となる語が多い。「方法」「シリンダー」「たまに」「内側」「ひびが入る」「冷却」「温度」「管理」など、会話を導入するまえに、意味を教えしておく。

- (1) 「何でしょうか」…「～でしょうか」という形は「～ですか」より婉曲的で、丁寧表現である。「お手洗いはどこですか」→「お手洗いはどちらでしょうか」、「今何時ですか」→「今何時でしょうか」などと応用させて理解させる。
- (2) 「そのとおりです」…相手が言った意見を正しいと認める場合に用いられる。

★発展指導

ミーティングで話し合う内容を変えて、教師が司会役となって、次のような進め方で模擬ミーティングを行う。



例： 「日本語についての問題点」
毎日一生懸命勉強しているのに、なかなか上手にならない

「講義や見学についての問題点」
自分の専門と関係がある工場を見学したいのに、専門外の見学が多い

「生活上の問題点」
センターにはタイ人がたくさんいるのに、タイ料理のメニューが少ない

第 46 課

I 指導項目

1. ～ところです	文1	例1・2・3	A 1・2・3	B 1・2・3・4	C 1・2
2. ～ばかりです	文2	例4・5	A 4	B 5・6	C 3・4

II 指導項目解説

1. ちょうど今から映画が始まるところです

[指導内容]

「ところ」は場所を表す実質名詞として教えたが（第8課）、そのほかに動詞に付いて時間的位置を示す形式名詞の用法があることを教える。ある動作の進行過程の中で、現在どのような段階にあるかを相手に伝え、相手に何らかの働きかけをしたり、相手からの働きかけを待ったりするときに用いられる表現意図を理解させる。

「～ところです」は先行する動詞の時制に応じて次のような意味となる。

- ① 「辞書形+ところです」…ある行為が始まる直前であることを示す。「これから」「ちょうど今から」などの時を表す副詞句と呼応させて意味の定着を図る。
- ② 「て形+いるところです」…ある動作が行われている最中であることを示す。同じく「今」と呼応させて意味の定着を図る。
- ③ 「た形+ところです」…ある動作が終わった直後であることを示す。直後を強調する場合は、「たった今」を用いる。

[導入例]

相手の質問、誘いかけに対し、単に「はい」「いいえ」で答えるのではなく、現在の状況を説明して、相手に働きかける場面をいくつか設定して導入する。

T 「Aさんは映画を見に行きました。映画が始まる時間がわからないので、映画館の人に聞きました。」
(教師がA、B役になる。)

ジュラシックパーク
開演時間
① 1:00～2:40
② 3:00～4:40
③ 5:00～6:40
④ 7:00～8:40



A「映画はもう始まりましたか。」

B（映画館の人）「いいえ、今から始まるところです。」

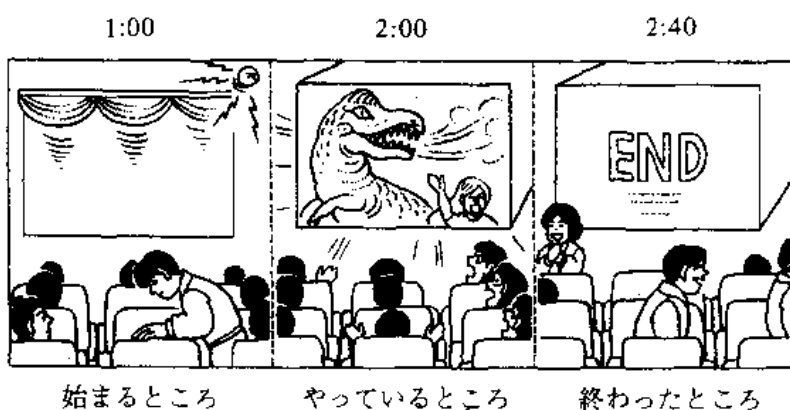
T「Aさんはそれを聞いて、急いで切符を買って、映画館に入りました。」

2時ごろ行った場合を設定して、

B「今やっているところです。」

また2時40分に行ったとして、

B「たった今終わったところです。」



そのような状況を映画館の人から聞いたら、自分ならどのような行動をとるか簡単に言わせて、理解度を見る。

ほかの例を出して意味・用法の確認する。

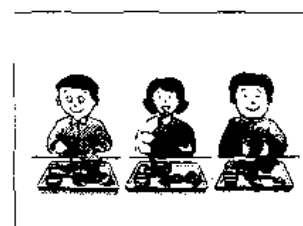
T「12時を過ぎたので、食堂へ行きました。
食堂の前にリーさんが立っていました。」

T「リーさん、昼ごはんはもう食べましたか。
リーさんは何と言いますか。」

S「いいえ、今から食べるところです。」

T「じゃ、いっしょに食べましょう。」

T「ラオさんは今部屋で手紙を書いています。
友達が来て、『いっしょにピンポンしませんか』と言いました。ラオさんは少し



食べる 食べている 食べた
ところです。ところです。ところです。



待ってほしいです。友達に何と言いますか。」から

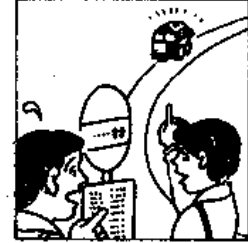
S「すみません、~~今手紙を書いているところ~~ですから、もう少し待ってください。」

T「100番のバスが来たかどうか、ほかのバスを待っている女の人に何と聞きますか。」

S「100番のバスはもう来ましたか。」

T「女の人は何と答えますか。」

S「~~たった今出た~~ところです。」



それを聞いて、この人は次のバスまで待たなければならないこと、残念に思うことを説明する。

下のような絵を用意して、「～ところです」に接続する動詞の形を行為の直前、最中、直後によって変えることを理解させたあと、3通りの言い方を順番に練習していく。



シャワーを浴びるところです。 シャワーを浴びているところ シャワーを浴びたところ
です。

【指導留意点】

- (1) 「～ところです」の文の作り方は易しいので、表現機能をよく理解させる。
練習B1はタイミングの良さを表し、相手を誘うきっかけにしていること、B2は言い訳の手立てとして用いているが、相手の意向に叶うよう精一杯努力している姿勢を理解させる。Bの3の1)、2)はタイミングを逸した間の悪さを相手に伝え、相手に次の行動を考えさせるきっかけにしている言外の意味をつかませる。
- (2) 「～ところです」の形だけで、過去の時点の説明の「～ところでした」や「～

ところへ／に／を／で」など助詞を伴った言い方は扱わない。

★発展指導

学習者が旅行や行事などで撮った写真を持っていたら、その写真について「～ところですよ」を用いて説明させたり、ほかの人の質問に答えさせたりする。

例：スキー旅行、富士登山など



2. 彼は先週日本へ来たばかりです

[指導内容]

ある動作が行われてからまだあまり時間が経っていないという話し手の主観的な気持ちを表すときに「た形＋ばかりです」の表現を用いることを教える。

「～ばかりです」に含まれる言外の気持ちを表出させて「～ばかりですから、～」という因果関係を表す形と、逆接の「のに」を接続させて、「ばかり」の意味を強調させた「～ばかりなのに、～」の形で、文型の理解を図る。

[導入例]

値札や表示のついた品物などを出して、

「きのうこのシャツを買いました。」

「このシャツは買ったばかりです。」

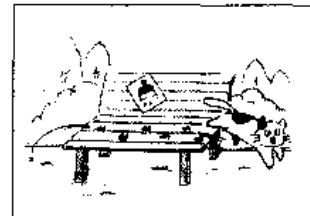
ここで「このシャツを買ったばかりです。」にならないように注意する。

右のような絵を見せて、

T 「さっきいすにペンキを塗りました。

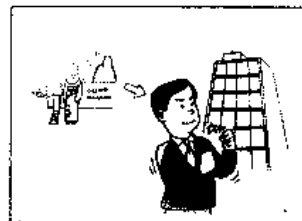
まだ乾いていません。」

「このいすはペンキを塗ったばかりです。」



T 「彼は22才です。ことし大学を出ました。」

そして先月会社に入りました。
ですから、まだ仕事に慣れていません。」から
T 「彼はことし大学を出たばかりです。
先月会社に入ったばかりです。」



T 「彼は先週日本へ来ました。日本語がまだよくわかりません。」から
S 「彼は先週日本へ来たばかりです。」と言えればよい。

「～ばかりです」の意味とた形に接続することを説明して、過去を表す時の副詞を入れた文の変換練習（「さっき起きました→さっき起きたばかりです。」）をする。

次に目的語を主題に取り立てた言い方、「きのうこのカメラを買いました→このカメラはきのう買ったばかりです。」の形の練習を行う。そのあと「～ばかりですから、～」「～ばかりなのに、～」を導入して、練習を行う。

[指導留意点]

(1) 「～たところです」と「～たばかりです」は動作の完了直後を表す点では同じような意味になるが、後者はある程度時間が経った場合でも話し手がその時間を心理的に短く感じれば使えるという点が異なる。

「～たばかりです」は「たった今」「さっき」など直後を表す語のほかに、「先週」「2か月前に」「去年」なども使えるが、「～ところです」は直後しか表すことができないことで両者の違いを理解させるようにする。

(2) 「このカメラは買ったばかりです」の取り立ての言い方を「このカメラを買ったばかりです」とよく間違えるので、注意する。

(3) 「ばかり」は形式名詞なので、「～ので」「～のに」に接続する場合は、「～ばかりなので」「～ばかりなのに」となることに注意する。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

自分が今やっている仕事の進捗状況を簡単に報告することができる。

[場 面]

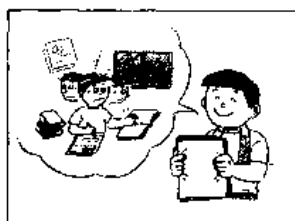
加藤に借りた専門書をラオが返しに来たところで、加藤はラオに発表の準備の進捗状況を心配して尋ねる。

[指導項目]

(1) 「[とても] 助かりました」…困難な状況のときに、ほかの人が援助してくれたことに対する感謝の気持ちを表す。右のような絵を使って意味を確認する。



(2) 「【日本語でまとめる】のに苦労しました」…「日本語でまとめるのは大変でした」とほぼ同じ意味で教える。「～の」の文法説明（動詞の名詞化）を加える。



★発展指導

(1) この会話以前の場面を想定して、ラオが加藤に本を貸してもらう会話を作らせる。

(2) ラオの発表の準備の進捗状況を変えて会話を作る。教師は加藤の役で適宜対応する。

例：1) 本や資料を読んで、これから発表の内容をまとめる段階。

2) 発表の内容を全部まとめて、リハーサルをする段階。

第 47 課

I 指導項目

1. ～そうです	文1	例1・2・3	A1	B1・2・3	C1・2
2. ～ようです	文2	例4・5	A2	B4・5・6	C3・4

II 指導項目解説

1. 天気予報によると、あしたは雨が降るそうです

[指導内容]

ほかから得た情報を第三者に伝えるときに、「～そうです」を用いて表すことを教える。

情報の出所を示す「～によると」を文頭に用いて、「～そうです」と呼応させた形で伝聞の意味の理解を図る。テキストでは情報源としてラジオ・テレビのニュース、天気予報、新聞、手紙、人の話などを扱っている。

[導入例]

まず天気を話題に導入する。

T 「きょうはいい天気ですね。

あしたはどうでしょうか。」

S 「あしたもたぶんいい天気でしょう。」

T 「けさ天気予報を聞きましたか。」

S 「いいえ、聞きませんでした。」

T 「わたしはけさ天気予報を聞きました。

天気予報によると、あしたはいい天気
だそうです。」

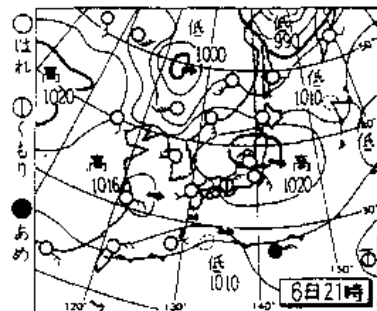
T 「きょうは寒いですね。

あしたはどうでしょうか。」

S 「あしたもたぶん寒いと思います。」

T 「天気予報でもそう言っていました。」から

「天気予報によると、あしたは寒いそうです。」



東京	10.2%
札幌	0%
仙台	0%
新潟	0%
東京	10.2%
名古屋	10.2%
大阪	10.2%
福岡	10.2%
札幌	0%
仙台	0%
新潟	0%
東京	10.2%
名古屋	10.2%
大阪	10.2%
福岡	10.2%

T「今度の日曜日はどこか出かけますか。」

S「はい。ディズニーランドへ遊びに行きます。」

T「天気予報によると、日曜日は雨が降るそうです。」

「傘を持って行ったほうがいいですよ。」

自分が推測したのでなく、天気予報で聞いたときは、まず、「天気予報によると」と情報源を示し、聞いた内容を普通形にした後、「～そうです」で表すことを説明する。

手紙からの情報も「～そうです」を使うことを理解させる。

T「マリオさんは今年4月にフィリピンへ帰りました。きのうマリオさんから手紙をもらいました。手紙にいろいろ書いてありました。手紙によると、マリオさんは来月結婚するそうです。」



過去の事実を伝えるときは、「～そうでした」ではなく、過去形に「～そうです」が接続することを最新のニュースを話題に導入する。

T「けさの新聞を読みましたか。」

S「いいえ、まだ読んでいません。」

T「わたしはけさ新聞を読んで、びっくりしました。」

T「新聞によると、香港で飛行機の事故があったそうです。」

(実際にあった事故、地震、火事などのニュースを取り上げ、写真の載ったその新聞を見せる)

「この事故で、人が80人死んだそうです。」



「～そうです」の意味、用法を導入全体を通して説明した後、天気予報、ニュース、手紙、～さんの話など情報源別に内容をまとめて文の変換練習を行う。

[指導留意点]

- (1) 話し手の得た情報をほかの人に伝えるという点では「～とっていました」(第33課)は似たような意味を持つが、以下の例に見られるような違いがある。

例：「田中さんはあした大阪へ出張すると言っていました。」

「田中さんはあした大阪へ出張するそうです。」

「田中さんが大阪へ出張する」事実を伝える点は同じであるが、情報源に違いがある。「～と言っていました」は話し手が田中さん本人から聞いたことをそのまま聞き手に伝えるものであるが、「～そうです」は田中さん以外の人から聞いた可能性も考えられる。また下の例のように、「～と言っていました」は発言者の命令、依頼表現もそのまま引用できるが、「～そうです」は用いることができない。

例：「田中さんはすぐ電話してくれと言っていました。」

- (2) 様態の意味を表す「～そうです」（第43課）と同じ文末になるので、接続する形が異なることに注意させる。

★発展指導

易しく作り直した天気予報、ニュース、手紙文などを聞き取り教材にして、事実と合っているものを選択させたり、「～そうです」で答えさせたりする。

2. 玄関にだれか来たようです

[指導内容]

視覚、聴覚、臭覚、触覚など自分の感覚でとらえたその場の状況から話し手が推測した事柄を表す場合に「～ようです」を用いることを教える。

副詞「どうも」と呼応させて、文型の意味・用法の理解を図る。

[導入例]

まず、学習者に袋に入れた物を触らせたり、音を聞かせたり、匂いを嗅がせたりして、それが何であるかを当てさせる。

T「これは何ですか。」（袋の上からはさみの一部を触らせて）

S「ナイフ？」から、はっきりナイフと言えないときは、
「~~ナイフのようです。~~」

T「こんな音がします。」（チョキチョキ音をたてて聞かせる）

S「はさみです。」

T「はい、そうです。」（袋から出して、実際に見せる）

せっけんやアイスクリーム、目覚まし時計などでも同様に導入できる。

次にその場の状況から、何があったかが推理できるような場面を設定して導入する。

T 「ドアにかぎを掛けて、買い物に出かけました。
うちへ帰ったら、窓が開いています。
部屋の中の様子がおかしいです。
あなたはこれを見て、どう考えますか。」



S 「泥棒…」から

T 「**窓から泥棒が入ったようです。**」

T 「うちの中はわたし一人だけです。でも、廊下の方で変な音がします。(そっと歩く足音を真似る)
この音を聞いて、どう考えますか。」から
「**廊下にだれがいるようです。**」(怖そうな表情で)



T 「木村さんのうちへ行きました。
玄関のドアをノックしましたが、返事がありません。かぎが掛かっています。
あなたはどう考えますか。」から



S 「**木村さんはどこか出かけたようです。**」

T 「かぎが掛かっています、だれもいません」の状況から
(首をかしげて思案顔で)
「**どうも留守のようです。**」

「～ようです」には「どうも」がよく使われることを説明する。

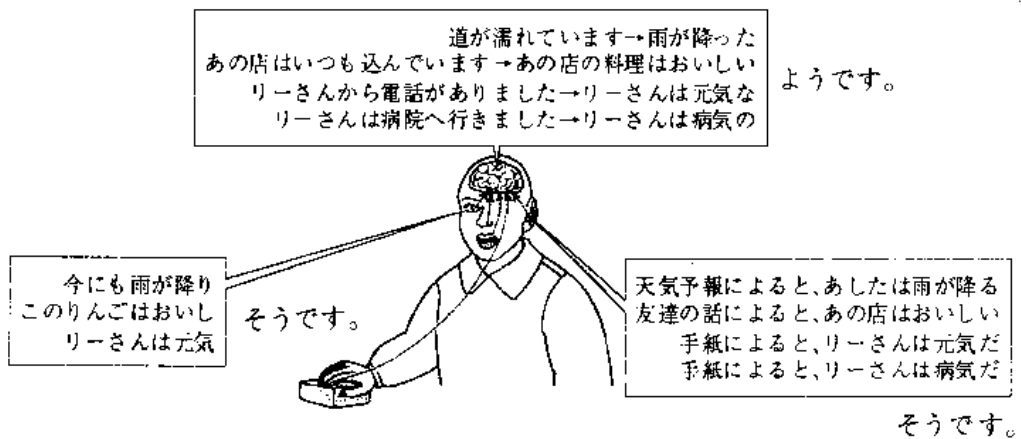
最後に、な形容詞の現在形は「～なようです」になることを簡単に導入しておく。

T 「リーさんは足にけがをして、入院しています。
きのうリーさんから電話がありました。
リーさんは今歩く練習をしていると言っていました。」から
「**リーさんは元気なようです。**」

「普通形+ようです」の意味を確認し、な形容詞・名詞の現在形はそれぞれ「～なようです」「～のようです」になることに注意させて、練習に移る。

[指導留意点]

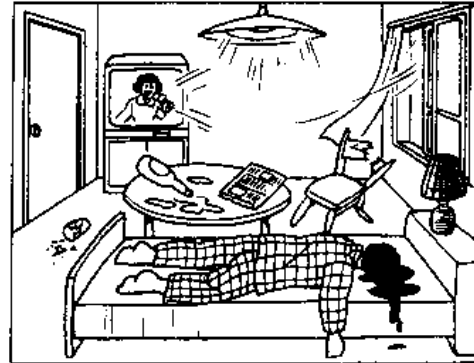
- (1) 「音がします」「においがします」などのように感覚で捉えられる現象を表す場合は、「します」を用いることを説明する。
このほかに「味がします」「声がします」を教えてもよい。
- (2) 導入直後の練習では「だれか」「どこか」「何か」など不定代名詞を用いることによって「～ようです」の意味の理解を助ける。
- (3) 意味・用法を間違えやすい様態の「～そうです」、伝聞の「～そうです」、推量の「～ようです」の相違点をこの課の最後に以下のようにしてまとめるとよい。



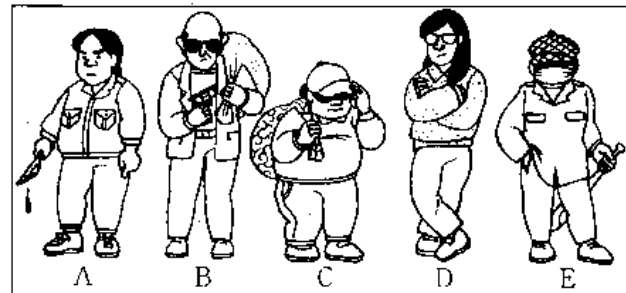
★発展指導

第29課の「～ています」の発展指導で用いた殺人現場Aの絵を見せて、犯人の侵入経路、犯行時間、その時被害者は何をしていたかなどを、現場の状況から推理させる。また、犯人の特徴についての目撃者の証言を作って、犯人を探させてもよい。

例： 犯人は夜窓から入ったようです。
殺された人はそのときビールを
飲みながら、テレビを見ていた
ようです。



ゆうべ近くに住んでいる
人がこのうちから変な男
が出て来るのを見たそう
です。男は背が高くて、
髪が長くて、眼鏡をかけ
ていたそうです。犯人は
どの男でしょうか。



Ⅲ 会 話

[指導目標]

ある事柄について述べる場合に、伝聞、推量、断定の表現を使い分けて話すことができる。

[場 面]

サンフランシスコ大地震のニュースを知って、現地に出張中の加藤の安否を社員達が気遣う。

[指導項目]

特に難しい語句はない。三人が地震のニュースをどのようにして知ったかを会話の内容から押さえる。

「心配ですね」…この場合は自分と相手を含めての不安な気持ちを述べる表現。

第 48 課

I. 指導項目

1. ～は～を～（さ）せませす	文1	例1・2	A2	B1・3	C1
2. ～は～に～を～（さ）せませす	文2	例3・4	A3	B2・3・4	C2・3
3. ～（さ）せていただけませんか		例5	A4	B5	C4

II 指導項目解説

使役の用法はいくつかあるが、この課では最も基本的で、初級段階の学習者にとって理解しやすい用法を取り上げる。

上位者（親、兄、上司など）が下位者（子、弟、部下など）にある行為を指示、命令したり、下位者の行為を容認したりする場合に用いられる使役の表現を中心に学習させる。

1. 部長は加藤さんを大阪へ出張させました

[指導内容]

自動詞の場合の使役は「AはBを～（さ）せませす」の形になることを教える。
AはBより上位者であり、実際の動作をする人Bは「を」で表される。

[導入例]

教師の指示によって実際に学習者に行為をさせることで導入する。

T 「リーさん、立ってください。」

T (他の学習者に聞く) 「リーさんは今何をしましたか。」

S 「リーさんは立ちました。」

T 「わたしは何をしましたか。」から

「先生はリーさんを立たせました。」の形を示す。

T 「結構です。じゃ、座ってください。」

T 「リーさんは今何をしましたか。」

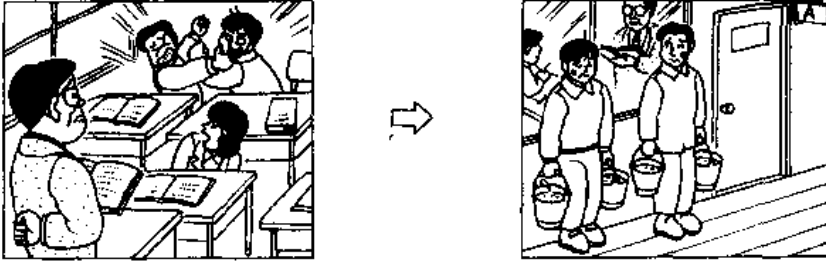
S 「リーさんは座りました。」

T 「わたしは何をしましたか。」から

S 「先生はりーさんを座らせました。」を導く。

授業中騒いで先生に廊下に立たされた経験を絵にすると、使役の意味をはっきりわからせることができる。

「先生はうるさい学生を廊下に立たせました。」



このあと「立たせます」「座らせませす」などの動詞の形が「使役」という形であること、使役の文はこのような先生と学生の関係だけでなく、親と子、上司と部下の関係でも使われることを以下のような絵で説明する。

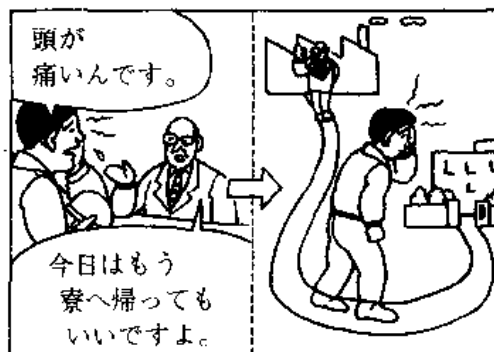


「わたしは息子を買いたい物に行かせました。」



「部長は加藤さんを大阪へ出張させました。」

また下の者の希望どおりにある行為をするのを許可する場合にも使われることを以下のような絵で説明する。



「部長はりーさんを寮へ帰らせました。」

それぞれの文で実際に「行く人」「出張する人」「帰る人」は誰かを質問して確認したあと、「行く」「来る」「帰る」「出張する」「立つ」「座る」などの自動詞の場合はその動作をする人を「を」で表すことを説明する。

このあと動詞のみの使役の形の作り方をⅠ、Ⅱ、Ⅲのグループ別に提出し、動詞の変換がスムーズにできるようになったら、「娘は買い物に行きます→わたしは娘を買い物に行かせます。」のような自動詞の使役文の変換練習を行う。

基本的な練習ができるようになったら、「今忙しいです、娘は買い物に行きます→今忙しいので、娘を買い物に行かせます。」のように理由を付加し、かつ「わたしは」を省略した文の練習に移る。

2. わたしは娘にピアノを習わせます

[指導内容]

他動詞の場合の使役の形は「AはBに～を～(さ)せます」となることを教える。この場合もAはBより上位者で、実際の動作をする人Bは「に」、その動作の対象となるものは「を」で示す。

[導入例]

この場合も教室内で実際に学生にいろいろ命じて行わせることで導入できる。

T 「リーさん、ここを読んでください。」

(リー、本を読む)

T 「リーさんは何をしましたか。」

S 「リーさんは本を読みました。」

T 「わたしは何をしましたか。」

S 「先生はリーさんを本を読ませました。」は×。

「先生はリーさんに本を読ませました。」を導く。



リーに黒板に指示した漢字を書くように言う。

同じようなやりとりから、次のように言えればよい。

S 「先生はリーさんに漢字を書かせました。」

親が子に家庭内のことをいろいろ手伝わせる場面は、どこの国も共通したもの

がある。そのような状況を説明したり絵で示したりして、他動詞の使役文を導入することができる。

T 「わたしは娘が一人います。今15歳です。

わたしは娘の部屋を掃除しません。

わたしは娘に部屋を掃除させます。

わたしは娘の服を洗濯しません。

わたしは娘に服を洗濯させます。」



このあと「娘は部屋を掃除します→わたしは娘に部屋を掃除させます。」の文単位の変換練習を行う。そのあと「荷物が重いです、息子は荷物を持ちます→荷物が重いので、息子に荷物を持たせます。」のように、そのようにさせた状況を付加し、「わたしは」を省略した使役の文の練習に進む。

基本的な言い方が定着したら、自動詞、他動詞の文を混ぜて「を-使役文」と、「に-使役文」を間違えることなく言えるように練習する。

次にウチの人にある行為をさせたり、依頼したりすることをソトの人に対して述べるときは、ウチの人同士の間関係にかかわらず使役の形を使うことを次のような例で導入する。

絵を用いて、コピーの機械が故障した場合の修理の依頼の場面を設定する。

T 「コピーの機械の調子がおかしいです。会社に電話して、修理を頼みました。「機械の調子がおかしいので、直してもらいたんですが…」会社の人は何と言いますか。」

S 「わかりました。すぐ行きます。」

T 「修理に行く人はこの人ではありません。

同じ会社で働いている修理専門の人です。」から

T 「わかりました。すぐ係の者を行かせます。」



係の人がこの人より年や地位が上でも、ソトである客に対しては使役形を使うことを理解させて、練習B4のような練習を行う。

[指導留意点]

- (1) すべての使役動詞はⅡグループの動詞になる。使役の普通形は練習はしなくてもよいが、以下のように形を示すとよい。

行かせます	行かせません	行かせました	行かせませんでした
行かせる	行かせない	行かせた	行かせなかった

- (2) テキストでは自動詞の使役が先に提出してあるので、自動詞、他動詞の順に導入例を出したが、他動詞を先にしてもよい。
- (3) 「開く」「開ける」のように自動詞と他動詞が対の形になっている動詞については自動詞と他動詞の区別は大体把握しているが、対応する他動詞がない自動詞については、それが自動詞であることがわかりにくい。そのため自動詞の使役の構文で動作主を「を」とすべきところを「に」としてしまふことが多い。
この課で扱う範囲の自動詞をリストアップして、覚えさせるとよい。
「(東京へ) 行く」「来る」「帰る」「出張する」「(会社に) 通う」
「(会議に) 出席する」「(公園で) 遊ぶ」「(会社を) 休む」
「(お茶を) 持って行く」「持って来る」は他動詞になるので、注意させる。
- (4) 「会社を休む」「公園を散歩する」「道を歩く」など「を」をとる自動詞の場合は、「を」の重複を避けて「に」になる傾向が強い(子どもを休ませる／子どもに学校を休ませる)。この課では理解の混乱を防ぐため、「子どもに学校を休ませる」のような例は扱わない。
- (5) 「待つ」「勉強する」は他動詞であるが、「を」で表す用法がある(友達を駅で待たせる／息子を大学で勉強させる)。この用法も混乱を防ぐため、扱わない。「勉強する」は「息子に英語を勉強させる」の形で教える。
- (6) 「寝る」「起きる」の使役の形は「寝させる」「起きさせる」だが、他動詞の「寝かせる」「起こす」のほうが一般的に用いられるので、「寝る」「起きる」の使役は練習に入れない。
- (7) 人の感情を表す自動詞の使役の形「心配させる」「泣かせる」「笑わせる」などは人の上下関係に関係なく、相手にそのような状態を誘発させる意になるので、この課では扱わない。
- (8) 目下の人が同等または目上の人に依頼して、何かをしてもらう場合は、使役ではなく受給表現を用いる。使役のみの形の練習が終わったら、次のページのような場面の絵をいくつか用いて使役と受給の表現の使い分けの練習を行うとよい。



「子どもに写真を撮らせてます。」 「恋人に写真を撮ってもらいます。」 「部長に写真を撮っていただきます。」

★発展指導

日本の子どもは小さいときから、いろいろな稽古ごとや学習塾に行かされている事情を下の例を参考に紹介し、学習者の国ではどうか、また子どもたちに家事の手伝いをさせることについて話し合わせる。

	8:30	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	10:30
月曜日	学校			ピアノ	夕食	テレビ	勉強			就寝
火曜日	学校		学習塾			夕食	テレビ	勉強		就寝
水曜日	学校		英会話	夕食	テレビ	読書	勉強			就寝
木曜日	学校		学習塾			夕食	テレビ	勉強		就寝
金曜日	学校		水泳			夕食	テレビ	勉強		就寝
土曜日	1:00	絵画教室	友達と遊ぶ	犬の散歩		夕食	テレビ	勉強		就寝
日曜日	友達と遊んだり、家族と過ごす			犬の散歩		夕食	テレビ	勉強		就寝

*月に1回土曜日学校が休みになる

2. きょう1日休ませていただけませんか

[指導内容]

許可を求める表現として、使役動詞を用いた「～(さ)せていただけませんか」を教える。この表現は自分の行為を相手に認めてもらえるように丁寧に依頼する場合に用いられることを理解させる。

[導入例]

第39課で学習した理由の「～ので」を下敷きに、上司に早退の許可をもらう場面などから導入する。

T 「熱があります。きょうは早くうちへ帰りたいです。

課長に何と言って、頼みますか。」

S 「熱があるので、早く帰ってもいいですか。」から



「熱があるので、早く帰らせていただけませんか。」を導く。

「～（さ）せていただけませんか」は許可を求める、より丁寧な表現であることを説明する。

T 「きれいな着物を着ている女の人があります。

その人の写真を撮りたいです。何と言いますか。」

S 「すみませんが、写真を撮らせていただけませんか。」

このように言えたら、「会社を休みます→会社を休ませていただけませんか。」のような変換練習をし、それから「かぜをひきました、病院へ行きます→かぜをひいたので、病院へ行かせていただけませんか。」のように理由を付加した練習などを行う。

[指導留意点]

- (1) 「～（さ）せていただけませんか」は使役の形を使っているため、相手に何かをさせる意味と間違える人がいるので、「行為をする人は誰か」を確認する。相手にある行為をするように丁寧に依頼する場合は「～していただけませんか」(第41課)になることを思い出させる。
- (2) 使役動詞を用いた許可を求める表現には「～（さ）せていただきたいんですが…」 「～（さ）せていただけないでしょうか」などもあるが、この段階では「～（さ）せていただけませんか」の形のみを教える。

★発展指導

相手に許可を求める状況の会話を聞かせて、許可された場合は○、許可されない場合は×を書かせる。

例) A:あとう、ちょっと会社に電話をかけたいので、この電話を使わせていただけませんか。

B:ええ、どうぞ。

- 1) A:アメリカへ出張ですか。ぜひわたしに行かせていただけませんか。
 B:君なら英語も上手だし、じゃ、君に行ってもらおう。
- 2) A:お母さん友達みんなピアノを習っているわ。わたしにもピアノを習わせて。
 B:あなたは週に2回水泳に行っているでしょう。塾の勉強もあるし、それ以上は無理よ。

例) ○



1)



2)



Ⅲ 会 話

[指導目標]

日本人のお正月を迎える準備、お正月の習慣がわかる。
 日本の冬の紹介となっている。

[場 面]

ナロンはお正月に高橋家に招待される。家族全員の温かいもてなしと、初めて接する日本のお正月の雰囲気になロンはすっかり感激する。

[指導項目]

- (1) 「お待たせしました」…相手を待たせたことへの詫びの表現。「待たせ」が使役の形であることに注意させる。レストランで店の人が注文した料理をやっ
 と持って来たときなどに使われることを教える。
- (2) 「あけましておめでとうございます」…新年の挨拶であるが、「よいお年を」
 の意味は持たないので、12月中は使えないことを理解させる。
- (3) 「遠慮なくどうぞ」…もてなす側が相手に料理や酒などを勧めるときに使う
 言葉。「遠慮しないで（遠慮せずに）どうぞたくさん召し上がってください」
 などの言い方を紹介してもよい。

★発展指導

自国での新年の迎え方、過ごし方などを話させたり、作文に書かせたり、独自の習慣などを絵に書かせて発表させても楽しくできる。

第 49 課

I 指導項目

1. ～（ら）れます	文1	例1	A 1・2	B 1・2	C 1
2. お～になります	文2	例2	A 3	B 3・4	C 2・4
3. 特別な尊敬動詞	文3	例3・4・5・6	A 4	B 5・6	C 3・4

II 指導項目解説

日本語では話し手は聞き手（または話題の中に登場する人）との人間関係を考慮して、言葉遣いを選ぶ必要がある。これについては「丁寧体と普通体」（第20課）、授受表現（第24, 41課）及び「～てくださいますか」（第26課）などのいくつかの依頼表現を教える際に触れた。第49課と第50課では更に「敬語」について教える。

「敬語」には大別して尊敬語、謙譲語、丁寧語があるが、第49課では尊敬語を、第50課では謙譲語を取り上げる。

丁寧語については「敬語」の導入の際に尊敬語との違いを説明する必要があるが、練習は特に行わない。

尊敬語は話し手Aが聞き手B（または話題の人C）に敬意を表すために、B（またはC）の行為、状態、その人に属する物を高めて言う場合に用いられる言葉である。敬意を表す相手のB・Cは話し手Aとは親しくない関係の人や社会的に立場が上の人である。

尊敬語は丁寧体、普通体どちらの会話にも使えるが、この課では丁寧体の会話の中で話し手が聞き手や話題の人に敬意を表す場合を中心に教える。

1. 社長は3時にこちらへ来られます

[指導内容]

「ない形＋（ら）れます」の形で尊敬の意味を表すことを教える。

人間の行為を表すほとんどすべての動詞はこの形に変換できるが、状態を表す「できます」「わかります」「要ります」や可能動詞などはこの形に変換できない。

[導入例]

まず尊敬語がどのような場面と人間関係で使われるのかを、これまでの学習で身に付けた知識をまとめる形で理解させる。

例えば、ある人（佐藤さん）が、家族、同僚、上司にコーヒーを飲むかどうかを聞く場合、それぞれどのように言うかを考えさせることで導入する。

T「佐藤さんは弟さんには何と言いますか。」

S「コーヒーを飲む？」

T「弟さんは何と答えますか。」

S「うん、飲む。」

家族や友達同士の間では親しみをこめて普通体で話すことを確認する。



T「会社で一緒に働いている加藤さんには何と言いますか。」

S「コーヒーを飲みますか。」

T「加藤さんは何と答えますか。」

S「ええ、飲みます。」

この場合はやや改まった丁寧体で話すことを確認する。



T「部長には何と言いますか。」

S「コーヒーを飲みますか。」は△。

「コーヒーを飲まれますか。」を導く。

T「飲むときは、部長は何と答えますか。」

S「はい、飲まれます」は×。

「はい、飲まれます。」または、「いいえ、飲まれません。」のように尊敬語で答えないように注意させる。



自分より目上の人には尊敬語を用いて話すこと、「～(ら)れます」を用いた尊敬語の作り方を板書で説明する。このとき、この形は受身の形と同じであることを補足する。

[板書]

加藤さんは	コーヒーを	飲みます。
部長は	コーヒーを	飲ま <u>れ</u> ます。

ない形+(ら)れます→尊敬語

このあとまずⅠ、Ⅱ、Ⅲグループの代表的な動詞を一つずつ出して作り方を説明し、一覧表にしたプリントを配布する。それを読み合わせて確認したあと、フラッシュカードや動詞の絵で、グループ別に変換練習を行う。それができるようになったら、「部長はさっき出かけました→部長はさっき出かけられました。」のような文単位の変換練習に移る。それから質問文の練習「いつ国へ帰りますか→いつお国へ帰られますか。」をするとき、同時に「国」「うち」「お客さん」などの名詞も「お国」「お宅」「お客様」のような尊敬語に換えなければならないことを指導する。この段階ではまだ謙譲語を導入していないので、尊敬語を用いたこのような質問に対しては、丁寧語の「～です」「～ます」で答えさせる。

2. 部長はもうお宅へお帰りになりました

[指導内容]

動詞のⅠ・Ⅱグループのます形をこの形に組み入れることによって、尊敬語にできることを教える。Ⅲグループの動詞と「寝ます」「見ます」「います」「着ます」など、ます形が1音節の動詞はこの形が使えない。「寝ます」は「お休みになります」、その他は1の「～(ら)れます」か3で述べる特別な尊敬動詞を用いる。

[導入例]

T 「お客様の前に新聞があります。

ちょっとその新聞を読みたいとき、何と言って聞きますか。」

S 「この新聞を読まれますか。」でもいいが、

S 「この新聞をお読みになりますか。」の言い方も

あることを説明する。



T 「お客様がたばこを吸うかどうか聞くときは？」

S 「たばこをお吸いになりますか。」が出ればよい。
 この場合も「はい、吸います。」「いいえ、吸いませ
 せん。」のように尊敬語で答えないことに注意させる。



次に「お～になります」の尊敬語の作り方を説明する。この形が使えるのはⅠ・Ⅱグループの動詞だけで、Ⅲグループの動詞からは作れないこと、また、ます形が1音節の動詞「寝ます」「見ます」「います」などもできないこと、「寝ます」だけは例外的に「お休みになります」になることを説明する。

[板書]

		[尊敬語]		
Ⅰ	よみます	およみになります	Ⅱ	みます×
	かえります	おかえりになります		います×
Ⅱ	かけます	おかけになります	Ⅲ	きます×
	*ぬます	おやすみになります		します×
				けっこんします×

(この板書の内容はプリントにして配ってもよい。)

板書またはプリントで説明をしたあと、練習に移る。まず、動詞単位の変換練習をする。それから文単位の変換練習、QAなどに進み、練習C2のような具体的な場面での使い方を学ばせる。

3. お客様はロビーにいらっしゃいます

[指導内容]

以下のような尊敬の意を表す特別な動詞、語句を教える。

「いらっしゃいます」「召し上がります」「おっしゃいます」

「なさいます」「ご覧になります」「ご存じです」など。

また補助動詞の「～(て) いらっしゃいます」もここで扱う。

[導入例]

T 「リーさんは鈴木先生に会いに事務所へ行きました。しかし先生はいませ

ん。それで事務所の人に先生がどこにいるか聞きます。

何と言って、聞きますか。」

S「鈴木先生はどこにいられますか。」から

「鈴木先生はどちらにいらっしゃいますか。」

を導く。「います」は「いらっしゃいます」のほうをよく使うこと、「どこ」もより丁寧な「どちら」に直すことを説明する。



T「休み時間に鈴木先生がお菓子を食べるかどうか、聞いてください。」

S「先生、お菓子を食べられますか。」

S「先生、お菓子をお食べになりますか。」から

T「先生、お菓子を召し上がりますか。」



「食べられます」「お食べになります」より「召し上がります」の方がよく使われること、「召し上がります」は「食べます」のほかに「飲みます」の意味でも使われることを説明する。

このような特別な尊敬語の表を配布して説明する。

	尊敬語
行きます	
来ます	いらっしゃいます
います	
～ています	～ていらっしゃいます
食べます	召し上がります
飲みます	
言います	おっしゃいます
します	なさいます
見ます	ご覧になります
知っています	ご存じです
くれます	くださいます

*「くださいます」(41課)は尊敬語であったことを理解させる。

説明のあと、この表にある動詞の絵を見せながら、「事務所にいます（先生）→先生は事務所にいらっしゃいます。」のように尊敬語に換える練習をする。そのあと「あしたどこへ行きますか→あしたどちらへいらっしゃいますか。」など文全体で敬語レベルを統一することに注意させながら、質問文の変換練習を行う。「～（ら）れます」「お～になります」の場合と同様に、質問に答えるときは、この段階では謙讓語を使わずに、例えば「どのくらい勉強なさいましたか」に対して「3か月です」または「3か月勉強しました」のように答えさせる。最後に練習C3・4のような具体的な場面での使い方を練習させる。

[指導留意点]

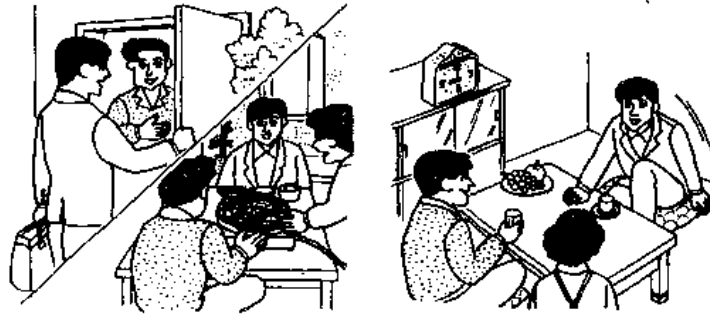
- (1) ①「～（ら）れます」②「お～になります」③特別な尊敬動詞のそれぞれの用法の違いについては以下のように説明する。
 - ①はやや改まった感じで、男性によく用いられる傾向がある。
 - ②は柔かい語感があり男女一般によく使われる。①よりも敬意の度合いが高い。
 - ③は敬意の度合いが一番高く、男女ともに使われる。
- (2) 「漢語+します」は①では「結婚されます」③では「結婚なさいます」の形になる。類似した言い方のため「結婚なされます」の間違いが出やすいので注意する。このほかに「ご～になります」「ご／お～なさいます」「ご／お～くださいます」などの形もあるが、この課では扱わない。
- (3) 尊敬語を用いた依頼の表現は②と③の形からはできるが、①からはできない。
- (4) 「～（ら）れます」は受身の形と全く同じで、更にⅡグループの動詞とⅢグループの「来ます」は可能動詞とも同じ形になる。この形が尊敬、受身、可能のいずれの意味になるかは文脈によって決まることだけ簡単に触れ、意味を区別する練習は混乱を招くので、この段階ではしない。
- (5) 「来ます」「います」は「おいでになります」の言い方があるが、この課では扱わない。「いらっしゃいます」には「行く」「来る」「いる」の三つの意味があるが、どの意味で使われているかが正しく理解できるように指導する。
- (6) 動詞を尊敬語に換えるだけでなく、名詞や形容詞、疑問詞なども必要に応じて尊敬語や丁寧な言葉に換えることによってはじめて文全体で敬語のレベルの統一がとれることをよく理解させる。名詞や形容詞に付く接頭語の「お～」「ご～」は一般的には和語には「お」、漢語には「ご」が付くとされるが、例外もあるので、この段階では「お国」「ご家族」「お忙しい」「お元気」など接頭

語を付けたままで覚えさせる。

また人の呼称に関する「この方」「その方」「あの方」の「～方」、「田中様」「お客様」「皆様」の「～様」などについても注意させる。

★発展指導

- (1) 第19課の会話ビデオをもう一度見せ、玄関から家に入る場面、家族の人との初対面の挨拶の場面、家の者が料理を勧める場面、いとまごいをする場面などで敬語を使って話す練習をさせる。



- (2) 外部よりゲストを呼び、初対面の人に敬語を使って、丁寧に話す練習をさせる。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

敬語を用いて、電話をかけることができる。

[場 面]

日本での実習が終わり、帰国目前のラオは、センターで世話になった担当者の田中に、会社主催の送別会に来てもらえるかどうか確認するため、田中の家に電話する。

[指導項目]

- (1) 「どちら様ですか」…「どなたですか」よりもっと丁寧に相手を確認する言い方。
- (2) 「お待ちください」…「待ってください」よりもっと敬意を込めて依頼する表現。ビジネスの場（受付、銀行、ホテル）などで、指示としてよく使われる

例をいくつか紹介するとよい。

「ちょっと」の代わりに「少々」も使われることを教えてもよい。

- (3) 「お変わりありませんか」…しばらく会わなかった人同士の間で交わされる挨拶。会えずにいたあいだ、健康面はもちろん、ほかに問題がなかったかを聞く意味を含む。「お元気ですか」の意味に近い。

★発展指導

以下のような状況を設定し、敬語を用いて、電話での話し方の練習をする。

[電話番号を間違える]

研修センターにかけるつもりだったが間違えてほかの会社に電話をかけてしまい謝る。

↓

[田中さん呼び出してもらう]

センターの受付にかけ、自分の名前を言って、研修班の田中さん呼び出してもらう。

↓

[センターの人に田中さんの電話番号を聞く]

田中さんは大阪へ出張中で留守。今晚帰るとのことなので、田中さんの電話番号を教えてもらう。

↓

第49課の会話となる。

第 50 課

I 指導項目

1. お／ご～します	文1 例1・2	A1・2	B1・2・3	C1・2
2. 特別な謙讓動詞	文2 例3・4・5・6・7・8	A3	B4・5・6	C3・4

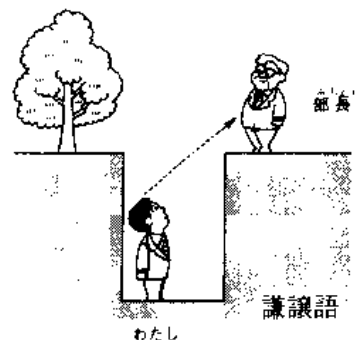
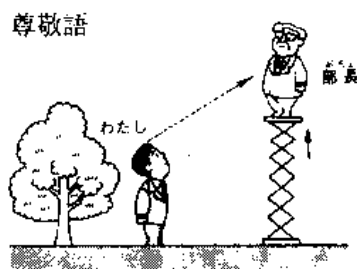
II 指導項目解説

先の第49課では尊敬語を扱ったが、この第50課では謙讓語を教え、敬語を用いた待遇表現全体のあらましを理解させる。また、「～です」より丁寧度の高い丁寧語「～でございます」を簡単に紹介する。

謙讓語は話し手Aが聞き手B（または話題の人C）に対して敬意を表すために、A自身の行為をへりくだって述べるものである。また謙讓語は自分のことだけでなく、自分の家族、自分の所属集団（会社などの組織）の人（ウチの人）のことを述べる場合にも使われる。

尊敬語は相手の行為を直接高める言葉であり、謙讓語は自身を低めることによって間接的に相手を高める言葉である。用法の違いはあるが、どちらもその目的は相手への敬意を表すために用いられることをよく理解させる。

謙讓語も尊敬語と同様、丁寧体、普通体どちらの会話にも用いられるが、この課では丁寧体の会話の中で自分や自分に属する人の行為を低めて表現する場合を中心に教える。



1. わたしが社長の荷物をお持ちします

[指導内容]

動詞のます形が「お／ご～します」の形に組み入れられることによって、謙讓語になることを教える。I・IIグループの動詞は「お～します」の形になり、IIIグループの漢語動詞の場合は一般的に「ご～します」の形をとる。

「お／ご～します」の形は動作の受け手に対して敬意を表すもので、相手に関わる動作にしか用いることができない。

また、この形は「見ます」「います」のように、ます形が1音節の動詞には用いることができない。

[導入例]

相手のために何かをしてあげる場面を設定し導入する。

まず右のような絵を見せる。

T「お父さんは息子が一人で作っているのを見て、何と言いますか。」

S「手伝おうか。」

親しい関係では普通体が用いられることを確認する。



次に学習者2名に前に出てもらい、一人に重い荷物を持たせる。

T「Aさんは重い荷物を持っています。」

Bさんはこれを見て、何と言いますか。」

S「手伝いましょうか。」または「手伝ってあげましょうか。」

S「荷物を持ちましょうか。」または「荷物を持ってあげましょうか。」

さらに、教師が重い荷物を持っているとき、見ている学習者は何と言うべきか、答えさせる。

S「先生、手伝いましょうか。」はあまり丁寧でなく△。

「先生、手伝ってあげましょうか。」も押し付けがましく×。

T「先生、お手伝いしましょうか。」がよい。

T「『荷物を持ちましょうか』は何と言ったらいいですか。」から

「先生、荷物をお持ちしましょうか。」を導く。

ボールペン、ボールペンと言って、あたりを探す真似をして、

S「私のお貸ししましょうか。」が出ればよい。



今まで導入した内容を振り返り、行為者は誰かを確認する。

T「だれがわたしを手伝ってくれましたか。」

S「わたしが手伝いました」から

「わたしがお手伝いしました。」を導く。

同様の質問を続けて、次のような反応が返ってくればよい。

S「わたしが先生の荷物をお持ちしました。」

S「わたしが先生にボールペンをお貸ししました。」

自分より目上の人（家族を除く）、ソトの人に何かをしてあげる場合は、自分がする行為を「お～します」の形で表すことによって、相手に敬意を表すことを説明する。

相手がする行為を表す「お～になります」や「いらっしゃいます」などは尊敬語と言うが、このように自分がすることを表す「お～します」の形は謙譲語と言うことを説明する。

次のような板書で「お～します」の作り方を説明する。この時に、この形が使えるのはⅠ・Ⅱグループだけだが、ます形が1音節の動詞にはこの形が使えないことを補足する。

[板書]

わたしが	荷物を	お	もち	します。	←持ち ます (Ⅰグループ)
	電話を		かけ		←かけ ます (Ⅱグループ)
*わたしが	町を	ご	あんない	します。	←案内します (Ⅲグループ)

このあとⅠ・Ⅱグループに限って練習する。

次に「ご～します」の導入に移る。

T「わたしは皆さんの国へ遊びに行きたいです。でも、行ったことがありませんから、どこへ行ったらいいか、わかりません。どうしたらいいですか。」

S「わたしが町をお案内します。」は×。

「わたしが町をご案内します。」を導く。



「漢語+します」の場合は、「ご」だけ付けて、「ご～します」になることを説明し、上の板書に導入文(*)を書き足す。

ただ、Ⅲグループの動詞も全てこの形にできるのではなく、相手のためにする

行為に限ることに注意させる。例えば「勉強します」「実習します」「結婚します」などは自分のためなので、「ご～します」の形は使えないことを理解させる。
このあと練習に移る。

2. わたしは日本で1年実習いたしました

[指導内容]

以下のような謙譲の意を表す特別な動詞を教える。

「参ります」「おります」「いたします」「申します」「存じております」
「存じません」「いただきます」「拝見します」「伺います」

このほか補助動詞の謙譲語として「～ております」「～ていただきます」も取り上げる。

[導入例]

お菓子を用意しておいて学習者に薦める。

T 「リーさん、このお菓子を食べませんか。」

S 「はい、お食べします。」は×。

食べる行為そのものは教師とは全くかわりがないので、「お～します」は使えないことを説明する。

この場合は

T 「はい、いただきます。」



T 「リーさん、あとで事務所へ来てください。」

S 「はい、行きます。」でもよいが、教師にもっと丁寧な言葉を使う場合は謙譲語を用いることを説明して、

T 「はい、参ります。」を示す。



T 「リーさん、あしたわたしのうちへ来ませんか。」

S 「はい、参ります。」は△。

教師の家を訪問する場合は「はい、伺います。」のほうが適切であることを説明する。



このような特別な謙讓語の表を配布して、説明する。

丁寧語	謙讓語
行きます 来ます	参ります
います ～ています	おります ～ております
食べます 飲みます もらいます ～てもらいます	いただきます ～ていただきます
言います	申します
します	いたします
見ます	拝見します
聞きます 訪問します	伺います
知っています (知りません)	存じております (存じません)

*「～ていただきます」(第41課)
は謙讓語であったことをこ
こで理解させる。

このあと動詞の絵を見せ、「あした東京へ行きます→わたしはあした東京へ参ります。」のような文の変換練習を行う。そのあとQA練習に入る。初めは「いつ日本へ来ましたか→4月に参りました。」のように尊敬語を使わない形の質問に謙讓語で答えさせ、それができたら、「あしたどちらへいらっしゃいますか→東京へ参ります。」のように尊敬語を使った質問に謙讓語で答える練習をする。

最後に「～です」「あります」より丁寧な丁寧語「～でございます」「ございます」を簡単に導入、練習する。

学習者がよく聞いている駅やバスのアナウンスを話題にする。

T「次は横浜、横浜でございます。」

これは「横浜です」の意味で駅員がお客に対して、より丁寧に表現するために使

われていると説明する。

会社に電話がかかってきたときの応対も

T 「はい、東京電気でございます。」

T 「失礼ですが、どちら様ですか。」と名前を聞き、

S 「リーでございます。」が出ればよい。

丁寧すぎる感があるが、このように言う場合があることを理解させる。



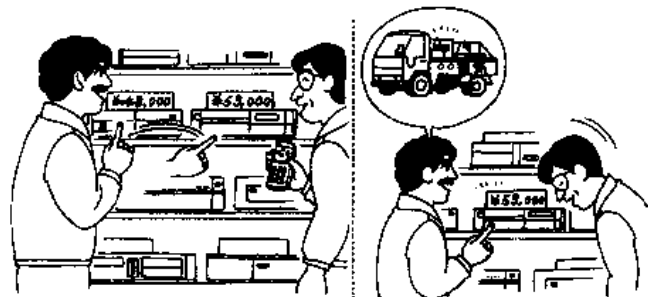
「あります」に対する「ございます」は第35課の買い物の場面を利用する。

店員 「いらっしゃいませ。」

ラオ 「ビデオが欲しいんですが…」

店員 「こちらにいろいろございます。」

店員がお客に対して「あります」と言うところをこのようにより丁寧に表現していることを理解させる。



[指導留意点]

- (1) 「いつお国へお帰りになりますか」の質問に対し、へりくだったつもりで「来年3月にお帰りします」とする間違いが多い。「お／ご～します」の形は自分の行為が相手とかかわりがある場合にのみ使われることをよく理解させる。

Ⅲグループの動詞は導入例で触れた通り、相手にかかわる行為を表す語彙は少なく、この課で練習できるものは以下の動詞に限られる。

「案内する」「紹介する」「説明する」「連絡する」「招待する」「挨拶する」

- (2) 目上やソトの人に行為を申し出る表現には主語に排他的「が」が用いられ、「わたしがお／ご～します」となるが、「わたしは」と言い慣れた形からなかなか抜けきれないので注意する。
- (3) 「お／ご～します」より謙譲の度合いが高い「お／ご～いたします」の形は

この課では扱わない。

- (4) 特別な謙譲語と特別な尊敬語とを対照させた表を作り、一度読み合わせて、確認させる。尊敬語では「行く」「来る」「いる」が同じ「いらっしゃいます」であるのに対し、謙譲語では「参ります」と「おります」に分れるので、注意させる。

★発展指導

第49課に続き、電話のかけ方を尊敬語・謙譲語を用いて再度練習させる。その際、以下のようなカードを渡し、A・Bで役割練習をさせる。

呼び出し	A	B
1. 相手確かめる。		* 答える。
2. 自分の名前を言って、 相手を呼んでもらう。		* いないことを伝える。



相手がいない場合の対処

1) あとで電話する。

A	B
1. 何時ごろ帰るか、聞く。	* 答える。
2. その時間にまた電話することを言って、 電話を切る。	

2) 伝言を頼む。

A	B
1. 伝言を頼む。	* 伝言をメモし、確認する。
2. 電話を切る。	

Ⅲ 会 話

[指導目標]

敬語を用いて簡単なスピーチができる。

[場 面]

東京電気での実習が無事に終り、会社の人が開いてくれた送別会の席で、ラオ

がお礼のスピーチをする場面である。

[指導項目]

- (1) 「では」「それでは」…「じゃ」より丁寧な言い方。相手の出方に応じる言い方ではなく、ここでは区切りをつけて、新たな展開に持って行く合図の役割を持つ。
- (2) 「お忙しいところ」…「お忙しい」は形容詞の尊敬語、「ところ」は第46課で学習した「今食べているところです」と同様、時点を表す。「忙しいのに」の意味を含む。
- (3) 「ご出席くださいます、ありがとうございます」…第49課では扱わなかったが、「ご～くださいます」の形による尊敬語である。「出席した人」は誰かを聞いて確かめ、その人に対する敬意を込めた感謝の挨拶であることを理解させる。
- (4) 「私（わたくし）」…「わたし」の謙讓語。「わたし」より畏まった語感があることを理解させる。
- (5) 「いい勉強になりました」…自分にとって役に立った、プラスになったという意味。
- (6) 「経験を生かして」…いろいろ経験したことを無駄にしないで、役立つようにすること。
- (7) 「ごあいさつ」「ご親切」…「ご」はどちらもほかの人に対する敬意を表すことに注意させる。

★発展指導

以下の項目からテーマを適宜選び、敬語を用いて文章にまとめさせる。そのあと、みんなの前でスピーチをさせる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">*名前、国籍、年齢、会社など*家族について*自国での仕事について*日本へ来た目的、抱負*日本の印象*帰国後の計画など |
|---|

学習者にとってまぎらわしい表現・文型

	課	ページ
「しか」と「だけ」	27	16
「それで」と「ですから」と「だから」	28	27
「ずいぶん」と「たいへん」「とても」	28	28
「～ている」と「～てある」	30	36
「～（よ）うと思います」と「～（よ）うと思っています」	31	47
「～と言いました」と「～と言っていました」	33	68
「～てから」と「～たあとで」	34	73
「食べるようになりました」と「食べられるようになりました」	36	88
「の」と「こと」	38	103
「～から」と「～ので」	39	109
「～ように」と「～ために」	42	128
「～しに」と「～するために」	42	128
「～ために」と「～のに」	42	131
「～するのは難しい／易しいです」と「～やすい／にくいです」	44	142
「～たら」と「～場合は」	45	148
「～のに」と「～ても」「～が」	45	150
「～たところです」と「～たばかりです」	46	156
「～と言っていました」と「～そうです」	47	159
「～（ら）れます」と「お～になります」と「特別な尊敬動詞」	49	177

索引

		～ければ	79
～あとで	72	原因・理由	25, 105
意向形	44	謙讓語	180
意志	48	ご～くださいます	187
意志動詞	48, 84,	こと	103
	128, 141	さ	
いただきます	119	～さ	114
今にも	133	さしあげます	121
依頼	8, 65,	～(さ)せていただけませんか	169
	124, 169	～し	25
受身	92	使役	164
お／ご～します	180	しか	16
お／ご～(接頭語)	177	しかし	118
お～になります	174	自動詞	30, 143
か		自動詞・他動詞	39, 168
～かどうか	115	自動詞の受身	94
が(動作の主体)	41	自動詞の使役	164
必ず	68	します(音が)	162
かなり	86	授受表現	119
可能動詞	13	条件形	77
～かもしれません	56	助言	9, 53
から(原料)	97	助数詞	115
聞こえます	18	推測	55
疑問詞～か	112	ずいぶん	28
禁止形	60	推量	56
くださいます	120	～すぎます	139
～くて(原因)	107	接頭語	177
～く／にします	143	説明	5
敬語	172	～そうです(伝聞)	158

～そうです (様態)	133	～てしまいました	33
それで	27	～でしょう	55
それでは	187	～でしょうか	151
それに	27	～て/ないで (状況説明)	73
尊敬語	172	では	187
た		で (範囲)	21
～たいと思っています	47	～てみます	116
他動詞	36, 143	～てやります	123
他動詞の使役	166	伝聞	158
～た/ないほうがいいです	53	～という意味です	63
～ために (原因)	128	～と言っていました	66
～ために (目的)	127	どういう～	63
～たらいいですか	9	どうも	160
～つもりです	48	～とおりに	70
～てあります	36	とか	91
～ていただきます	122	～と書いてあります	64
～ていただけませんか	124	～とく (～ておく)	43
丁寧語	184	特別な謙讓語	183
～ています (結果の状態)	30, 36	特別な尊敬語	175
～ています (習慣的動作)	23	ところで	91
～ておきます	39	～ところです	152
～て来ます	135	～と読みます	64
できます	20	取り立て	17
～てくださいます	123	な	
～てくださいませんか	8	～なあ	52
～てくれ	65	～ないで (二者択一)	74
～てくれない	66	なかなか	28
～てくれないか	66	～ながら	22
～て (原因)	105	～な (禁止)	62
で (原因)	107	～なさい	64
で (材料)	97	～なら	79

～にくいです	141	迷惑の受身	94
～によると	158	目的	84, 127
に (割合)	97	や	
ね (確認)	21	～やすいです	141
～のが	99	やっど	28
～ので	109, 169	やります	119
～のです	10	～ (よ) う	44
～のに (逆接)	149	～ようです (推量)	160
～ (の) に (用途・評価)	129	～ (よ) うと思います	45
～のは	98	～ (よ) うと思っています	45
～の (名詞句)	98, 157	～ように (目的)	84
～のを知っています	102	～ようにしてください	88
～のを忘れました	101	～ようになります	86
は		～ように (例示)	70
～ば	77	～予定です	49
～場合は	146	ら	
～ばかりです	155	～ (ら) れます (尊敬)	172
は (対比)	17	わ	
は (取り立て)	23, 32,	を (起点)	50
	38, 46,	ん	
	156	～んです	5
非情の受身	95	～んですが	8
ほとんど	86		
ま			
まだ (継続)	41		
まだ～していません (未完了)	46		
まだ～ません	15		
万一	147		
見えます	18		
名詞+なら	81		
命令形	60		